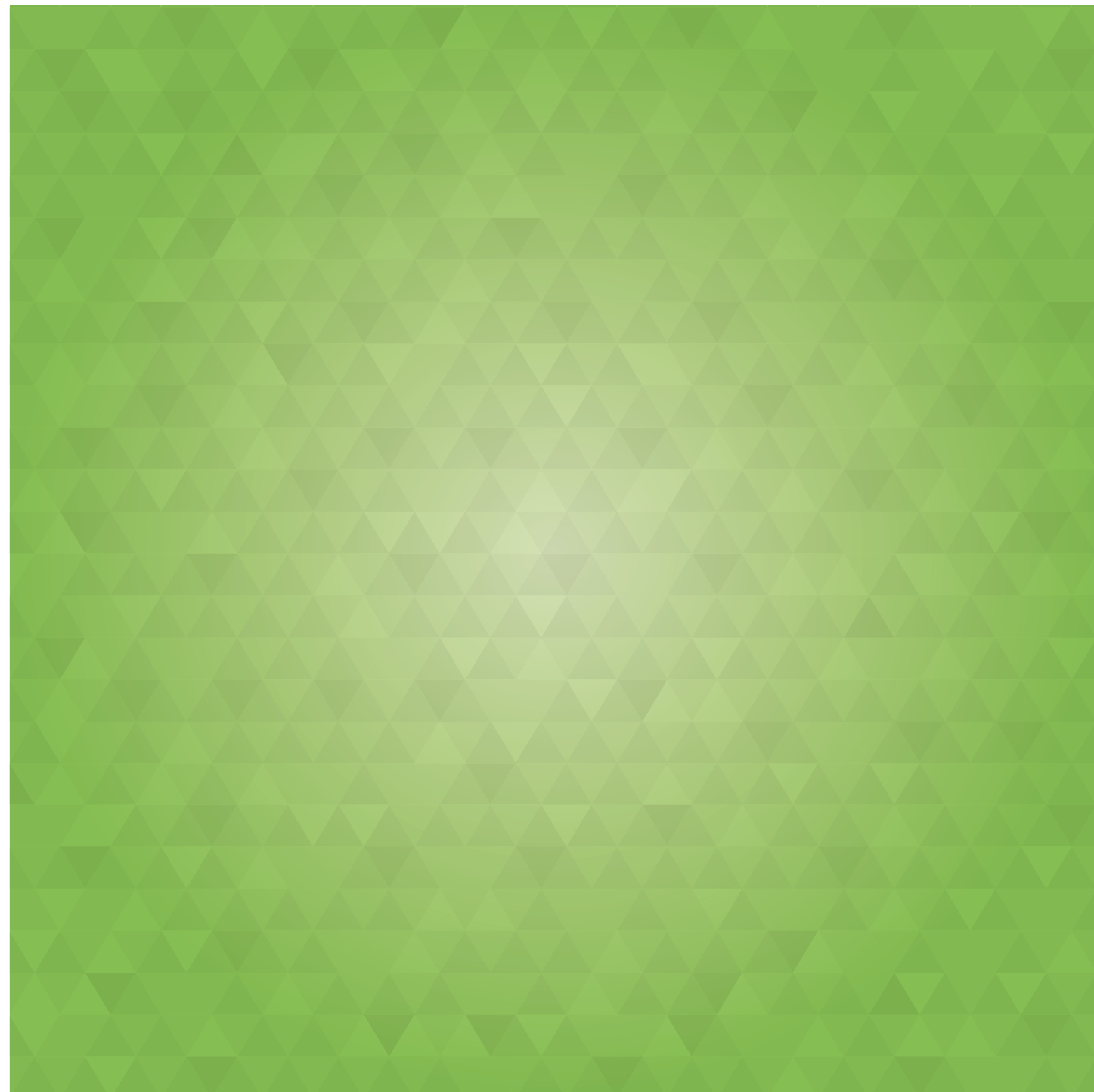


平成 28 年度 東北福祉大学

子ども支援プロジェクト

| 活 | 動 | 報 | 告 | 書 |



ガールズバンド「プリンセス プリンセス」からの
被災地復興支援寄付金に基づく活動



東北福祉大学
TOHOKU FUKUSHI UNIVERSITY

東北福祉大学

子ども支援プロジェクト

ごあいさつ

「子ども支援プロジェクト」を立ち上げて行動を始めてから、早いものでもう 3 年が過ぎました。女性ボーカルバンド「プリンセスプリンセス」様からの被災地復興支援の寄付金を基に立ち上げたこのプロジェクトは、東日本大震災で大きな被害を受けた地域で 6 年が経過した今も学力の低下や不登校気味になっている子どもたち、表面上では元気にしても心の傷が癒えない子どもたちがいるという現実を踏まえた支援と、このような支援を継続的に行うための人材育成（本学学生の将来を見据えた地域支援のためのスキルアップ）という二本の柱を基本方針として進められてきました。

初年度（2014 年度）は、ご寄付をいただいたプリンセスプリンセス様のお気持ちをどう生かしていくか、ただ備品を買ったり箱モノを作ったりするのではなく継続的な地域支援をするにはどうしたらいいか、試行錯誤を繰り返しながら進めていったというのが実情です。七ヶ浜（宮城県七ヶ浜町）、野々島（宮城県塩竈市）の各フィールドにおいて教員の指導の下でさまざまな活動を実施し、学生企画による取り組みも進めましたが、準備に時間がかかり、多くの課題がみえてきた年でもありました。

次年度（2015 年度）は、七ヶ浜、野々島での活動を引き続き実施しました。サマーフェスティバルや地区の夏祭り、ラベンダー畑づくりやカヌーを利用した自然環境教育プログラムによる体験型学習など活動を拡大し、学生企画による取り組みも参加団体が増えて活動の場も増えています（女川町ほか）。さらに仙台市若林区荒井地区での地域活性化活動、仙台市ボランティアセンター・仙

台市社会福祉協議会主催のシンポジウム「ボランティアフォーラム～今求められる子ども支援とは～」でもお手伝い出来ました。

そして今年度は、2 年間の活動を基盤に、地域への一層の浸透を図ることを心掛けてきました。子どもたちの笑顔と保護者の皆様から寄せられた声に支えられてここまで来ることができたと思っています。また推薦入試の面接で、「入学したらホームページで見た子ども支援プロジェクトに参加したい」という受験生の声も励みになりました。2017 年 2 月には、3 年間の活動の総括的報告を兼ねて、本学のキャンパス（仙台駅前の東口キャンパス）で交流イベントを開催し、300 名近い方がお出で下さいました。私たちのささやかな活動が少しずつ地域で知られるようになって、少しはお役に立てたと肌で感じました。プリンセスプリンセス様からの基金を基にしたプロジェクト活動は、ここで一応 3 年という区切りを迎えますが、支援を必要とする地域がある限り、何らかの形で私たちの活動を継続していきたいと願っております。

最後に、活動のきっかけを作って下さったプリンセスプリンセスの皆様、七ヶ浜町教育委員会教育長様をはじめ教育委員会の皆様及び各学校の関係者様、塩釜市教育委員会教育長様および教育委員会の皆様、NPO 法人野々島自然塾の皆様、情報のあんこの皆様、仙台市荒井地区の皆様、学生たちが自主企画で訪れた地域の皆様、ほか多くの皆様からご支援・ご協力をいただきました。ここに皆様への感謝の気持ちを表すとともに、今後ともご指導・ご支援を賜りますようお願いいたします。

東北福祉大学
子ども支援プロジェクト推進委員会
委員長 星山 幸男

もくじ

活動写真	5
------	---

第1章 プロジェクト概要

Ⅰ 子ども支援プロジェクト実施概要	13
Ⅱ 子ども支援プロジェクト推進委員会	15

第2章 プロジェクト実施内容

Ⅰ セッカ浜での活動	
セッカ浜町での活動	23
サマースクール	24
サマーフェスティバル	28
Ⅱ 野々島プロジェクト	
野々島プロジェクト	43
Ⅰ. 野々島プロジェクト 事前準備 活動報告	44
Ⅱ. 自然体験活動「島であそべんちゃー IN 野々島」	49
Ⅲ. 自然体験活動「初夏の島を歩こう IN 野々島」 活動報告	56
Ⅳ. 野々島プロジェクト 大学祭（国見祭）での活動報告（その1）	62
Ⅴ. 野々島プロジェクト 大学祭（国見祭）での活動報告（その2）	67
Ⅵ. 「島であそべんちゃー IN 野々島」参加者へのアンケート調査結果報告	69
Ⅲ 学生企画事業	
学生企画事業	85
Ⅰ. ことばの貯金箱 活動報告	86
Ⅱ. 創作ワークショップ 活動報告	93
Ⅲ. 希望をカタチに ～つなげよう僕らの未来～ 活動報告	100
Ⅳ. 山元町の子ども達との絆プロジェクト 活動報告	104
Ⅴ. 渡会ゼミ音楽コンサート in 南三陸 活動報告	107
Ⅵ. 燃えろ！スポフェス 2016（かるた&運動会） 活動報告	111
Ⅶ. 君とつくる未来プロジェクト 活動報告	119
Ⅷ. かんたん楽しいサバ飯クッキング 活動報告	123
Ⅳ. その他の事業	
Ⅰ. 七郷中学校「防災マップづくり」支援活動	135
Ⅱ. JR 常磐線運転再開記念イベント in こどもセンター	136
Ⅲ. みんな集まれ！感動のまなびと体験 子ども支援プロジェクト3年間の活動紹介と交流イベント	137
Ⅳ. 子ども支援プロジェクト交流イベント（パネルディスカッション）	140

第3章 総括

2016 セッカ浜町の取り組みを通して 石 原 直	143
夏休みの子供と学生の力 セッカ浜町立亦楽小学校 校長 須 藤 清	144
野々島の取り組みを通して 金 政 信	145
野々島の活動を通して 菊 地 淳	146
野々島の取り組みを通して 山 口 政 人	147
学生企画の取り組みを通して 萩 野 寛 雄	148
次年度以降の活動について 星 山 幸 男	149
協力団体・協力者一覧（敬称略、順不同）	150
平成28年度参加学生一覧	151

資 料

平成26～28年度子ども支援プロジェクト決算	157
東北福祉大学子ども支援プロジェクト基金規程	158

七ヶ浜での活動



サマーフェスティバルの朝礼の様子



みんなで準備中。たくさん子どもたちが来るといいね！



実験や物作りはいつでもドキドキ！



工具を使って上手に付けてね！



受付を通過って、子どもたちは何があるのか、わくわく、ドキドキ。



真剣なまなざしを受けて、説明も一生懸命。



この日のために一生懸命準備しました。紙テープうまく巻けるかな。



ガラス容器に思い思いの模様を彫りました。



エビゾー作り。モーターでブラシを振動させて動きます。



教える方も一生懸命。



ここはどうか。教えるのは難しい。



一人ひとりの子どもに応じた支援を心掛けました。



早く丸を付けてほしい。



よくできているね。



もうすこし。がんばれ。

野々島での活動



ようこそ野々島へ！ 島民の方からのあいさつ



島での注意事項。しっかり聞いてね



準備運動はこれでバッチリ！



島探検に出発。行ってきます！



チェックポイントはここかな？



野々島クイズ。わかるかな？



ラベンダー畑に到着



島探検ゴール！ おめでとう！



お兄さん、よろしくねー



どれを食べようかな？



みんなで食べるとおいしいね



ジェスチャーゲーム。何の動きかわかるかな？



今日は楽しかったなあ～



島の掲示板にメッセージ



楽しい思い出たくさんできたよ！

学生企画事業 その他の事業



道具・素材の説明風景



みんなでおやつをつくろう！



さあチャレンジしていこう！



今からみんなでサバ飯づくりに挑戦！



何がはじまるのかな〜ワクワク



「くうそう せいぶつ」車座になり皆で自己紹介



楽しく“はないちもんめ”を行う様子



応急手当体験を行っている様子



みんなで一緒にラジオ体操第一！



「ことばの貯金箱」の選んだ新聞記事を貼る作業の様子



みんなでモザイクアート！カラフル～



「ことばの貯金箱」活動前のアイスブレイクの風景



手形をペタペタ…綺麗な青空になりました！



じゃんけん列車をする様子



志津川高校での演奏 手拍子で観客の皆さんとリズムをとっているところです。

第1章

プロジェクト概要

I. 子ども支援プロジェクト実施概要

1. 趣旨

ガールズバンドである「プリンセス・プリンセス」のプリプリ被災地復興支援寄付金（学内に基金を設置）を基に、東北福祉大学では「子ども支援プロジェクト推進委員会」（以下委員会）を立ち上げ、東北の豊かな自然や、地域の様々な資源を活用して、地域を理解し活かせる人材を育てるとともに、被災した地域の子どもたちや配慮が必要な子どもたちの支援を、平成 26 年度から実施しております。委員会での審議、指導、運営管理のもと、今年（28 年）度は、これまでの「七ヶ浜での活動」（宮城郡七ヶ浜町）「野々島プロジェクト」（塩竈市浦戸諸島野々島）「学生企画事業」の 3 つのプロジェクトの他に、「子ども支援プロジェクト」3 年間の活動の総括として、「子ども支援プロジェクト交流イベント」を平成 29 年 2 月に実施いたしました。

2. 七ヶ浜での活動

「七ヶ浜での活動」は、大学の特性を生かしたサマースクール（学習会やもの作り教室など）やイベント（表現活動）などの取り組みを、教職員と学生が一体となって行うことを通して、地域の子どもたちに元気とやる気を取り戻す場を提供しています。今年度は 8 月 22、23 日の 2 日間に渡って七ヶ浜町立、亦楽小学校、汐見小学校、松ヶ浜小学校の 3 校でサマースクールを開催し、2 日間あわせて延べ 676 名の児童に参加していただきました。本学からは、延べ 221 名の学生が、学習指導、理科実験の実演、絵画の創作指導などを行いました。また、今年度は昨年度以上に、子どもたち一人一人により手厚く対応できるよう配慮し実施しました。

3. 野々島プロジェクト

「野々島プロジェクト」は、豊かな環境の中で自然の素晴らしさを直接感じられる体験や環境づくりの基礎を学ぶなどの取り組みを、塩竈市内の小学生、支援や配慮が必要な子どもたちを対象に、教職員と学生が一体となって行うことを通して、子どもたちに自信と勇気を取り戻す場を提供しています。塩竈市浦戸諸島の野々島にお

いて、自然体験型学習（島であそべんちゃー IN 野々島）を開催し、塩釜の児童に参加していただき、思い出に残る楽しい一日を過ごしていただきました。また、初夏の島を歩こう IN 野々島の開催や、ラベンダーの収穫、島民の皆様との交流会などを実施いたしました。

4. 学生企画事業

「学生企画事業」は、本プロジェクトの趣旨に沿った企画を学生自ら立案し、学内公募によって選ばれたサークル、ゼミなどによって事業を実施しています。世代的に子どもたちに目線が近く、また日頃のボランティア等で子どもと接することの多い学生の多様なアイデアを活用し、子ども支援を実践しています。今年度は、七ヶ浜町の小学生を対象に、「ことばの貯金箱」（NIE 活動）（三浦ゼミ）、南三陸町の小中学生を対象に、「未来に種をまく～次世代に咲かせよう防災力の花～」（Team Bousaisi）、「渡会ゼミ音楽コンサート in 南三陸」（渡会ゼミ）、仙台市若林区新井、新井東地区の小中学生を対象に、「創作ワークショップ（森ゼミ）」、「簡単楽しいサバメシ作り」（萩野ゼミ）、「かるた教室、かるた大会、ミニ運動会」（ステーションキャンパスクラブ・SCC）、名取市の小学生とその保護者を対象に、「ふぁみりあ被災地子供支援事業」（ふぁみりあ）、山本町では小学生を対象に、「子ども達との絆プロジェクト」（船渡ゼミ）が実施されました。様々な地域で開催された活動はどれも好評で楽しいひと時を提供することが出来ました。

5. その他の活動

JR 常磐線の復旧工事が完成し運転が再開したことを記念した交流イベントが、子ども支援プロジェクト推進委員会が窓口となり「山元町こどもセンター」（山下駅前）で、平成 28 年 12 月 10 日に行われました。ボランティア支援した本学学生と地元の子どもたちが、様々な企画を通して充実した時間を過ごしました。

昨年同様「子ども支援プロジェクト」の一環として、七郷中学校での総合的学習の時間を活用した「防災マップづくり」活動を支援していただきました。七郷中の

先生方と相談しながら、学内の防災士研修室と連携して、学生の力も活かし進められました。

「子ども支援プロジェクト」3年間の活動を総括して、「子ども支援プロジェクト交流イベント」を、平成29年2月11日に東北福祉大学仙台駅東口キャンパス（TFUギャラリーミニモリ）にて開催しました。本イベントは、「学ぶ」「遊ぶ」「楽しむ」の3つの柱を設け、これまでの活動の中からいくつかのプログラムを実際に子どもたちに体験していただくとともに、活動紹介のパネル展示や、ディスカッションなどを通して、多くの方々に私たちの活動をご理解いただくことを目的に開催いたしました。開催当日は、晴天にも恵まれ、延べ300名の来場者がありました。

いずれの活動も、学生主体での展開、地域貢献や支援を通して、その経験を卒業後の学校現場や社会生活の場で活かすことができる力量を身に付けた学生を育てることを目指し実施されました。また、学生企画事業においては自分たちの活動が選ばれることで自己肯定感を高め、学生のやる気と主体性を促進させるとともに実践力アップに繋がるものと考えております。

文責：東北福祉大学子ども支援プロジェクト推進委員会
副委員長 金 政信

Ⅱ. 子ども支援プロジェクト推進委員会

1. 子ども支援プロジェクト推進委員会規定

（設置及び目的）

第 1 条 東北福祉大学（以下「本学」という。）では、被災した子どもたちに対する「支援活動」と、地域の課題解決に即した「人材育成プラン」を本学学生に提供するにあたり、その実行性・効率性を高めるため、本学に子ども支援プロジェクト推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（理 念）

第 2 条 委員会は「学生自身が地域の目線軸子どもの目線で考えることの重要性を理解し、さらに連携する地域がその実践方法を学ぶ場であること」を前提に運営されなければならない。

（体 制）

第 3 条 本学内の様々な部署や教職員との連携・協力のもとより、目的達成のために必要とみられる、当該市町村や教育機関、企業、NPO 団体等との連携・協力体制を築く。

（構成員）

第 4 条 委員会は、次に掲げる教職員ならびに学外の委員をもって構成する。

- （1）学長が委嘱する本学及び関連法人の教職員
- （2）学長が委嘱する当該市町村や教育機関、企業、NPO 団体等

2 その他必要あるときは、別に関係者を出席させることができる。

（任 期）

第 5 条 前条第 1 項第 1 号に掲げる委員の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

（委員長及び副委員長）

第 6 条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。

- 2 委員長は、委員会を統括し、委員会の議長となる。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故等があるときは、その職務を代行する。

（委 嘱）

第 7 条 第 6 条第 1 項により選出された委員長及び副委員長は、学長が委嘱する。

2 第 4 条第 1 項第 2 号に掲げる委員は、学長が委嘱する。

（所掌事項）

第 8 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- （1）被災した子どもたちに対する「支援活動」と、地域の課題解決に即した「人材育成プラン」に関する事項
- （2）被災した子どもたちに対する「支援活動」と、地域の課題解決に即した「人材育成プラン」に関する事業計画、予算等に関する事項
- （3）被災した子どもたちに対する「支援活動」と、地域の課題解決に即した「人材育成プラン」に対しての学外からの寄付等による教育活動支援金の運用に関する事項
- （4）その他、子どもたちに対する「支援活動」と、地域の課題解決に即した「人材育成プラン」に関し、必要と認められる事項

（開催等）

第 9 条 委員会は、委員長が必要に応じ招集する。

2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

（事 務）

第 10 条 委員会の事務は、社会貢献・地域連携センター内に置く。

（補 則）

第 11 条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成 26 年 5 月 1 日から施行する。

2. 子ども支援プロジェクト推進委員会開催記録

第1回推進委員会

日時：平成28年11月25日（金）15：30～16：30

場所：東北福祉大学 国見キャンパス

管理棟3階 第一会議室

（仙台市青葉区国見一丁目8番地1号）

内容：

1. 平成28年度事業の進捗状況について
2. その他

第3回推進委員会

日時：平成29年3月15日（水）13：00～14：00

場所：東北福祉大学 国見キャンパス

管理棟 2階会議室

（仙台市青葉区国見一丁目8番地1号）

内容：

1. 平成28年度事業報告
2. 平成29年度以降の見通しについて
3. その他

第2回推進委員会

日時：平成29年2月1日（水）13：30～14：00

場所：東北福祉大学 国見キャンパス

管理棟 2階会議室

（仙台市青葉区国見一丁目8番地1号）

内容：

1. 2月11日（土）仙台駅東口キャンパスで開催の
「子ども支援プロジェクト交流イベント」について
2. その他

3. 名簿（敬称略、順不同）

◎星 山 幸 男	委嘱
○金 政 信	委嘱
小石川 秀 一	委嘱
石 原 直	委嘱
萩 野 寛 雄	委嘱
白 井 秀 明	委嘱
佐 藤 伊知子	委嘱
青 木 一 則	委嘱
辻 誠 一	委嘱

◎：委員長、○：副委員長

外部委員：

渡 辺 とき子	七ヶ浜町 教育委員会	教育総務課長	委嘱
菊 地 淳	情報のあんこ	代表	委嘱

第2章

プロジェクト実施内容

Ⅰ．七ヶ浜での活動

七ヶ浜町での活動

目 的

東北福祉大学は、これまで蓄積してきた教育に関わる研究成果や福祉に関する取り組みなどを基に、サマースクールとサマーフェスティバルなどの活動を学生主体で取り組みことを通して東日本大震災の被災地である七ヶ浜町に対しての地域貢献を目的としてきた。

子どもプロジェクトとしては、今年度で3年目となり、一つの区切りとなった。サマースクールとサマーフェスティバルなどの活動は、単に子どもたちの学習支援や学習意欲の向上というだけでなく、学生自身が主体的に企画実践することを通して、本学の建学理念である『行学一如』を体現するものであり、必ずや子どもたち、学生にとってこれからの学びに示唆を与えるものと確信している。

七ヶ浜町での出会いが、子どもたちにとっても本学の学生にとっても、これからの人生に必ずや生きてくるものと願っている。



実施計画

期間	項目		
6月上旬	事前準備1	サマースクール サマーフェスティバル	・学生募集 ・リーダー選出 ・説明会 ・打ち合わせ
7月上旬	事前準備2	サマースクール	・内容の確認
		サマーフェスティバル	・出店ゼミの確認 ・内容、費用の確認
7月下旬	打ち合わせ	サマースクール サマーフェスティバル	・日程の確認 ・参加学生最終確認 ・準備状況の確認 ・学生への周知 ・ゼミごと確認
8月19日	サマーフェスティバル	サマーフェスティバル	・亦楽小学校体育館にて実施 ・延べ150名の学生 8名の教員が参加
8月22日 ～23日	サマースクール	サマースクール	・汐見小学校、亦楽小学校、松が浜小学校で実施 ・延べ221名の学生 が参加

サマースクール

はじめに

今年度のサマースクールは、学校側のスケジュールの都合があり、2日間で実施した。昨年度は、中学校も対象にしていたが、子どもたち一人一人により手厚く対応できるように考え、小学校3校での実施となった。

1. 実施期日

平成28年 8月22日（月）23日（火）

2. 当日の日程

午前 8:00 けやきホール前集合
 8:15 出発（大型バス3台）
 9:40 各小学校着
 10:00 サマースクール開始
 12:00 サマースクール終了
 12:15 各小学校発
 13:10 福祉大学着
 13:20 昼食（風土） 解散

3. 活動内容

各小学校から提出された実施計画に基づいて、学年ごとに分かれての学習指導・支援

（28年度は、各小学校とも一学年6～8名程度を配置することができた。）

4. 参加人数

小学校名		参加児童数	参加学生数
22 日 (月)	亦楽	145	43
	汐見	101	42
	松ヶ浜	91	38
23 日 (火)	亦楽	140	31
	汐見	105	34
	松ヶ浜	94	33
合計		676	221

5. 活動の様子

学生は、児童とのコミュニケーションを円滑に行いながら、その場にあった指導・支援を行っていた。児童に中に入っていくのに時間を要する学生もいたが、今後の教育実習や教育実践活動等において、大いに活かされていくものとする。





6. 学生の感想

●私は今回、サマースクールに参加するにあたり、「児童との接し方に気をつける」という目標を掲げていました。なぜかという、去年参加した際に距離感が掴めず、中々児童と関わりが持てなかったという反省点があったからです。今年はその反省を生かすことができ、全体を観察しながら支援を要する子を見極めて接することができました。今回は四年生の担当でしたが、想像以上に学問に対する意識が高い子が多かったのが印象的で、児童に対する言葉がけや集中させ方などを考えさせられることが多く、とても勉強になりました。新たに児童の関心の向けさせ方や評価をする際の言葉のボキャブラリーなど様々な課題も発見することができたので、今年も有意義な活動となったと感じます。この課題は、実習の時に解決できるようにしたいです。

●私は、小学校の教師でなく保育士を目指しています。しかし子どもの教育ということに関しては通ずるものがあるので何か学べればと思い、今回サマースクールに参加してみました。担当は幼児とはかけはなれた6年生になってしまいましたが子どもたちと一緒にとても楽しく学ぶことができました。どうしたらより理解してもらえるか、どう接したらいいかなどかんがえさせられた2日間でしたが子どもたちから「わかりやすく教えてもらえた」、「楽しかった」と、最後に言ってもらえてとても嬉しかったです。今回のサマースクールでは私が教えるとい

うより子どもたちから逆に教えられるものとなりましたがとてもいい経験をさせてもらいました。この経験を、これから保育士を目指すことに活かせるよう日々努力していきたいと思います。このような機会をくださった東北福祉大学や七ヶ浜の小学校の先生、子どもたちには本当に感謝します。

●二日間、汐見小学校学校の三年生を担当しましたが、本当に沢山の事を学びました。

一日目は、まず子ども達と慣れる為に名前を早く覚え、休憩の時には、できるだけ多くの子と会話をし、一人ひとりの特徴を見つけようと努力しました。休憩中も集中して勉強する子、すぐに立ち上がって騒いでしまう子、友達にちょっかいを出してしまう子など色々な子がいましたが、その子ども達とどのように接していくか、三年生の担任になったつもりで考えました。

二日目は、子ども達も慣れてきて、積極的に話しかけてくれました。とても嬉しかった反面、勉強よりも話に集中してしまうという新たな問題が出てしまい、悩み考えさせられました。私は、短時間で集中できるよう、「〇〇分まで隣のお友達とおしゃべりしないでできるか競争してみよう。」と、ルールを決めて実行させた場面もありました。その結果、黙々と自分の課題に取り組む姿勢が見られました。

短い時間でしたが、実際に子どもと接してみて初めて分かった事や、自分自身の反省点や課題を見つける事が出来ました。良い経験になりました。

●私は、初めて TSE サマースクールのボランティアに参加しました。教育学科の先輩から勧められたのがきっかけでした。参加する前は、小学生に分かるように勉強を教えてあげられるか、とても不安でした。しかし、実際に勉強を教えていて、自分の説明したことが伝わった時にとても感動がありました。一生懸命に理解しようとする児童の姿を間近で見て、教員という職業の素晴らしさを感じることができました。自分の中で良い経験になったと思います。また、先生方の児童に対する声かけも間近で見ることができました。休み時間が終わり、2時間目に入

る時に教室の中が少し騒がしくなっていました。その時に先生方が児童の集中力を上げるために少しの間、話をしていました。先生の話聞いた後の児童は集中して勉強に取り組んでいました。先生方の対応がとても素晴らしかったので、今後の教育実習などに活かしていきたいと思いました。

- 私は3年生の担当をしました。そこでは約20名の児童が参加し、熱心に学習に臨んでくれました。私はそこに一番驚きました。その裏には先生方が日頃からの学習習慣の定着を熱心にされているからだ実感しました。また、分からない問題があっても自分から言い出せない児童が多くいました。私はこのことから教える側が自ら児童に寄り添うことが大切だと学びました。「分からない」ということを恥ずかしく思っている児童も少なくはないと感じました。よって日頃の学習から分からないと思うことと間違ふことの大切さも教えていくことが重要だと思いました。そして、休憩時間は積極的に児童とふれ合うことで児童との距離を縮め、信頼関係を築けることも実感しました。そうすることにより児童も学習や生活で困ったことがあった際に言い出しやすくなると思います。今回のサマースクールではこのようなたくさんの方のことを体験的に学ぶことができました。今回のことを活かし、これからの学生生活の学びをより深いものにしていきたいと思っています。

- 私は今年初めてサマースクールに参加しました。何回かボランティアに参加したことはありましたが、児童への学習指導というのは初めてだったので、自分に分かりやすい指導が出来るかどうかとても不安でした。

実際に参加してみて、感じたことが3つあります。第一は、児童との距離感がとても難しかったことです。仲良くなろうとすると友達感覚になりやすく、授業中の児童の私語に乗ってしまい先生に児童が注意されてしまうことがありました。先生としての児童との距離感をもう少し上手に掴められたらよかったと反省しています。

第二に、相手に分かりやすく説明することの難し

さを実感しました。かつて学んでことを私は自分で整理して頭の中に入れていますが、その整理の仕方は人それぞれであって、自分がこの方法で理解していたものを相手も同じように理解できるわけではないのだということを学びました。しかし、説明して理解してもらえた時の喜びはとても大きいものでした。どうすればその子が理解できるのかを考えながら説明していききました。理解してもらった時、本当に相手を思うことの大切さを学びました。

最後は、私の知識量の少なさです。分からない問題に対してただ答えを教えるのではなく、その答えにたどり着くまでの過程を大切にしたいと思いました。例えば、理科や算数の単位の変換、漢字などです。「覚えて。」と言うのは簡単なことで、児童にとっても考えるよりも覚える方が簡単なことだと思います。私が担当したクラスの児童は分からない問題の答えを求めていました。私はその答えを教えてあげることは出来ませんが、なぜその答えになるのかという説明になると答えられないものが多々ありました。説明するための知識が圧倒的に足りないことを実感しました。もっと私に知識があれば児童からの質問に対してより良い答えを出し、分かりやすい説明が出来たのではないのかと思いました。

以上の3つがサマースクールで感じたことです。

- 私は今回のサマースクールで、児童とのコミュニケーションの取り方と分かりやすく教えるにはどのような工夫が必要なのかという2つの目標をもって参加しました。その中でも児童と同じ目線で話したり、問題を教えたりすること教室をまわって迷っている児童がいたら自分から声をかけることが大切なことだとわかりました。普段の授業で習ったことがありましたが、実際に自分で行くと自然と動くことができなかったことが多くまだまだだなと感じました。先生方は自然と「ここまでとけたの。すごいね」と児童を褒めたり、「どこまでとけた？一緒にやってみよう」とプラスの声をかけたりしていました。また、基礎まで戻って「ここの公式は覚えている？」と話していました。児童も一生懸命に考えていて短い時間でしたが非常に内容の濃い時間になっていま

した。児童が集中して過ごすためには先生の声かけが大切だと感じました。

サマースクールを終えて

サマースクールを実施後、どの学校からも子どもたちにとってとても有意義な機会であり、これからも継続し

てほしいというお話を伺った。また、参加した学生にとっては、1 年生から子どもたちに直接指導するという機会は貴重であり、学生の反省からも多くのことを学んだことが分かる。これからも、子どもたちにとっても学生にとっても有意義なものとして、取り組んでいくことを考えていきたい。

サマーフェスティバル

はじめに

サマーフェスティバルは、昨年までサマースクールの後に実施していましたが、小学校の夏休みのスケジュールを検討し、8月18日(木)に実施しました。昨年度は汐見小学校体育館を会場としたことで、ほとんどの参加児童が汐見小学校の児童でしたが、他校からの要望もあり、今年度は亦楽小学校体育館を中心に行いました。

当日の参加児童数は約150名、保護者が約30名で大変盛況でした。各ブースの内容を考えた学生は、子どもたちとの触れあいを楽しみながら充実した時を過ごすことができ、企画から実施まで、多くの学びを得る機会となりました。

1. 各ブースの取り組みから

(1) 手作りうちわ 青木ゼミ

① 内容

私たち青木ゼミは手作りうちわ作りを行いました。



上の写真のように折り紙を花などの様々な形に切り抜きそれをうちわに貼り付け、自分だけのうちわを作ってもらいました。



また、裏面には「TSE サマーフェスティバル2016」と白枠を設け子どもたちが「TSE サマーフェスティバル」に参加したという思い出に残ればよいなと思いました。またそこを子どもたちが好きなようにペンで塗ったり、折り紙をちぎって張り付けたりなどしてもらい、さらに子どもたちの自分らしさを出してもらいました。

② 準備物

- ・手作りうちわキッド 100枚分
- ・折り紙 400枚程度
単色だけではなく、様々な柄物も用意
- ・水性顔料マーカー(水性ペン) 5セット
- ・ハサミ 5本
- ・のり 5本
- ・ラメのり(青赤金銀) 各2本ずつ

③ 感想

今回のうちわ作りはゼミの先生である青木先生から「普通にうちわを作るより、美術性を持たせたほうが子どもたちもより楽しんで作ることができる」というアドバイスを頂き、それをもとに行いました。

うちわの作り方としては、子ども一人に対し、ゼミの学生1人がつき、子どもに作り方や折り紙の切り方を教えながらうちわを作っていました。子どもたちと会話をしながらうちわを作ることができ、子どもたちだけでなく我々ゼミ生もうちわ作りを楽しむことができました。また、我々が用意していた折り紙の切り方や塗り方などのアイデアより、子どもたちの方が様々なアイデアを持っており、子どもたちの柔軟な考えや発想に驚かされることが多々ありました。子どもたちとの二人三脚で行うことができたサマーフェスティバルであったなと感じました。

④ 反省点

我々が想定していたより、子どもたちがうちわ作りに参加してくれたため、ハサミやのり、ペンなどの用意が



少なかったなと感じました。またうちわ作りに「ラメのり」というキラキラしたジェル状ののりを用いたのですが乾くのがとても遅く、これを使用した子どもたちには完成後すぐにうちわを渡すことができず、少し時間をおいてから取りに来てもらうようにしてしまい、材料選びは慎重に行わなければならないと実感しました。

(2) ペットボトルで風鈴づくり 安藤ゼミ

①内 容

ペットボトルを利用して風鈴を作成しました。作業を簡略化するため、事前にペットボトルを切りキャップに穴を開けたものをゼミ生で持ち寄り使用しました。



(作成の様子 2016.8.18 学生撮影)

②準備物

- ・ペットボトル (100 本程度)
- ・ビーズ (様々な種類の物を)
- ・紐 (ビーズ同様、種類を多めに)
- ・つまようじ
- ・鈴 (ペットボトルと同じ個数になるように用意)
- ・きり
- ・ハサミ
- ・シール
- ・マスキングテープ
- ・穴あけパンチ
- ・マジックペン

ビーズが床に転がり落ちて拾うのに苦労したので、ビニールシートなどを敷いた上に机を置くなどの工夫が必

要だったと思います。

③感 想

「たくさんのゼミが集まって出来たことで、様々な種類の企画があって良かったです。子どもたちも思いおまいのブースに行けたと思います」

「ゼミを通しての活動は色々あったけれど、子どもとの交流は初めてだったので良い経験になりました」

「子どもたちと関わる機会がなかった中、この企画で良い経験をしたと思います。子どもたちのひと夏の思い出となったのではないかと思います。計画から当日まで準備など活動が続けていき、深く関わりを持てたことはとても良い経験になりました」

「子どもたちへの接し方は、実際にふれあってみないと分からないので、とても勉強になりました」

「いつもは中学生や高校生を教える目線ですが、小学生と接することはとても勉強になりました。」

以上のように、子どもたちと関わる事が出来たことで自分にとって良い経験となったと感じているという感想が多かったです。ゼミ生同士で協力してブースを運営したことで、ゼミ内の関わりも深く持つことが出来たのではないかと思います。

④反省点

- ・制作に時間がかかった為、より短時間で多くの子どもたちが楽しめるレクや工作を考えたいと思います。
- ・より小学生の目線になってブースの内容・接し方を考えたいです。
- ・看板やブースの配置など準備不足があったので、来年は具体的に計画して臨みたいです。
- ・ゼミ内での当日の活動内容の把握を準備の段階で確認しておくべきだったと思います。
- ・人数が少なく当日の朝にばたばたしてしまった為、応援を頼んでも良かったのではないかと思います。
- ・中等教育専攻の人にも良い経験となると思うので、ぜひ参加してほしいです。
- ・参加しているゼミ同士での交流があれば尚楽しかったのではないかと思います。

以上のように、準備不足やブース改善にあたっての反

省点が見つかりました。今回、中等教育専攻のゼミが安藤ゼミのみだったので、来年以降は中等のゼミの参加が増えることに期待したいです。また、機会があれば来年度も参加したいという前向きな意見が多かったです。

(3) スライム作り・ストラックアウト 石原ゼミ2年

①内 容

石原ゼミ2年では、スライム作りとストラックアウトをしました。スライム作りでは、ホウ砂と洗濯ノリを使い、様々な色のスライムを作りをしました。ストラックアウトでは、今、大流行しているポケモン絵の的をし、ストラックアウトをしました。的を当てたら、ポケモンゲットということで、すべてのポケモンを捕まえることができれば、ポケモンマスターとして、記録をとりました。また、伝説ポケモン絵のきをきつくし、ポケモンに難易度を加えました。工夫した点は、学年に合わせて的からの距離を離して、どの学年でも楽しめるようにしました。



②準備物

スライム作り

- ・ホウ砂（作成用）
- ・洗濯ノリ（作成用）
- ・ポリチューブ絵具（作成用）
- ・割りばし（作成用）
- ・ペーパーカップ（作成用）

ストラックアウト

- ・ビニールテープ（ボール用）
- ・模造紙（絵用）
- ・ペン（模写用）
- ・新聞紙（ボール用）
- ・段ボール（土台）
- ・ガムテープ（貼り付け用）
- ・紐テープ（支え用）

その他

- ・スタンプ
- ・呼び込み用の看板（模造紙）

③感 想

今回、ゼミ生で参加し人数を生かして、2つのコーナーを設けて臨みました。スライム作りでは、児童たちが主体的に活動に取り組んでいて、児童の積極性が現れていました。学校でスライムを作成した児童が多く、スライムを作る過程を把握している子供たちが多く作り方が分からない児童に丁寧に教えることができました。

ストラックアウトでは、今流行しているポケモンGOにちなんでポケモン絵の的にした結果、たくさんの児童に遊んでもらえ、何回も挑戦する児童も見られたため、児童も自分たちも楽しく遊ぶことができました。

④反 省

反省点は、スライム作りでは予想を超える児童が作りに来てくれ、用意していた材料が切れてしまったことです。そのため、ブースに同じ児童が来ることを想定し、用意する数量を考えるべきでした。

ストラックアウトでは、力の強い児童が多く、投げたボールで的が壊れてしまい、土台が不安定になってしまった。そのため、強度を強くするために、紐テープですべての的を繋ぎ強度を増す必要があったと思いました。

来年は、今回の反省を生かし、予想以外のことにも対応できるよう準備をし、サマーフェスティバルを盛り上げていきたいと思います。

(4) キャンドルづくり 石原ゼミ3年

①内 容

ジェルキャンドルづくりのコーナーを担当しました。ビーズなどを入れる手伝い、熱したジェルを流し込むなど役割分担をして行いました。

②準備物

割りばし、グラス（90個）、ビーズ・貝殻（25袋）、カラーサンド各種（400g×14個）、ふせん、タコ糸、プラスチックカップ（10個入り）、水張り用バット（トレイ、タッパなど）、ジェルワックス（1kg×2つ）、DIYキャンドル用座金（100個）、キャンドル芯（10m）新聞紙、延長コード、ホットプレート、小鍋（2個）、セロファンテープ、ブルーシート

③感 想

私たちは、昨年人気だったジェルキャンドルコーナーを今年も担当しました。昨年の反省点を生かして、材料を選び当日の動きを確認しました。

まず、当日までの準備についてです。ゼミで分担して必要な材料を集めました。今年のサマーフェスティバルはお盆明けということでなかなか全員の予定を合わせることができず大変でしたが、当日参加できない学生も含めみんな協力して無事に材料を集めることができました。



そして、サマーフェスティバル当日です。事前にキャンドルの試作を作る時間がなく、上手くいくのか不安でしたがジェルキャンドルを作ったことがある学生を中心に手際よく進めることができました。昨年同様たくさんの子ども達がコーナーに集まりました。女の子だけでなく男の子も、さらに小学校や児童館の先生、保護者の方々にも楽しんでいただきました。カラーサンドをグラスに入れ層を作ることは低学年には難しかったようですが、ビーズや貝殻を並べることは簡単にできるため、小さな子どもから大人までみんなが楽しめるコーナーにすることができました。



限られた時間の中で、計画を立て準備することは簡単ではありませんでしたが、子ども達の楽しんでいる様子を見て今年も参加して良かったと思いました。子ども達にとっても私たち学生にとっても夏休みのいい思い出となった貴重な時間でした。

④反省点

一つ目は、材料を準備し始めるのが遅かったことです。テスト期間を避け8月に入ってから準備したため、急いで材料を集める結果となりました。特に同じグラスを90個用意するため直接店舗でお取り寄せをしましたが、受け取りまで1週間かかり、帰省して人がいない中で材料を運ばなければいけない状況になってしまいました。

二つ目は、材料が余ってしまったことです。グラスのサイズや中に入れる装飾の量によってジェルワックスの量も変わってくるため予想が難しく、ジェルワックスが先になくなってしまいました。何人か作れないまま終わってしまいました。

二つの反省点の改善するためには、早めに計画、準備

をし、事前に試作品を作って量を確かめるなどの時間の余裕が大切だと考えました。

(5) 写真立て作り 上條ゼミ

①内 容

上條ゼミではアイス棒を使って写真立て作成を行いました。

写真立てはアイス棒をテープでつなげて、デコレーションするというもので子どもたちはとても楽しそうに取り組んでいました。およそ50人ぐらいの子どもたちが遊びに来てくれました。

②準備物

- ・アイス棒 200本
- ・マスキングテープ 10個
- ・ボンド 5個
- ・デコレーション物 200個
- ・看板(手作り)



③感想

今回、このサマーフェスティバルはゼミ内で一致団結し、子どもたちに楽しんでもらえたとても充実した活動でした。その中で私が一番うれしかったことは自分たちのゼミのブースで遊んでくれた子どもたちが「楽しかったよ！」と笑顔で言ってくれたことです。子どもたちの

こういった言葉や楽しんでいる姿は自分をとても明るい気持ちにさせてくれました。その時、こういった子どもたちの笑顔を見ることが教師のやりがいにつながるのかなと思いました。子どもたちの笑顔を引き出す。そういった教師になりたいとこのサマーフェスティバルで強く感じました。

④反省点

- ・準備を始めるのが遅れてしまい、準備が終わるのがぎりぎりになってしまいました。そのため、夏休みに入る前に準備に取り掛かるべきだと感じました。
- ・やることが明確に決まっていなく、あとあと焦ってしまったので計画立てをきちんと行うことが大事だと思いました

(6) 熊谷ラボ(色水の実験と工作) 熊谷ゼミ

①内 容

私たち熊谷ゼミでは、水溶液が酸性か、アルカリ性かで色が変化する、紫キャベツから抽出した色水を使って、コーヒーのペーパーフィルターを花びらのようにして作った花を染める色染め工作と、ハガキサイズの画用紙に、色水を使って絵を描く、お絵描きを催しました。

ブースの流れは、まず子どもに色水が変化することを実験と称し、教えることから始めました。実験で酸を加えた時、アルカリを加えた時とで反応が違おうと実感した後、その性質を使い、工作をする旨を伝え、色染めとお絵描きのやりたい方へ移動させ、工作を行いました。

工作では最低限のアドバイスをして、どうするか、などは子どものしたいように、という方針をとりました。

②準 備

準備物は紫キャベツ、酸性の水溶液、アルカリ性の水溶液、各工作の準備です。

紫キャベツは大学付近のスーパーマーケットに10個ほど取り寄せをお願いしました。当日千切りにできるスペースや時間もないため、受け取った日に各自持ち帰り、千切りにし、冷凍したものを当日持参しました。また、水溶液を作っておき、保存するというのは色の出が悪く

なったり、傷んでしまったりというデメリットが出たため避けました。

酸性、アルカリ性の各水溶液は、酸性は食用酢、アルカリ性は液体石鹼としました。児童にとって身近なもので、且つ安全なものを選びました。

色染めの準備はコーヒーのペーパーフィルター、ストロー、ホチキス、小さいサイズのスプレー容器、深さのある器を用意しました。フィルターを染めていくのですが、手で持つと色水で手が濡れてしまうので、花の根元にストローをホチキスで取り付けます。それにスプレー容器で酢や石鹼水を吹きかけました。

お絵描きは筆、筆洗い、画用紙を準備しました。また、色水を取るため、ペットボトルの底を切り取ったものを活用しました。

③感想

「沢山子どもが遊んでくれた」「楽しそうにしてくれて嬉しかった」などの楽しかった、よかった、というゼミ生の声が多く聞こえました。また親御さんからの「すごい」という声も聞こえ、興味を持ってもらえました。初出店で不安も多くありましたが、みんなが協力して子どもたちを楽しませることができたので、大成功だと思います。

④反省

乾かす時間がかかってしまったり、匂いがあったりし、持ち帰るための配慮が足りなかったこと、子どもたちがもっと興味を持てるよう、事前準備をもっとしっかりとしておきたかったこと、色染めの花は子どもが作るには作業が細かすぎるため前もって作っておいたほうがよかったこと、また、キャベツが予想よりもはるかに多く



余ってしまったことが挙げられます。

同じ出し物でリベンジがある際は改善していきたいと思います。

(7) モーターブラシづくり (エビゾー) 小石川ゼミ 2 年

①内容

好きな形のブラシにモーターを付けて、モーターの振動を利用して動きだすおもちゃ (エビゾー) 作りを行いました。針金やビー玉等の装飾品によって一人ひとり違ったエビゾーを作ることができました。

②準備

- ・ブラシ
- ・モーター
- ・みの虫クリップ
- ・電池ボックス
- ・単三電池
- ・網戸用ゴム
- ・ホットボンド
- ・ペンチ
- ・装飾品 (ビー玉、目玉シール、カラー針金など)



③感想

サマーフェスティバル当日、最初は子どもたちが作りに来てくれるか不安でした。始まってからすぐは少なかったのですが、何人かが作っている様子を見て、「何だろう？面白そう！作ってみたい！」という子どもたちが増え、多くの子どもたちが来てくれました。作り方を教え、子

ども達がどこにモーターを付けたら動きやすいかななどを自分なりに考えて、ものづくりに真剣に取り組む姿を近くで見ることができました。また、完成できた時にはとても嬉しそうに笑顔で見せてくれたり、床で遊んでくれたりする様子を見て私達自身も参加して良かったなと感じました。

④反省点

本番で行う前から、電池やホットボンドを使用する時に火傷や怪我が心配で「気を付けてね」という声掛けはしていましたが、複数の児童がホットボンドの熱い部分に触ってしまうことがあったため、もっと安全配慮をしっかりとしなければいけないと思いました。

子ども達自身が最終的にどのような作品にしたいかという自分の考えを持っているため、もう少しコミュニケーションを取りながら、なるべく子ども達の思い描く完成形に近づけてあげられるようにしたいと思いました。

完成しても後から、上手に動かすことができず、直してほしいという児童が何名か来ました。直してあげることができなったり、直すことができて時間もかかってしまうことがあったため、しっかり対応できるように事前にもう少し準備をしたり、対応できるようにしておくべきだったと感じました。



(8) ペットボトルロケットを飛ばそう 小石川ゼミ3年

①内容

小石川ゼミ3年はペットボトルロケットを飛ばす実験を行いました。昨年度実施した液体窒素の実験は日常生

活や学校での学習活動と関連がなかったため、今年度は学校の授業へとつながるような実験を行いたいと思ったこと、昨年度のサマーフェスティバルでの児童の参加は小学1年生から3年生の参加が多かったことから、第4学年理科での「空気と水」の単元と関連のあるペットボトルロケットを飛ばす実験を選択しました。

ペットボトルロケットは1.5Lのペットボトルを使用して作成し、自転車用の空気入れを用いて空気を入れて、空気の圧力によって水が噴射され、その勢いで飛びます。ロケットは高速で飛び出し、飛距離は100mほどです。

ロケットの製作と発射台に関しては、市販されているキット(5000円程度)を使用しました。また、ロケット本体の製作には時間がかかることや、児童の人数分のペットボトルを大量に集めることは困難だったので、あらかじめゼミ生が製作し、それを児童が飛ばす内容にしました。



②準備物

- ・ペットボトルロケット 5機
- ・ロケット発射台 3台(市販品購入)
- ・バケツ5個
- ・ろうと(PETに水を入れるとき便利) 3個
- ・自転車用空気入れ 3台

③感想

子どもたちは私たちに言われたとおりに水を入れ、空気入れを使って飛ばしていました。思っていた以上にロケットが飛び、子どもからは何度も歓声が上がっていました。2回目はより高く遠くへ飛ばそうと、空気をたく

さん入れようとしたり、水をたくさんいれたり、ロケットの角度を調節したりと、子どもたちに工夫しようとする様子が見られました。

今回の実験のねらいは「空気と水の性質」について知ることでした。水を入れすぎると飛ばないことや、空気をたくさん入れると飛ぶといった、水や空気の性質を子ども自ら発見していました。

これらの発見は今後の学習に役立てることができるとともに、自分で試行錯誤をして答えを導いた経験を理科の実験等で生かせるものだと思います。私たちも子どもたちが意欲的に活動しているのを見て、時間をかけて準備できてよかったと思いました。

④反省点

何度もロケットを飛ばすため、あらかじめ用意した機体が破損してしまいました。予備ロケットを製作する必要がありました。

また、ペットボトルロケットは高速で遠くまで飛ぶので校庭の広さに注意することと、人が周りにいないことを確認してから飛ばすように子どもへ指導することが必要だと思いました。

(9) うちゅうじんのたまご! ?をつくらう 白井ゼミ

①内 容

L 型発酵乳酸カルシウムを溶かした水と、アルギン酸ナトリウムを溶かした水をそれぞれ用意し、食紅で色をつけたアルギン酸ナトリウム水をおたまやスプーンやスポイトを使って少し上の方から L 型発酵乳酸カルシウム水にトポンッと入れると、薄い膜で水の中に閉じ込めたものができます。それを「うちゅうじんのたまご」と称して子どもたちと一緒に作成しました。

②準備物

L 型発酵乳酸カルシウム 1 袋 (600g)、アルギン酸ナトリウム 2 袋 (50g)、食紅 (赤、緑、黄色、青) 各 1 個、ボール (4 個)、お玉 (2 本)、スプーン (10 本)、スポイト (2 本)、キッチンタオル (4 ロール)、新聞紙、ガムテープ適宜、持ち帰り用ビニール袋小 (200 枚)、長机 (3 台)、椅子 (5 脚)



③感 想

サマーフェスティバル前日まで続いた台風の影響により、事前の準備に参加する人数が減ってしまい、当日はさまざまな不安がある中での活動となりました。しかし、サマーフェスティバルが開催されると、「宇宙人のたまご」という子どもの興味を誘うようなブース名からたくさんの子どもに参加してもらうことが出来ました。また、全員が活動を通して子どもと触れ合うことで、共に活動する楽しさや喜びを、学生側も感じる事ができたことが大きな収穫だったと思いました。

活動中の子どもからは「できた!」「すごい!」などの喜びや驚きの声が多く楽しんでもらえてとてもよかったと思いました。そういった子どもの素直な感想を間近で聞くことができたことも、とても貴重な体験をさせてもらったサマーフェスティバルであったと感じました。

④反省点

反省点としては以下のことがあげられます。

- ・スタンプラリー用のスタンプの準備を怠ってしまったため、前日などにゼミ内で確認をしておくとうい。
- ・活動の途中で L 型発酵乳酸カルシウムを溶かした水が不足し、追加で準備をすることになったため、前日の準備の段階で多めに準備をしておくよい。
- ・子どもを活動へ勧誘する係の者は、口頭だけの勧誘ではなく、実際に作品を子どもたちに触らせながら誘うと、より興味をもたせることができる。
- ・出来上がった作品を水と一緒に小袋に入れ渡したが、子どもが他のブースを回っている際に落として床を濡らしてしまうことがあったため、口を留められる袋を用意した方がよい。

(10) スノードーム作り 土生ゼミ

①内 容

ペットボトルでスノードーム作り。家庭でも簡単に用意できるペットボトルを使用して洗濯のりと水で自分のオリジナルスノードームを作るというものです。好きな色、好きな飾りを使って楽しく作成できるようにしました。



②準備物

ペットボトル、洗濯のり、ビーズ、ラメ、カラーテープ、絵の具、ウェットティッシュ、ラミネートシート、シール



③感 想

私たちのゼミは今年は四人での参加となり、準備など様々な面で大変なことがありました。正直当日まで不安はありましたが、土生先生やゼミのメンバーで協力しながら当日は子供たちと共に楽しむことが出来ました。私たちのゼミのスノードーム作りは予想以上にたくさんの

児童が集まってくれて、楽しそうに笑顔で作っている姿を見て本当に参加して良かったと思いました。

④反省点

反省点として、大きく二つあげます。

一つ目として、準備物が余り過ぎた点です。洗濯のり、ペットボトル、共に準備した量の約半分ほどしか実際に使用しませんでした。前もって分量や子どもの参加人数、実際に行う場所の広さ、効率などの配慮をもっと慎重に行えば、防げた課題でした。

二つ目に、スノードームの中に入れるシール同士がくっついてしまった点です。紙にシールを貼って、ラミネートをし、余分な部分をハサミで切って作ったものに関しては良かったと思いますが、空気の入った立体感のあるシールを準備し、使用した方は、何個か入れると粘着部分同士がくっついてしまい、完成したスノードームを振った時にシールが見えなくなってしまう場面が何度か見られました。シールの一人当たりの使用枚数や、粘着部分についての配慮がもっと必要でした。



(11) 釣り堀ゲーム・ボーリング 黄ゼミ

①内 容

黄ゼミでは釣り堀ゲームとボーリングの活動をしました。釣り堀ゲームでは魚に点数を付け30秒間に釣れた得点を競いました。また、その点数の1位から3位をボードに明示して、子供たちのやる気を起こさせる工夫をしました。前半と後半で時間に変化をつけたり、魚の数を

減らしたりと子供たちが飽きないような工夫も施しました。

ボーリングでは、ピンに子供たちに人気のキャラクターをつけ楽しい雰囲気作りを心がけました。そして、ピンにも点数をつけ釣り堀ゲーム同様に点数を競いました。

それから、釣り堀ゲームとボーリングの2つの合計得点の結果で景品に差をつけました。具体的には、150点以上で金メダル、それ未満はメダルという形をとりました。また、参加賞として折り紙で作ったカメラ、カエル、風船、手裏剣を準備しました。ただ、もらえるだけでなく遊べるということも考え子供たちに人気の4つにしました。



②準備物

釣り堀に使ったもの

- ・ビニールプール（中に割いたスズランテープ）
- ・竿（割りばし、タコ糸、磁石）
- ・魚（色画用紙、クリップ、目玉）
- ・ホワイトボード（順位を明記するもの）

ボーリングに使ったもの

- ・ペットボトル（中に色水を入れてピンとして使用）
- ・キャラクターを印刷したもの（ピンに貼るもの）
- ・段ボール（まわりに色画用紙をはりガーターとして使用）

その他

- ・スタンプ
- ・呼び込み用の看板（段ボール）
- ・景品渡し口、受付用ポスター（画用紙で作成）
- ・景品（主に折り紙で作成）

③感想

本番は一人一人が役割をもって参加したこともあり大きな問題もなくスムーズに運営することが出来ました。「少しでも子供たちの夏休みの思い出になるように」と学生で話し合いを重ね準備を進めてきました。魚釣りゲームでは制限時間を決めたことや順位を子供たちに分かるように明記するという工夫を凝らした結果、何度も何度も挑戦してくれている子供が多く見られました。自分たちで考えた工夫で子供たちの競争心を引き出したことや子供一人一人のアイディアを目の当たりにすることが出来て嬉しく思いました。

今回サマーフェスティバルに参加して子供と関わっていくうえで重要な一人一人の子供に合わせた対応の必要性を改めて実感しました。

④反省

予想以上の子供たちが参加してくれたため途中で景品が不足してしまいました。魚釣りゲームの上位をボードに明記させることによって子供たちが競争し何度も挑戦してくれるということを考え対応策を考えておくべきでした。また、魚釣りゲームでは子供たちの竿を同士が何度も絡まってしまう場面が見られたため、立ち位置や人数などを計画に頼ることなくすばやく臨機応変に対応すべきでした。今回の反省を生かして今後は予想外のことへの対応法も準備の段階で考えていきたいです。

(12) ことばの貯金箱ワークショップ 三浦ゼミ

①内 容

活動としては、NIE（Newspaper In Education）活動の一環である「ことばの貯金箱」を行いました。活動内容は、新聞紙の中からお気に入りの言葉や写真を切り抜き、台紙に貼り付けるという活動です。当日の流れとしては(1) ビニールシートの設置 (2) 活動に必要な備品（マジックペン・画用紙など）の用意 (3) 子どもに呼びかけ活動 (4) 本活動 (5) 後片付けの大まかな流れで1日進めました。

②準備物

マジックペン 色画用紙 はさみ のり ビニールシート

③感想

まず、はじめに、先にも挙げた「ことばの貯金箱」という活動は過去2年間七ヶ浜にて、三浦ゼミが行ってきた子ども支援プロジェクトの一つです。本活動において、子どもたちは気に入った言葉や写真を切り取ったら「チャリーン！」と言い、それを聞いた周りは全員で「イイね〜！」と声を出します。これが非常に大切で、これ一つで活動に活気が出て、子どもたちにも笑顔が増えます。実際に活動でも、「チャリーン」といった子どもたちは笑顔で、とても楽しそうでした。

また、普段から新聞を読む習慣がない小学生たちが、新聞と向き合ってどの写真、言葉がいいのかと考える姿の中に学びがあるのでしょう。大学生はその中で、相談に乗ったり、提案したり、安全面に目を配ったりすることを通して、子どもたちとの付き合いを学んでいきました。



④反省点

反省点としては、子どもたちが切り取る言葉の中に人を誹謗中傷するような内容を切り取る子どもに対してどのような声掛け、配慮をしていくかをうまくできなかったことが挙げられます。そのような言葉を切り取らずにいけるかは、やはり事前の声掛けが非常に重要ではないだろうかと考えられます。一方で、事前準備がうまく出来ずに、当日の序盤は思うように動けなかったことも反省点の一つです。実際、初めてのことで予想していくことは困難なことで、仕方ないことです。しかし、前もって経験者である先輩や担当教員に実態を少しでも事前に把握することが必要であると思います。



(13) ヨーヨー釣りとスーパーボールすくい 和田ゼミ

①内容

ヨーヨー釣りとスーパーボールのコーナーを担当しました。ヨーヨーに水を入れる担当と、子ども達が取ったヨーヨーとスーパーボールを拭いて渡す担当とにわかれて活動しました。



②準備物

ヨーヨーセット、こより、スーパーボール、紙と網のポイ（紙のポイだと低学年の子ども達には難しいかもしれないと思い、取りやすい網のポイも用意）、タオル、ビニールプール、バケツ、ブルーシート

③感想

私達は、縁日をイメージしてヨーヨー釣りとスーパーボールすくいを行いました。初めてのサマーフェスティ

バルで、最初は何をどのくらい準備していいのかわからず、他のゼミや先輩方からアドバイスや助言を頂きながら準備をしました。

当日までの準備では、なかなか皆の予定が合わなかったにもかかわらず、道具はどこにでも売っているからいつ買っても大丈夫だろうと安易に考えていました。しかし、なかなか近場に売ってはおらず、前日に蒲町にある株式会社やまぐちに行き全で一気に購入しました。前もって調べたり、分担して買いに行くべきだったと少し反省しました。

当日、予想以上に沢山の子も達が来てくれました。子ども達だけでなく、児童館の先生方や保護者の方々、他のゼミ生の人達にも楽しんで頂けました。何より自分達自身が子どもとお話をしたり一緒にヨーヨーをやったりなどとても楽しめました。

ゼミでの初めての大きなイベントで、皆で協力して作業し、メンバー同士の仲も深まったと思います。私は司会もやらせて頂き、夏休みにとても貴重な経験ができました。自分的としては、失敗の方が多かったのですが、今後その反省を生かしていきたいと思います。



④ 反省点

前もって準備をしたり、皆で持ち物や当日の動きをもっと確認すべきだったと思いました。全然余裕がなくて、とりあえず頭に浮かんだ必要なものだけ買ったりしたので子どもが取ったヨーヨーやスーパーボールを入れる袋が用意できておらず、「入れる袋が欲しい」と子どもに言われる場面がありました。また、水を入れるバケツを持っていくのを忘れてしまいましたが、小学校から借りて何

とかやり切れました。もしもの場合を考えたり、余裕を持って何事も準備するべきだと思いました。

(14) 楽器作り体験・楽器演奏 渡会ゼミ

① 内 容

(a) 楽器作り体験

吹くと音が鳴る「ホーホー笛」と、振ると音が鳴るマラカスのような「ガンザ」という楽器を子どもたちと作りました。

(b) 楽器演奏

子どもに人気のある曲を選曲した、自分たちの演奏の他に、楽器作り体験で子どもたちが作ったそれぞれの楽器を用いて1つの曲を完成させる参加型の演奏、また全体で楽しめるレクリエーションを行いました。

② 準備物

(a) ホーホー笛

- ・空の乳酸菌飲料の容器…80個
(大きめサイズの容器を使うと、クリップとのサイズが調度合って良い)
- ・牛乳パック…15枚
(9cm×5cmに切ったものを100個程)
- ・クリップ
- ・テープ、はさみ

(b) ガンザ

- ・フィルムケース…30個
(空の乳酸菌飲料の容器でも代用可)
- ・ビーズ類…多種多彩
- ・フィルムシート…多種多彩
(5cm×5cm程の正方形に切っておく)
- ・輪ゴム
- ・油性カラーペン

③ 感 想

楽器作り体験では、2つとも作りが簡単であるので、低学年の児童でも製作しやすく良かったと思います。

「ガンザ」では、ケースに絵を書きたがる子どもが多かったので、空の乳酸菌飲料よりフィルムケースの方が絵を書きやすく人気でした。また、本来フィルムケースには

使わないはずであったフィルムシートが思いのほか人気であり、蓋の間に挟んで飾り付けたり、蓋にシートを巻き付けたりと自己流でアレンジする子どももいて楽しんでいる様子が見られました。入口から遠いブースにも関わらず、多くの子どもたちが来てくれたので、楽器作り体験は成功であったと思います。

楽器演奏面では、他のゼミの方々に協力していただき、「マイムマイム」や「ジャンケン列車」のレクリエーションで大学生と子どもが一緒になって楽しめましたが、レクリエーションに満足してそのあとの演奏を聴かずに帰ってしまう子が多かったように感じました。しかし、参加型の曲では、製作した楽器を思い思いに鳴らす子どもの笑顔が見られ良かったです。

④反 省

「ガンザ」を製作する際、フィルムケースを30個と元々少なく用意しており、途中数が足りなくなることがあったので、来年度「ガンザ」を製作する場合は多めに準備しておくことが必要だと思いました。

また、ビーズやフィルムシートも子どもたちに人気で

際限なく使う子どももいたので、初めから数を規制しての製作や、今回はビーズ200個、フィルムシート100枚程の用意でしたが、それより多めに準備しておく方が良いと思います。楽器演奏では、お昼時間帯ということもあり、子どもたちが少ない状態での活動となってしまったので、子どもたちが帰る正午前に演奏ができれば、もっと多くの子どもに楽しんでもらえたのではないかと思います。



II . 野々島プロジェクト

野々島プロジェクト

目 的

豊かな環境の中で自然の素晴らしさを直接感じられる体験や環境づくりの基礎を学ぶなどの取り組みを、被災地域の子どもたちや配慮が必要な子どもたちを対象に東北福祉大学の専門的知識を有する教職員と学生、さらには外部の様々な協力団体（者）の支援や資源を活用しながら、子どもたちに自信と勇気を取り戻す場を提供します。また、子どもたちを対象とした体験型学習を学生主体で展開することによって、その経験を卒業後の学校現場や社会生活の場面で生かすことができる力量を身に付けた学生を育てることを目指します。



実施計画

期間	項目		
4月下旬～5月上旬	野々島 事前学習と拠点場所の整備	学生・教員・スタッフ	野々島の散策、調査、学生間交流 食事会、拠点場所の整理、清掃等
4月28日(木)	野々島親睦会事前準備、拠点場所の整備	学生・教員・スタッフ	会場設営準備、物品搬入、調理練習、拠点場所の整備、清掃
4月29日(金)	島民の方への昨年度の活動報告と親睦会	島民の方・学生・教員・スタッフ	プロジェクト活動報告と御礼、島民との交流、昼食会、島民の方へのマッサージ提供
5月22日(日)	コンテナハウス、花壇の作成、ラベンダー畑環境整備(1)	学生・教員	コンテナハウスの物品整理、花壇の作成、ラベンダー畑外構工事(1)
5月下旬	座学	学生・教員	文献資料収集、ラベンダー及びポプリの勉強、ポプリデザイン考案
6月上旬～中旬	プランニング	学生・教員	各係の役割の明確化、看板作成、しおり作成
6月11日(土)	花壇の作成、ラベンダー畑環境整備(2)	学生・教員	花壇の作成、ラベンダー外構工事(2)、ウッドデッキペンキ塗り、除草作業
6月19日(日)	花壇への種まき、ラベンダー畑環境整備(3)	学生・教員	種まき、防虫ネットの設置、除草作業、散策路の確認作業
6月下旬	活動事前準備	実施関係者・教員	塩竈市教育委員会、野々島自然塾、島民、支援団体（者）との打ち合わせ
6月24日(金)	ワークを交えた勉強会① 自然体験活動の心得	学生・教員・外部講師	自然体験活動の注意、危険回避時の児童への効果的な注意方法など
7月1日(金)	ワークを交えた勉強会② 配慮が必要な子ども	学生・教員・外部講師	配慮が必要な子どもとは、行動や接し方などロールプレイングによる学び
7月3日(日)	初夏の島を歩こう リハーサル(1)	学生・教員・スタッフ	全行程の作業確認、係間の連携確認、救護確認
7月9日(土)	初夏の島を歩こう リハーサル(2)	学生・教員・スタッフ	全行程の作業確認、食事係準備、係間の連携確認、救護確認
7月10日(日)	初夏の島を歩こう 実施	参加者・学生・教員・スタッフ	プログラム通り遂行。ポプリ作り、ラベンダーの収穫。
7月19日(火)	島であそべんちゃー昨年度の振り返りと事前準備	学生・教員・外部講師	活動計画の作成、役割分担の確認等
8月～9月中旬	ポプリ作成準備(1) 島であそべんちゃー事前準備	学生・教員	ラベンダーのドライフラワー作り、参加案内の作成、配布、申し込みリストの作成等、本番当日、本番までの活動スケジュールの作成、必要なものリスト、全体・係り別活動予定表の作成、全体、係り別リーダー、係り別会議の実施、課題の克服等
8月11日(木)	シーカヌー講習	学生・教員	野々島で実施（カヌーについての基礎知識および実践、海について学ぶ等）
8月14日(日)	野々島花火大会手伝い	学生・教員・島民	花火大会の手伝いと島民や支援団体（者）との懇親
9月4日(日)	島であそべんちゃー リハーサル(1) 事前準備	学生・教員	探検隊ルート、活動場所、活動拠点の確認、テントやタープ、仮設トイレの設営練習等
9月18日(日)	島であそべんちゃー リハーサル(2) 会場の草刈り	学生・教員	本番を想定したリハーサルの実施、活動場所（会場等）の清掃、草刈り
9月23日(金)	島であそべんちゃー 最終全体打ち合わせ	学生・教員	活動当日のみの支援スタッフを含めた、活動最終確認（情報の共有化や役割分担等の確認）
9月24日(土)	島であそべんちゃー 前日準備	学生・教員	活動備品の搬入、昼食の下準備、係り別最終確認、探検ルートや会場の最終確認、最終ミーティングなど
9月25日(日)	島であそべんちゃー 実施	学生・教員・スタッフ	児童の受け入れ、リハーサルでの課題や改善点を克服し実施。怪我や事故の無いように最善の注意を払う。反省会（本番の振り返り）
9月下旬～10月上旬	島であそべんちゃー 振り返り	学生・教員	事前準備、リハーサル、活動本番を踏まえた反省と振り返りを行うことで、次年度に向けた課題や改善点を明らかにする
9月下旬	ポプリ作成準備(2)	学生・教員	ポプリデザインの開発、試作品、物品購入
10月上旬～2月中旬	野々島プロジェクト活動報告書作成準備	学生・教員	野々島プロジェクトを、事前準備、島であそべんちゃー、大学祭、初夏の島を歩こうの大きく4つの活動報告に分けて報告書作成に向けての準備を図る
10月上旬～2月上旬	島であそべんちゃー アンケート調査の実施・分析・調査結果のまとめ	学生・教員	活動に参加してくれた児童とその保護者に対して満足度調査（郵送による自記式）を実施、回収後、集計、分析を行い調査報告書にまとめる
10月上旬	ポプリ作成準備(3)	学生・教員	ポプリデザインの決定、ポプリ作成、物品追加購入
10月中旬	国見祭準備・野々島プロジェクト(1) 島であそべんちゃー	学生・教員	国見祭出展に関わる展示物（野々島プロジェクトについて、島について、全体・係り別活動報告等）の作成
10月中旬	国見祭準備・野々島プロジェクト(2) ポプリ作成準備(4)	学生・教員	展示物の製作、飾りつけ、看板作成等。ポプリ作成
10月21日(金)	国見祭前日準備	学生・教員	作成物の展示室への飾りつけ、リハーサル
10月22日・23日	国見祭当日	学生・教員	野々島プロジェクト活動報告（展示と説明）ポプリ作り体験コーナー運営
1月下旬～2月中旬	野々島プロジェクト活動報告会・子ども支援プロジェクト交流イベント（野々島プロジェクトの紹介）の準備	学生・教員	今年度の野々島プロジェクトの活動報告を、報告書作成資料等をたたき台に検討・準備（野々島プロジェクト活動報告会）。3年間の野々島での活動を交流イベントで紹介するための準備
2月10日	子ども支援プロジェクト交流イベント（野々島プロジェクトの紹介）の前日準備	学生・教員	作成物のイベント会場への展示、リハーサル
2月11日	子ども支援プロジェクト交流イベント（野々島プロジェクトの紹介）実施	学生・教員・参加者	3年間の野々島での活動報告（展示と説明）
2月13日	野々島プロジェクト活動報告会の開催	学生・教員・スタッフ	今年度の野々島プロジェクトの活動報告会（事前準備、島であそべんちゃー、大学祭、初夏の島を歩こう、参加児童と保護者を実施した満足度調査報告）

I. 野々島プロジェクト 事前準備 活動報告

1. はじめに

この報告書は、平成 28 年 9 月 25 日に宮城県塩竈市浦諸島野々島で行われたイベント「島であそべんちゃー IN 野々島」の準備期間の活動をまとめたものです。(イベント詳細については後述のイベント当日報告書参照)

まず、「島であそべんちゃー IN 野々島」開催までの流れとして、4月から8月までの期間で野々島について知識を深め、次に、9月上旬と中旬の2回リハーサルを行いました。そして最後に、本番までの準備期間にて、リハーサルで浮き彫りになった課題点などを改善し、本番に備えました。

2. 事前学習について(4月から8月まで)

昨年の活動の振り返りを中心とした、今年度の活動準備へ向けた事前学習を行いました。

(1) 4月：活動報告会(4月30日)

島民の方々をご招待して、昨年の活動においてお世話になった方々へのお礼と親睦を深めることを目的に、野々島ブルーセンターをお借りして、昨年の報告会とバーベキューを行いました。

活動報告会では、昨年の大学祭で使用した活動説明用の写真や資料をテレビに映し出し、学生がイベント当日の参加者の様子や大学祭について説明を行いました。

また、お昼には学生がホスト役になって、訪れた島民の方々にバーベキューを振舞いました。島の昔の話や昨年の活動の話、今年度はどのように活動していくのかなど、様々な話で盛り上がり、島民の方々との親睦を深めることができました(写真1～3)。



写真 1



写真 2



写真 3

(2) 野々島視察と活動場所の整備(5月～8月まで)

昨年度活動した学生が、今年度初めて野々島での活動に参加する学生に対し、野々島の魅力や特色の説明を交えながら、昨年度の活動場所や島内の観光名所などを周りました。また、本イベントの拠点となる場所の整備などを行いました(写真4～6)。



写真 4



写真 5



写真 6



写真 7

(3) 「自然体験学習を行うにあたっての注意事項」 (6月24日)、「配慮が必要な子どもたちへの 接し方について」の座学(7月1日)

外部からお二人の講師を招き、「自然体験活動の心得」と「配慮が必要な子どもたちへの接し方について」をテーマとしたワークを交えた勉強会を行いました。

「自然体験活動の心得」では、自然体験活動を行う上で注意すべきこと(例えば「活動中マムシに噛まれた場合

を考え、対応可能な医療機関に連絡を入れて置く」などのリスク管理の重要性)の説明を受け、参加者に対する効果的な注意の仕方や身近な危険(「幼少期に自転車で転んだことはあるか、死に直面するような事故に遭ったことはあるか」など、似た経験をしたことがあるか)について少人数で話し合うものでした(写真 8,9)。



写真 8



写真 9

「配慮が必要な子どもたちへの接し方について」では、配慮が必要な子どもはどのような子どものことを言うのかの説明を受け、実際にあったケースを参考に、自分だったらどのように行動するのかグループごとに話し合うワークを行いました。どのように対応されたら嬉しいか、など、子どもの気持ちになって考え、対応することが重要だと教えていただきました。また、2人1組になって、毛糸を使ったゲーム(2人で1本の毛糸を持ち、相手の動きに合わせて自分も動く。毛糸は常に張っている状態ではなくてはならない)を行いました。その毛糸は一定の距離を保っていないとすぐに緩くなってしまい、それは初めて会う人への距離と同じで、近すぎず、離れすぎず、心地よい距離で接することが、距離を縮めやすい、という内容を考えさせられるものでした(写真 10～14)。



写真 10



写真 14



写真 11



写真 12



写真 13

3. リハーサルについて(9月4、18日)

野々島へ行き、今年度の実施場所で本番を想定したリハーサルを行いました。今回は宇内浜を拠点としました。

(1) 野々島到着後のスケジュール確認・メイン会場の設営

リハーサルを行うにあたって、リハーサルスケジュールの作成、参加者の名簿の作成、乗船券や当日係ごとに使用する物品の準備などを行いました。

(2) 会場設営班

早朝の船で野々島へ向かい、当日でも利用する宇内浜にテントやトイレなどを建てました。

(3) 受付送迎班

マリンゲート塩釜にて、実際にサポート学生を参加児童役としリハーサルに参加してもらい、受付送迎を行いました。参加者の視点から危険箇所や要望などの発見に努めてもらいました。

(4) メイン活動

計画に沿って4つのチームに分かれ、クイズを通して野々島の自然や名所を学んでもらう島探検(詳細は当日報告書参照)を実際に行いました。トランシーバーを使った連絡や活動時間の調整など、幾つもの改善点を確認しました。

(5) 活動場所整備

当日危険がないように、活動の拠点となる宇内浜の清掃、立ち入りを禁止するような危険な場所の確認を行いました(写真15)。

(6) 反省会

活動終了後、ブルーセンターにて全員でリハーサルの振り返りを行いました。良かった点・改善点などが浮き彫りになり、当日へ向けての危機感が増す良いリハーサルとなりました(写真 16)。



写真 15



写真 16

4. 準備期間について(9月23、24日)

リハーサルで明らかになった良かった点、課題点を基に、リハーサル終了後から本番前日までの期間に、参加学生の役割を明確にするため、そして係ごとの全体の動きを把握するために、「当日詳細スケジュール」や「係別活動予定表」などの書類を作成しました。また、情報を共有するために、係やリーダー同士など、全体で集まる機会を作りました。前日には野々島へ宿泊し、本番へ備えました(図表 1.2)。

(1) 当日詳細スケジュール表

時間ごとに参加者の当日の動き、係ごとの動きを記載したスケジュール

(2) 係別活動予定表

学生一人ひとりに班の役割を与え、何をすれば良いかわからない状況を作らないようにするための表。どのような準備を行うか、当日はどのような流れで活動するか、担当は誰か、など詳細を記載しました。

(3) リーダー会議

授業前の時間を取り、各班のリーダーや副リーダーが集まり、班活動の進捗状況、変更箇所などの情報共有を図りました。

(4) 顔合わせ

サポート学生と本番以外に交流できる機会がないため、本番前に一度、参加学生同士の顔合わせの機会を作りました。

(5) 前泊

野々島のブルーセンターに前泊し、翌日のイベントのために食事の下準備、必要物の作成、宇内浜の整備、最終ミーティングなどを行いました。

食事班では、カレーの具材を切り、炒め、煮込みなどを行い、当日は温め、混ぜ込むだけにするための準備を行いました。また、お米の硬さや水の量を調整し、本番で失敗しないよう、試し炊きを行いました。

受付送迎では、本番の班活動の流れや参加者の名前・留意点の確認、また、当日行う乗船時の注意の発表練習を行いました。

探検隊では、イベントのメインとなる島探検においての班ごとのルートの確認や子どもたちにとっての危険箇所の確認、宝箱の作成・設置場所の決定、また、当日行う島探検のルールの発表練習などを行いました。

設営班は、本番で使用するテントやタープ、仮設トイレ、食事班が使用するガスボンベやコンロなどを宇内浜に軽トラックで運びました。また、ジェスチャーゲームのリハーサルを本部スタッフと一緒に行いました。

その後、全員が居間に集まり、最終変更箇所の確認、準備物の確認など、本番が無事に遂行できるように最終ミーティングを行い、明日へ備えました(写真 17～20)。



写真 17



写真 18



写真 19



写真 20

[illegible]

図表 1 当日明細スケジュール表

9月24日 ver.3

係活動予定表

係 名 (例: 受付送迎)			
メンバー (☆リーダー)			
☆――			
～船送迎時～			
1F ―――			
2F ―――			
時間	活動内容	準備物	担当
6:00	起床	目覚まし	
7:08	野々島発、乗船	チケット	
7:39	1. マリンゲート着 2. 受付準備、集合場所確認	旗、棒3つずつ	1. 目印
8:30～	1. 受付開始 2. 来た順に2人1組で名札、しおり配布。(しおり渡す人が名簿確認) 時間がないう場合は船内で。 3. 保護者への対応。 4. 目印の人はち予備の課題。	名札(カラーテープ、名時ペン) バインダー4つ 名簿4つ しおり	1. 目印 2. 名札しおり
8:50～	1. 点呼 2. トイレ確認、乗船時案内(船乗り場手前) 3. チケット購入	チケット ボード	1. ―― 2. ―― 3. ――
9:30～	1. 参加者課題、乗船、マリンゲート発 2. 参加者人数確認 3. 時間がなかった子に名札・しおり配布 4. 1階と2階に分かれて見守る。 5. 遅刻者はリポート生と11:00発に乗船	チケット エチケット袋	2. ―― 5. ――
10:01	1. 野々島着、下船 2. 忘れ物チェック 3. 参加者リポート	名簿	2. ―― 3. ――

図表 2 係別活動予定表

Ⅱ. 自然体験活動「島であそべんちゃー IN 野々島」

1. 活動をふりかえって

東北福祉大学では、子ども支援プロジェクトの一つの事業として、2011年に発生した震災（津波）で大きな被害を受けた塩竈市。その塩竈市内の小学校に通う小学校4年生を対象にした自然体験活動を行いました。活動の計画及び実施を本学の金ゼミ・山口ゼミ・高村ゼミの学生が主体となって行い、教職員、学外の支援者の協力を得て、この秋も「野々島」にて実施いたしました。

今回で第3回目となる本活動は、台風などの影響で天候が心配されましたが、当日はさわやかな秋晴れに恵まれ、島探検やカヌー体験など、普段の生活では味わうことのできない体験を通して、自然とのふれあいや大学生のおねえさん、おにいさんと一緒に活動を行うことで、様々なことを経験する機会になったと思います。また学生自身も、本活動を通して、野々島の住民や島で活動する様々な方々との間に交流が生まれました。このご縁が今後地域の活性化の発展へと繋がれば良いと考えています。

なお、参加した学生は活動過程の中から、参加児童との接し方、地域間での交流の重要性、そして活動計画の組み立て方や実践方法など多くのことについて理論や実践を通して学ぶことが出来ました。これから社会に出て行く上で必要となる「人間力」・「社会人基礎力」の向上にも繋がりました。

2. 主催 東北福祉大学

3. 後援 塩竈市教育委員会

4. 支援・協力 野々島自然塾、島民のみなさん 塩釜市産業観光部 浦戸振興課

5. 期日

平成28年度9月25日（日）
9時00分～15時30分

6. 場所 塩竈市 浦戸諸島『野々島』

7. 参加者状況

	合計
児童	27人
学生スタッフ	59人
教員	2人
学外支援者	4人
保護者（児童含む）	2
合計	95人

*参加児童の中で、1名が家庭の都合で欠席。参加児童1名が遅刻で途中参加。

8. 当日スケジュール

時刻	活動内容	場所
8:30	参加者の受付開始	塩釜マリゲート
9:00	参加者集合	
9:30	船乗船	
10:01	船下船	野々島船着場
10:15	出合いの集い （挨拶・探検の諸注意など）	ブルーセンター前
10:30	島探検・カヌー体験開始	野々島各場所
11:30	参加者宇内浜到着（集合写真）	宇内浜
11:40	食事内容説明	
12:00 ～ 12:40	昼食 （カレー・焼きそば・フルーツ ポンチ）	
12:45	お楽しみイベント （ジェスチャーゲーム）	
13:30	別れの集い	
14:23	船乗船	野々島船着場
15:01	船下船 解散	塩釜マリゲート

9. 活動状況

(1) 受付・送迎

学生スタッフがマリングート塩釜のエレベーター前のホールの使用許可を得て、参加児童の受付を行いました。学生スタッフは個々に役割を決め、当日までに入念にリハーサルを行いました。まず、参加児童と保護者の方が一緒に受付する総合受付、次に児童と保護者が分かれ子供受付、保護者受付を設けました。子供受付では活動のしおりを渡し、名札とチーム分けのはちまきを渡し、チーム担当の学生スタッフに引き継ぎました。保護者受付では事前に郵送した写真使用同意書を受け取り、配慮事項や連絡先の確認、待機場所と帰りの案内を行いました。船着き場へ移動し、定期船乗船時の注意事項を確認し、参加児童は船に乗り込みました。船の中では子供たちはまだ緊張している様子でした。学生スタッフが積極的に話しかけることができました。野々島に着くと島に残った学生スタッフが看板を持ち、出迎えてもらいました。

全員で船を降りると出合いの集いをするためにブルーセンターに向かいました(写真1～3)。



写真1. 受付の様子 (左下の図)



写真2. 乗船案内



写真3. 船の様子

(2) 出合いの集い

塩釜マリングートから船に乗った児童たちを、野々島の船着場で学生スタッフがウェルカムボードと共に笑顔で出迎えました。船から降りてきた児童たちは、これから始まる野々島での活動に期待を膨らませているようでした。子供たちは探検に向けて手荷物を学生スタッフに預け、準備万端にしてブルーセンター前で行われる出合いの集いに臨みました。出合いの集いでは主催者挨拶・島民代表者による挨拶、リハビリテーション学科の学生スタッフによる準備体操、島での諸注意を話した後に、探検班とカヌー班にわかれてそれぞれの活動を行いました。

まず、カヌー班が出発、つづいて、探検でのルール説明と諸注意を行った後に探検班が出発して行きました(写真4)。



写真 4. 出会いの集い

(3) 野々島探検

今年の島探検の内容は、昨年とても好評であった宝探しゲーム形式の探検を参考に企画しました。今回の宝探し探検の内容は、探検スタート時に一枚の写真が各班に配られます。その写真には野々島の観光名所が載っています。しおりに書かれた島の地図を頼りに写真に写っている観光名所に向かいます。観光名所にたどり着くとその付近に宝箱が隠してあって、その中には観光名所に関するクイズが入っています。そのクイズに正解すると次の目的地を示す写真と全員にスタンプがもらえます。この一連の流れを繰り返しゴールであるラベンダー畑を目指すというものでした。各班編成は学生 5 名、児童 7 ～ 8 名の黄色組、もも組、赤組の 3 つの班に分かれ活動しました。

野々島に着き、出会いの集いが終わった後に、ブルーセンター前で危険な場所・生き物などの諸注意・探検のルール説明をみんなで確認し、各班順番に元気よく出発しました。

黄色組は、野々島自然塾→塩竈市立浦戸小中学校→ラベンダー畑というルートでした。子供たちがとても元気で、チームワークもよく、どこが怪しいか、クイズの答えはどれか、みんなで積極的に関わりながら、ワイワイ楽しくゴールを目指していました。

もも組は、熊野神社→夜泣き地蔵→ラベンダー畑というルートでした。しおりの地図と写真を手掛かりに、少々苦戦していましたが引率学生のヒントを頼りに、無事ゴールすることができました。児童と引率学生の連携がよく

とれていました。

赤組は、ボラ（洞穴）→カキ処理小屋→ラベンダー畑というルートでした。赤組は男子が写真と地図を頼りに目的地を目指し先導役となり、女子が積極的にクイズに答えるという役割分担が、児童同士で上手できていました。学生が助言しなくても迷うことなくスムーズにゴールにたどり着くことができました。

また、各班が探検の途中で必ず通る夜泣き地蔵の前で、チェキ（ポラロイドカメラ）での記念撮影を行い、一人ひとりにプレゼントしました。

どの班も、スタート直後は会話も少なく、意見などと言いくそうにしている姿も見受けられましたが、時間がたつにつれ、緊張もほぐれ、笑顔や会話も増え、ゴールするころにはみんな仲良くなっていました。ゴールした後は、カヌー班も合流し、全員で宇内浜を背景に集合写真を撮りました（写真 5 ～ 8）。



写真 5. 黄色組探検の様子



写真 6. 桃組探検の様子



写真 7. 赤組探検の様子



写真 8. 探検の様子



写真 9. カヌー体験の様子



写真 10. カヌー班の人たちの様子

(4) カヌー体験

出会いの集い終了後、抽選で選ばれた男女 6 名のカヌー班はラベンダー畑に移動し、カヌー体験を行いました。カヌーに乗る前に、学生スタッフより乗船注意やパドルの持ち方など説明を受けた児童は、学生スタッフ指導の下、ライフジャケットを着用し準備体操を行いました。

カヌー体験では学生スタッフ 2 名につき児童 2 名の計 3 艇で、野々島の海を自由に漕ぎました。体験途中は、児童にパドルを渡し漕いでもらうなど有意義な時間を過ごしました。はじめは、落ちてしまうかも知れないという恐怖心や不安が入り混じった表情をしていましたが、徐々に慣れ、楽しんでいる様子を見ることができました。下船後は集合写真を撮り、探検班と合流しました(写真 9,10)。

(5) 昼食

昼食は“カレー”と“焼きそば”、デザートに“フルーツポンチ”を用意しました。

カレーは人参、タマネギ、ジャガイモ、豚肉をいれ、大きい鍋で、おいしいカレーを食べてもらいたいとの思いから前日から煮込んでおきました。

焼きそばは、当日、宇内浜でキャベツ、人参、タマネギ、もやし、豚肉、麺を入れ炒め、30 人前分を作りました。カレー、焼きそばともに、二杯、三杯とおかわりをする児童もたくさんいました。

デザートにはフルーツポンチを作りました。パイナップル、ミカン、もも、サクランボ、ナタデココを用意し、児童に好きなフルーツを好きなだけ取ってもらうようにしました。フルーツポンチに入れるドリンクもサイダー

とカルピスを用意し、児童に好きな方を選んでもらいました。今回用意したフルーツが少なかったため、人気だったナタデココ、みかんが途中でなくなってしまいました。

カレーと焼きそば、フルーツポンチをトレーに乗せて運び、宇内浜にあるウッドデッキで昼食を取りました。学生スタッフや児童同士で楽しそうに会話しながら食事をしていたのが印象的でした。食事前の手洗いに時間がかかってしまい、食事の時間が想定していたよりも短くなってしまいましたが、児童たちはお腹いっぱい食べることができたようでした。後片づけは学生スタッフが食器をまとめて片づけてくれたためスムーズにできました(写真 11～15)。



写真 11. 野々島あそびんちやの様子



写真 12. 焼きそば作り



写真 13. 昼食の様子(1)



写真 14. 昼食の様子(2)



写真 15. 昼食の様子(3)

(6) お楽しみイベント

お楽しみイベントとして、「ジェスチャーゲーム」を行いました。3つの島探検班、カヌー班の、班対抗戦という形で行いました。ゲームのお題は金ゼミの学生全員から集めたものを元にジェスチャーを行う側はもちろんのこと、答える側も楽しめるものを厳選して行いました。少々児童には難しいと思うお題もありましたが、みんな恥ずかしがらず元気よくのびのびと、終始楽しくゲームを行うことが出来ました(写真16.17)。



写真 16. ジェスチャーゲーム



写真 17. ジェスチャーゲームの結果発表

(7) 別れの集い

お楽しみイベントの後、別れの集いを行いました。疲れの見える児童やまだまだ元気溢れる児童がいるなど、様々な表情を観ることが出来ました。

別れの集いの中で、参加児童、サポート学生、教員全

員で撮った集合写真をプレゼントしました。帰りの船が近づく中、名残惜しそうな学生の姿と野々島での活動を振り返って楽しそうに話す児童の姿が印象的でした。(写真18.19)



写真 18. 別れの集い(1)



写真 19. 別れの集い(2)

(8) 送迎②

宇内浜で別れの集いを終えた後、参加児童一行は、送迎担当の学生とともに野々島の船着き場に向かいました。児童たちは、まだまだ遊び足りない様子で、帰りの船中で、送迎の学生と活動の振り返りや、しりとりなどのゲームを行い、最後の時間を過ごしました。到着後、船着き場に迎えにいらした保護者と児童にお別れの挨拶をしました。その後、一人ひとり児童を保護者にきちんと引き渡しました(写真20)。



写真 20. 参加児童の送迎

(9) まとめ

今回の活動は、けがや大きなトラブルも無く、無事終了

することが出来ました。はじめは緊張していた児童も、次第にみんなと打ち解けていき、笑顔や笑い声が多く見受けられるようになりました。別れの集いの際には「帰りたくない」「来年も参加したい」と言った児童の声も聞かれ、本活動を満足してくれた様子が伺えました。学生スタッフは、昨年度の反省を踏まえながら、児童が危険な所へ行ったり、ケンカをしたりしないよう細かな気配りを怠ることなく楽しく一緒に活動することができました。

しかし、今回も反省点は多くあります。乗船時に一人になってしまっていた児童がいたり、マリゲート内で一般の方の通行の妨げになってしまったり多くの反省点が見つかりました。

これから、今回出た反省点や課題等を改善しながら、次年度の活動に繋げて行きたいと思います。

なお、この活動報告書は今回の取り組みの企画から実施に携わった学生が中心にまとめたものです。

Ⅲ. 自然体験活動「初夏の島を歩こう IN 野々島」 活動報告

野々島プロジェクトでは7月と9月に子どもを対象とした自然体験活動を実施しておりますが、7月開催の「初夏の島を歩こう IN 野々島」につきましては、支援や配慮を必要とする子ども達に野々島に来てもらい、自然体験遊びを通して心身共に元気になってもらうことを願って企画されました。山口ゼミの学生が主体となり、金ゼミの学生に支援を頂く形で活動を行いました。開催に際しては昨年度の反省点を踏まえた研修会を行いました。特に子どもと接し方、野外活動の心得について、専門の講師の先生から知識、考え方、方法、事例研究を通して学びました。またイベント中のトラブル発生時の指示系統を明確にしたこと、天候に左右されず遊べるようテントの中での遊びを取り入れる等の改善点を加えました。そして島民の皆様には準備段階から様々なご支援を頂きました。多くの皆様のお力を頂きまして無事に当プロジェクトが運営できましたことをここに御礼を申し上げます。今年も野々島には様々な世代の人々が集い交流の機会を持つことが出来ました。これらの一連の取り組みが野々島の発展に繋がることを願いましてここにご報告させて頂きたいと思います。

概 要

主 催：東北福祉大学
 支援・協力：島民のみなさん、塩竈市教育委員会、
 野々島自然塾、塩竈市産業観光部浦戸
 振興課

場 所：塩竈市 浦戸諸島 野々島

参加状況：合計 32 名
 ・児童 1 人（女兒 1）
 ・保護者 1 人（女性 1）
 ・学生スタッフ 28 人（女性 22, 男性 6）
 ・教員 2 人（男性 2）

開催日：平成 28 年 7 月 10 日（日）
 8 時 30 分～ 15 時 30 分

時刻	活動内容		場所
8:30	参加者 受付	・名札の作成 ・乗船時の注意説明	マリンゲート 塩釜
9:30	定期船 乗船	・乗船中子ども把握	定期船
10:01	定期船 下船	・人数確認	野々島栈橋
10:15	出合いの集い	・挨拶、スケジュール ・注意事項説明	野々島ブルー センター
10:30	島を歩こう	・トトロの森散策 ・貝殻拾い ・木のプランコ、花畑	トトロの森 宇内浜 風の丘
11:45	ラベンダー畑 着	・休憩、手洗い	ラベンダー畑
12:00	昼食	・バーベキュー， ・焼きそば，フルーツ	ラベンダー畑 ウッドデッキ
12:40	昼休み・あそび	・ポップ作り ・輪投げ，割り箸鉄砲 ・ラベンダー収穫	ラベンダー畑 ウッドデッキ
13:40	別れの集い	・ふり返り	ラベンダー畑
14:00	野々島浅橋	・移動中の安全管理	野々島栈橋
14:23	定期船 乗船	・乗船中子ども把握	定期船
14:54	定期船 下船	・人数確認	マリンゲート 塩釜
15:30	参加者 解散		

1. 事前準備 活動報告

今年度野々島プロジェクトを始めるにあたり、4月に島民の皆様とご挨拶を兼ねた交流会を開きました。昨年度の活動報告や今年度のスケジュールを聞いてもらい、食事をしながら島の生活のことや震災の話などして会話が弾みました（写真 1）。5 月と 6 月は活動拠点となるラ



写真 1

ベンダー畑とコンテナハウスの環境整備を行いました。作業環境を良くすること、子どもが安全で楽しく遊べる場所を作ることが目的です。物品の仕分け、補充、運搬、ラベンダー畑の除草、ウッドデッキのペンキ塗り、砂利敷き、レンガ敷きなど全て手作業で行いました。島では輸送手段が整っていないためリヤカーで物品を運びました。坂道が多く、広大なラベンダー畑での搬送は時間のかかる作業の一つでした。島民の方に軽トラックを貸して頂いた日は作業が捗り、大変ありがたく思いました。炎天下の日も雨天の日も一つ一つ作業を進めていきました。ラベンダー畑とウッドデッキ周辺は昨年と異なり見栄えが良くなり、活動のし易い場所に様変わりしました(写真2～5)。また島の民の方をお願いしてラベンダー畑に待望の物置小屋を設置していただきました。お陰様で園芸用品や調理器具、テントなど収納できるようになりました。



写真2



写真3



写真4



写真5

また自然体験活動の実施に際し外部から2名の専門講師を大学に招待し、2日間の勉強会も行いました。1日目は野外活動時の心得や危険予知と対処について、2日目は支援や配慮を必要とする子どもの特性や接し方についてグループワークを通して学びました(写真6, 7)。更に私達は“初夏の島を歩こう IN 野々島”の準備も進めていきました。班活動では4つの班(受付送迎、設営、食事、遊び)に分担し、昨年の課題点であった係間の情報共有を密に行なう事を心掛けました。その方法の一つとして係活動シートを作成し、チーム目標、役割分担、時間スケジュール、成果を記入し、ゼミの時間を活用して全員が作業の進捗状況を共有しました。また3年生は2年生への指導も務めました。指導には2つのルールを作りました。3年生は昨年所属した係と同じ係に配属し経験値を今年に活かすこと、準備の方法を全ては伝えず、まず

2年生同士で考えてもらうことを重視しました。2年生から新しい案が出ればそれを受け入れ、修正が必要な時は助言しました。



写真6



写真7

各班にはそれぞれ独自の注意点がありませんでしたが、特に食事班では食品の衛生管理を最も気を付けました。本番当日はバーベキューと焼きそば、フルーツのデザートを提供することが決まりました。梅雨の時期であるため、食材の選定、買い出しの時間帯、下ごしらえの内容、温度管理、当日の現場での調理方法について何回も検討を重ねました。子どもの健康状態や食物アレルギーの有無についても事前に保護者の方に伺いました。遊び班は昼休みの遊びメニューを考案しました。去年はラベンダーの摘み取りが主な活動でしたが、子どもの特徴を踏まえて今年は遊びのメニューを増やしました。例えばお母さんと一緒に遊べるもの、体を動かして遊べるもの、天

候に左右されずにテントの中で遊べるものを考えました(遊びメニュー：ラベンダーの花を使ったポプリ作り、アケビの蔓で作ったリースで輪投げ、手作り割り箸鉄砲での射的、虫取り、ラベンダーの摘み取り、貝殻拾い)。設営班はテントや簡易トイレの設営を制限時間内で出来るよう技能を磨きました。敷地内の危険物チェック、物品管理も担当しました。受付送迎班は子どもと寄り添って行動するため、子どもの表情や行動を観察しながら関係作りに心掛けました。リハーサルは2回設けました。第1回目を全員出席とするリハーサル、第2回目は補充や調整が必要な班のみが参加するリハーサルです。開催前日は雨天であったため、散策路のチェックと遊び道具の最終調整をしました。

2. 「初夏の島を歩こう IN 野々島」当日

7月10日(日曜日)晴天に恵まれました。当初3家族が参加される予定でしたが都合により2家族が辞退され1家族のみ参加となりました。参加者は減りましたが計画通りイベントを遂行すること、みんなで頑張ろうと気持ちを一つにして当日を迎えました。受付送迎班はマリゲート塩釜で子どもとお母様を出迎えました。事前に作っておいた栞や名札を手渡し、船の乗り方や注意事項を伝えた後、9時30分の船に乗りました。船の中では子どもと一緒に景色を見たり、会話を楽しみました(写真8)。一方、設営班と遊び班は始発便で野々島に向い、



写真8

テント設営、物品搬送、探険ルートの危険箇所の下見を行ないました。子どもとお母様を乗せた船が野々島棧橋に 10 時に到着しました。遊び班が看板を手に持ち参加者を出迎えました。ブルーセンター前で出会いの集いを開催し、島での注意事項とスケジュールを説明しました(写真 9)。いよいよ島探検が開始しました。子どもの表情は明るく、スタッフ学生も気持ちが明るくなりました。その頃、受付送迎班の一部と遊び班の一部はスタンプラリーの各地点に向かっておりました。食事班はトランシーバーを使って送迎班と連絡を取り合い、状況確認をしながら調理の準備を進めました。島探検はトトロの森を通り、宇内浜、風の丘に向かい、ラベンダー畑に向かいました。宇内浜では貝殻を拾い、かけっこをしました。風の丘では木のブランコで楽しみました(写真 10～13)。お昼 12 時前にラベンダー畑に到着しました。少しの休



写真 9



写真 10



写真 11



写真 12



写真 13

憩を済ませた後、手動式ポンプを使って手を洗いました。いよいよ昼食です。食事班が調理してくれたバーベキューと焼きそば、そしてフルーツデザートテーブルに並べました。みんなで「いただきます」の声をかけて食べました。自然の中での食事は開放的でおいしく感じました。お昼休みは収穫したラベンダーの花でポプリを作り、あけびの蔓で作った輪投げ、割り箸鉄砲で射的、虫とり、ラベンダーの摘み取りなどフルコースで遊びを楽しんでもらいました(写真14～16)。その後、写真撮影して別れの集いを行ないました(写真17)。お土産は貝殻とポプリです。それらをリュックサックに詰めて、体の大きなお兄さんが引っ張るリヤカーに乗って、船着き場がある桟橋まで向かいました(写真18)。船が到着するといよいよお別れです。スタッフ学生数名は子どもとお母様と共に乗船しマリゲート塩釜まで付き添いました。残りのメンバーは船が見えなくなるまで手を振ってお見送りをしました。その後ラベンダー畑に戻り片付け作業の続きを行ないました。1時間半後、付き添いの数名も野々島に戻り全員が揃ったところで反省会を行ないました。口頭だけでなく紙に反省点を記述し全員で話し合いました。大学に戻ってからも反省文を集約し、課題抽出と来年度に向けての対策案を考えました。



写真 15



写真 16



写真 14



写真 17



写真 18

3. 反省と課題

「初夏の島を歩こう IN 野々島」を終えて、学生目線で感じたことは「参加してくれた子どもが帰り道まで笑顔でいてくれたこと」が嬉しかった点です。反省文の自由記述には同じことを書いている人が多くいました。更に嬉しかったことは、数か月後にお母様からお手紙と写真を頂いたことです。お手紙には「子どもがお家に帰って

から野々島の思い出話をしたり、砂浜で拾った貝殻を庭に並べて遊んでいる様子、私達学生に向けて感謝の気持ち」を書いてくださった事です。昨年の反省点を活かして準備に時間をかけてきた甲斐がありました。3年生と今年初めて参加した2年生との間には協力し合えた場面もありましたが、全部うまくいった訳ではありません。SNSを活用した情報共有が多くなり、直接話し合いが出来れば問題は起きなかったのかもしれませんが。現地での準備活動の段取りについても課題が残りました。毎回参加メンバーが変わるため、作業にムラが生じ、時間の浪費に繋がったことです。一人一人の意識の問題もありますし、班内で申し送り事項が徹底していなかったことが原因であると考えられます。また頭の中で思っていることを言葉にして相手に伝えなければ現状は変わらず問題が起きてしまうことも学びました。そのため班毎にマニュアルを作成し来年度の活動に活かしたいと思います。来年度の活動ではこれらの点を改善したいと思います。

最後になりましたが、塩竈市教育委員会の皆様、野々島自然塾の皆様、また専門指導では越路先生、菊地様のご支援により、無事にイベントを終える事ができました。心より御礼を申し上げます。

IV. 野々島プロジェクト 大学祭（国見祭）での活動報告（その1）

1. 趣 旨

金ゼミが中心となり山口ゼミの協力のもと、東北福祉大学の大学祭「国見祭」で、展示会場を設け活動報告を実施することとしました。展示会場では、「島であそべんちゃー IN 野々島」での活動を中心に、活動までの準備、島の概要、地域の人々との交流、島に生息しているラベンダーを使ったポプリ作り体験等、会場内での活動報告をして、野々島の素晴らしい自然や、震災からの復興状況などを、様々な人に知ってもらい、ぜひ一度は野々島を訪れていただきたいとの思いから、昨年度に引き続き実施しました。

2. 主 催

東北福祉大学 金政信ゼミ
山口政人ゼミ（協力）

3. 期 日

平成 28 年 10 月 22 日（土）10 時～17 時
23 日（日）10 時～14 時 30 分

4. 場 所

東北福祉大学 2 号館第 18 演習室

5. 参加者状況

（1）学生スタッフ数

	男	女	合計
22 日	5 人	5 人	10 人
25 日	5 人	7 人	12 人
合計	10 人	12 人	22 人

※一部重複あり

（2）来場者数

	人数
22 日	249 人
23 日	267 人
合計	516 人

※一部重複あり

6. 活動状況

（1）大学祭での活動報告のための準備

9 月 25 日の活動終了後、金ゼミ内で反省と活動の振り返りを行いました。その後、分担を決めて 10 月 22、23 日に行われた国見祭にて野々島での活動を掲示するための模造紙を使用した展示資料作りを行いました。皆、自分の担当部分の作成を懸命に行い無事完成することが出来ました。

（2）前日準備

大学祭の前日、山口ゼミとも協力し教室に掲示を行いました。来場者の方が入り口から順を追って見る事が出来るように、活動の流れにそって壁に掲示していきました。中央には、山口ゼミのポプリ作り体験コーナーを設置しました。また、活動の記録をスライドショーにしてモニターに写しました。そして、子どもたちが見ても楽しめるように風船や紙花を使い、装飾を工夫して準備を行いました（写真 1～3）。



写真 1



写真 2

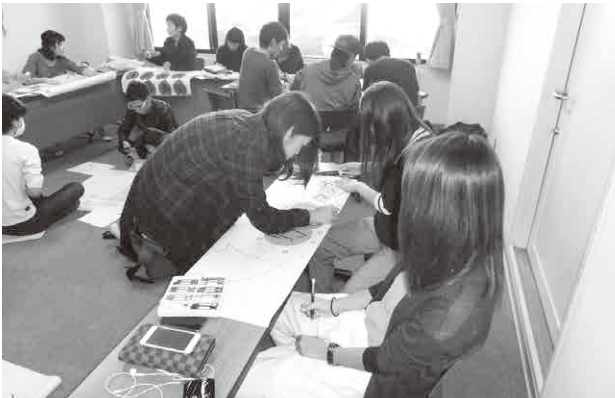


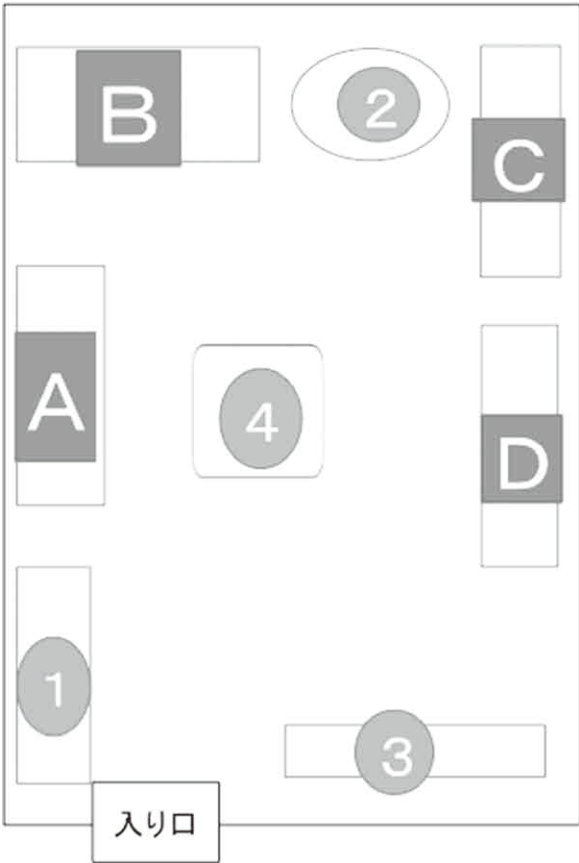
写真 3

(3) 大学祭当日

私たちが野々島で活動してきたことをまとめ、A 野々島について、B 島であそべんちゃー IN 野々島、C 初夏の島を歩こう、D ワークショップの 4 つのブースに分けて展示しました（図表 1）（写真 4）。



写真 4



展示室内の配置図 図表 1

- ①：受付、本番までの流れ
- ②：スライドショー
- ③：本活動について
- ④：ポプリ作り体験コーナー

- A：野々島について
- B：島であそべんちゃー IN 野々島
- C：初夏の島を歩こう
- D：ワークショップ

A 野々島について

野々島の人口、面積などの概要や震災時の様子、名産品の菜の花・白菜・めだかについて、4月に行った島の方との懇親会や新しく金ゼミに加わった学生に向けての島探検の様子などをまとめた資料を展示しました(写真5)。

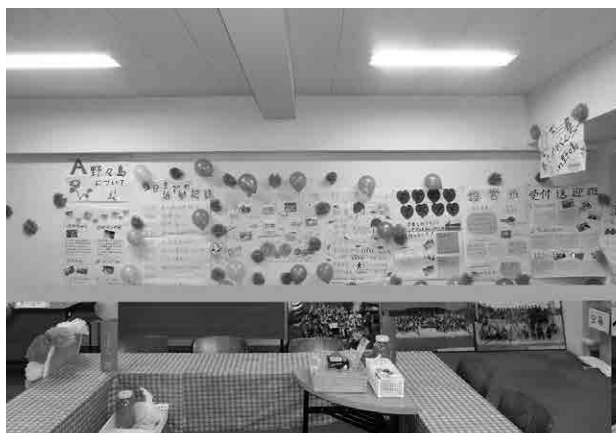


写真5

B 島であそべんちゃーIN野々島

本活動の趣旨・目的・活動に向けての事前準備・当日のタイムスケジュール・野々島のマップなどを作成し、展示しました。

また、活動の際にメインとなった探検・食事・お楽しみイベント・シーカヌーの様子を画用紙にて絵本形式で作成し、展示しました(写真6)。



写真6

C 初夏の島を歩こう

山口ゼミの学生が中心となり、7月に開催された自然体験学習の様子を展示しました(写真7)。



写真7

D ワークショップ

6月と7月に行われた、2人の専門の外部講師を招いて行われた「自然体験学習の心得」、「配慮が必要な子どもたちへの対応」についてのワークショップの様子を展示しました(写真8)。



写真8

① 受付、本番までの流れ

大学祭パンフレットにスタンプラリーがあったことから、受付を押印の場としました(写真9)。



写真 9

② スライドショー

本番当日の活動を中心に島での活動写真をスライドショーにして写しました（写真 10）。



写真 10

③ 本活動について

私たちがゼミで行っている活動を通しての教育効果について、金政信先生が、掲示資料を作成し、展示しました（写真 11）。



写真 11

④ ポプリ作り体験コーナー

山口ゼミの学生が中心となり、わたし達が野々島で収穫したラベンダーを用いたポプリ作りを体験するコーナーを設けました。大盛況でした（写真 12）。



写真 12

掲示資料には、野々島の紹介、全体のマップ、活動目的、活動本番までの日程、探検・食事の様子を展示しました。模造紙の周りには多くの写真や風船などで装飾しました。

入り口には、今年度新たに作成した旗（活動時の送迎に使用）を飾り、より多くのお客様に興味を持って頂けるようにしました。また、来場して下さった方には、教室内の展示品を詳しく説明しながら一緒に歩いてまわりました（写真 13）。



写真 13

野々島の事を知っている方、知らない方、小さな子どもからお年寄りまで、幅広い世代の方々に来場して頂きました。また、今回、自由ノートを設置し、子ども達がお絵描きや、展示についての感想を書いていただきました（写真 14）。



写真 14

（４）片付け

今回、活動報告などで作成した模造紙などは資料として今後の活動や来年の大学祭の資料に活用すべく、丁寧に保管しました。片付けはひとり一人が集中して行ったため作業をスムーズに終わらすことが出来ました（写真 15）。



写真 15

7. 大学祭の感想と反省

今回の大学祭での活動報告では、昨年同様、老若男女の多くの方々に来場していただきました。野々島の活動に参加して下さった児童も訪れて頂き感動の再会を果たしました。

野々島を知らない方々にも、野々島について興味を持って展示を見て頂けました。野々島の魅力やわたし達の活動を多くの方々に知ってもらえて、とても良かったです。

また、準備や片付けも全員でスムーズに時間内に出来ました。

反省点としては、もっと来場者の方に説明を積極的に行えばよかったと思います。

V. 野々島プロジェクト 大学祭（国見祭）での活動報告 （その 2）

1. 準備活動

（1）活動内容の展示とポプリ作り体験コーナー

国見祭開催までの 1 か月間、集中して準備に取り掛かりました。展示班とポプリ班を作りました。展示班は野々島での活動内容、タイムテーブル、野々島マップ、フォトギャラリーを作成しました（写真 1）。



写真 1

ポプリ班はデザイン別に巾着型、リボン型、瓶型の 3 班に小編成しました。ポプリの材料は野々島で収穫したラベンダーを乾燥したものをしました。乾燥重量は約 300g でした。デザインの決定は段階的に進めました。ゼミ生全員で複数個提案した後、協議の上、最終的に 3 つに絞りました。その後デザイン別に各班が試作品を作り、微調整を行い量産型を決定しました。巾着班では各自が製作個数を決めて、生地を袋状に縫製しました。ポプリの製作個数は合計 300 個でした。詳細は下記の通りです（写真 2～4）。



写真 2



写真 3



写真 4

（2）ラベンダーポプリの詳細

- 巾着型ポプリ：10 種の柄、150 個の袋を製作。
（生地を袋状に縫製、飾紐と合わせキット化した）
- リボン型ポプリ：4 種の柄を準備、70 個製作。
- 瓶型ポプリ：3 種の形状の瓶を準備、80 個製作

また昨年の反省点を踏まえ、以下を改善しました。

（3）今年の改善点

- ①ポプリの種類が多いため見本プレートを作成。お客様に選んでもらう際、分かり易くした。
- ②材料が豊富なため透明セロファンの袋に材料を入れてキット化し、作業効率を上げた。
- ③ゼミ生全員がお客様にポプリの作り方を指導出来るようゼミでポプリ作り講習会を開いた。
- ④机と椅子の配置を工夫し作業をし易くした。デザイン別に座席を決め、スタッフ学生はお客様と向き合うように椅子を配置した。材料トレイの置き場所も

固定した。

⑤お客様には受付時に整理券を配布し、ポプリ作りの際の混乱を防止した。

⑥国見祭前日、スタッフ学生と客側に分かれて、ポプリ作りのリハーサルを行った。

2. 国見祭当日

来場者は初日が249人、2日目が267人、2日間の合計は516人でした。展示では来場者の方に野々島プロジェクトの説明や質問対応に務めました。ポプリ作り体験コーナーは今年も大盛況でした。野々島での体験活動に参加した子どもとお母様がいらっしゃいました。3種類の中から好きなデザインを選んでもらい、飾りつけも楽しんでくれたようです。巾着型は年配の方や男性に人気で、リボン型とビン型は女性や子どもに人気がありました(写真5～8)。また2日間連続で来場される方もありました。理由を伺うと「孫にもプレゼントしたい」、「家族に好評だったのでまた来ました」などのご意見を頂きました。来場されたお客様には準備したほぼ全てのポプリを提供することが出来ました。

3. 反省と来年度に向けての改善点

「展示班」：良かった点は班の目標と各自の役割を決め予定通り作業が進んだことです。課題は展示物の内容変更が直前に見つかったことです。事前にゼミ生全員で確認し合う必要がありました。野々島の地図だけでなく塩竈市全体を含めた地図を作ったほうがお客様に活動場所をより分かって頂けたかと思います。

「ポプリ班」：良かった点は早めにデザインを決め、準備を終えていたので、ゼミ内でポプリ作りの講習会を開くことができ全員が習得出来たことです。材料をキット化し、整理券を配布したことで混乱が起きませんでした。課題は飾り付けの材料が不足し途中で買い出しに行く事態が起きました。ポプリ1個に使用する飾り付けの数量を予め決めておくべきでした。以上の反省点を来年度に活かしたいと思います。



写真5



写真6



写真7



写真8

VI. 「島であそべんちゃー IN 野々島」 参加者へのアンケート調査結果報告

本節では、「島であそべんちゃー IN 野々島」に参加してくださった児童やその保護者に活動後に実施した、満足度調査を紹介します。本調査は金ゼミ 4 年生が、卒業課題研究として実施したもので、昨年度に引き続き 2 回目の実施となり、参加児童 27 名中、22 名とその保護者から回答を得ることができました。

なお、個々に掲載の本調査の概要や調査結果、その考察については 2 月 13 日に実施しました。「野々島プロジェクト活動報告会」で使用しました資料（パワーポイント）をそのまま掲載しましたので、本節内の、調査結果のまとめとともにご参照ください。

最後に本節の末尾には、実際使用したアンケート用紙（集計結果記入済み）も掲載しておりますので合わせてご参照ください。

1. 調査結果の総括

今回の「島であそべんちゃー IN 野々島」に参加して頂いた、児童やその保護者へのアンケート結果を総括すると、児童や保護者の満足度は大変高いものとなりました。

その要因として、例えば、「この活動に参加させて良かったですか」（親問 3）、「この活動に参加して良かったですか」（子問 2）という質問に対し、昨年同様「良かった」という回答が 100% だったことから、本活動に参加した児童や保護者の満足度は、非常に高かったと推測できます。

また、保護者からのその他のご意見、ご要望（親問 11）では、参加児童が「福祉大に行く」「福祉大に入りたい」との複数の回答を頂き、東北福祉大学に所属する学生の人間性の良さや仕事ぶりも評価されたようでした。

そこで、本項では、満足して頂いた要因を立証するために、これまで述べてきた各設問の中から得られた、満足度の高かった点を、5 つの視点（1. リスク管理、2. 活動の内容、3. 親や子の思い（期待や不安）、4. 学生の接し方、5. これまでの実績の積み重ね）にわけ、改めて整理することにしました。

さらには、悪かった点や改善点についてのご意見も少数ではありますが頂きましたので、それらを整理してみたいと思います。

そして、最後に今後の活動に繋げていくための、まとめを述べます。

（1）満足度の高かった理由（5 つの視点）

①リスク管理

- ・大学の教員、外部支援者、そして福祉大生が主体となって付き添うことで安心感があった。また、3 回目の開催ということもあり、本活動が学校や保護者に認知されていたことが不安を緩和したのだと推測できる。
- ・解散時、一人一人名前を呼んで確実に保護者に引き渡す等、防犯を意識した。

②活動の内容

- ・島探検やカヌー体験等普段の日常生活では行えない自然体験活動ができ、また親元を離れての活動だったことで、児童、保護者ともに刺激的な体験となった。

③親や子の思い（期待や不安）

- ・自然体験学習が出来る活動が少なく良い機会となったことや、参加児童が年に 1 度の本活動を楽しみにしてくれている。
- ・大学生が参加児童に付き添うためリスク管理が出来ていると判断された。

④学生の接し方

- ・親問 5、子問 10 の「学生の対応はよかったですか」という質問に対し、100% の回答率となり、昨年度の 95% を上回った。昨年度の反省点を活かしたことが満足度向上に繋がったのではないかな。
- ・「信用できた」「安心感を与えてくれた」「きちんと説明してくれた」との回答を頂き、多くの学生が参加児童と真摯に向き合い、接することができたのではないかな。

⑤これまでの実績の積み重ね

- ・「昨年の活動を HP で見て、安全に配慮している感じがかった」という意見もあり、これまでの活動を評価して頂き、児童、保護者に安心感を与える事ができたのではないかな。

以上のことから、本活動が非常に満足度の高かった活動であったと言える。

(2) 悪かった点や改善、検討してもらいたい点

①悪かった点や改善してもらいたい点

- ・解散時、「海が傍にあり、混雑していて少し怖かった」という解散場所の安全性を疑問視する意見があった。昨年度はマリンゲート建物内を解散場所としていたが、一般の利用者の妨げになることを考慮し、今回は船着場の傍に解散場所を設けた。しかし、このような意見があったことを踏まえると、再度解散場所を検討する必要がある。周囲への配慮も必要だが、参加児童及び保護者の安全確保が第一であることは明確だ。安全と周囲への配慮のバランスを考え来年に向け、検討する必要がある。
- ・「集団行動ができるか」「知らない人と仲良くなれるか」等、参加にあたって不安を感じる記述が見られた。事前に告知した本企画の内容や説明が保護者の不安を緩和し、また、大学の教員、外部支援者、そして福祉大生が主体となって付き添うことで安心感があった事は確かだが、初対面の人と関わる際の不安を取り除く事は非常に難しい。「昨年の活動を HP で見て、安全に配慮している感じがかった」との意見もあったことから、今後も HP や事前の説明等を通して、参加児童、保護者に対して、最大限の安心を与えられるような工夫や配慮が必要である。

②検討する必要がある点

- ・「今回と同様の日帰りの企画で参加費を徴収するならば、いくら位が妥当だと思いますか」（親問 8）という質問に対して、最低額が 500 円程度という結果が得られた。これまで無料であったが、今後継続するうえで、参加費を徴収することも考えられる。
- ・「活動時間はどれくらいが良いと思いますか」（親問 9）という質問に対して、「今回と同様が妥当である」という回答が多かった。一方「一泊二日」という回答もあった。参加児童の中には、多少物足りなさを感じている人もいたようだ。しかしながら、本活動は学生が主体となって行っているため、一泊二日での活動となると学生一人にかかる負担が大きくなるなどのリスク管理の面や、大事なお子さんを二日間預かる事による保護者の方の不安増大などの理由から、現段階での実現は難しい。帰りの船の時間を一

本遅らせる、内容をより濃いものとする等、参加児童をより満足させるための工夫が必要である。

- ・昼食のメニューは、カレーライス、焼きそば、フルーツポンチの 3 つであった。全てのメニューにおいて高い満足度であったが、「他に食べたいものはありますか」（子問 9）という質問に対し、22 名中 18 名の参加児童から「はい」という回答を頂いた。多くの児童がバーベキューをしたいと望んでいる事が分かった。昨年度も同じ質問で、同様の結果を得た。よって、参加児童が自分自身で好きな具材を選んだり、作ったり、といった普段の生活ではなかなかできないような食事に興味を持っていることが考えられる。来年度以降も参加児童が自分自身で参加する食事を考案していくと、食事に対する満足度がさらに高まると考えられる。しかし、食材の鮮度（衛生面で）管理や鉄板を使うことで生じるリスク管理をしっかりと検討する事が必要である。

(3) まとめ

小学校 4 年生の児童が親元から離れて参加した本活動は、児童の自立心を芽生えさせる機会にもなり、また帰宅してから児童が保護者へ島での活動について思い出話をしてくれたことを想像すると、家族間の会話の希薄化が問題視される現代社会で親子が会話のやり取りをする一つのきっかけにもなったのではないのでしょうか。

昨年度の回答と比較してみると、一番多かった回答は「帰宅した児童が楽しかったと言っている」で、次いで「新しい友人が出来た、大学生と仲良くなれた」という意見でした。また、「次は一泊で行きたいと言っている」という意見もあり、児童にとって楽しい活動になったことが伺えます。しかし、今回の活動でも様々な点でよかったところ、反省・改善をしなくてはならないところがみえてきました。その事を次年度の本活動に参加する学生全体で共有し、これからの活動に活かして欲しいと思います。次年度の「島であそべんちゃー IN 野々島」がよりよいものとなるよう努力してもらいたいです。

（文責：秋保良喜 金ゼミ 4 年）

なお、本調査についてくわしくは次項（2、3）をご参照ください。

2. 本調査の概要や、調査結果とその考察
(報告会使用資料・抜粋)

平成28年度「島であそべんちゃーIN野々島」

参加児童と保護者へのアンケート調査結果
報 告

金沢44市
13M0062 佐藤真由 13M0010 松原直喜 13M0006 阿部史華
13M0009 石川健太 13M0010 伊藤結香 13M0015 遠藤祐
13P0021 遠藤由貴 13M0112 川村知香 13P0067 菅原悠里江
13P0062 中澤美穂 13P0077 長中川穂香 13M0112 松浦光希
13M0113 松岡希登 13M0115 水戸遙
13M0117 山内貴 13M0125 巻松尚美

目次

第1章 調査の概要

1.テーマ

2.問題意識

3.実施概要

(1) 調査の対象

(2) 調査の実施方法

(3) 調査の期日

(4) 回収結果

(5) 調査対象

(6) 対象属性

第2章 調査結果と考察

1. 保護者への質問

(1) 活動全体について

(2) 参加費と活動時期について

(3) 意見・要望

2. 児童への質問

(1) 活動全体について

(2) 個々の活動について

(3) 食事について

(4) 学生の対応について

(5) 意見・要望

第1章 調査の概要

1. テーマ

「島であそべんちゃーIN野々島」の参加児童とその保護者への満足度調査

2. 問題意識

学生が中心となって企画から準備、そして実施した「島であそべんちゃーIN野々島」について本調査を通して、活動に参加した児童やその保護者の本活動への満足度、さらには率直な意見や要望をいただいたアンケート調査を実施することにした。このアンケート調査は本調査で2年目である。昨年度との結果と比較するとともに、この調査の集計結果で得たことを今後の活動に活かしていきたいと考えている。

(4)回収結果

配布数 26 (児童26名、保護者26名)セット

回収数 22 (児童22名、保護者22名)セット

回収率 84%

(5)主体

金 政信ゼミ 4年生16名

(6)対象属性

児童 22名(男 10名、女 12名)

保護者 22名

(文責:水戸遙)

第2章 調査結果と考察

1. 保護者への質問

(1)活動全体について

親問1 なぜ、この活動に参加してみようと考えましたか。

経験重視 50%

子供希望 33%

学び重視 13%

その他 4%

親図表2

経験重視	子供希望	学び重視	その他	N
9	6	2	1	18

親問1 なぜ、この活動に参加してみようと考えましたか(昨年度)

経験重視 65%

子供の希望 25%

学び重視 5%

その他 5%

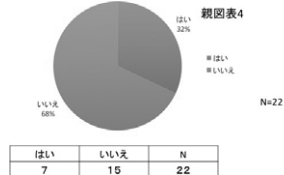
親図表3

経験重視	子供の希望	学び重視	その他	N
12	6	1	1	20

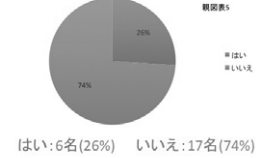
親問1 まとめ

- 普段の日常では経験できない体験が児童の成長にプラスに働く貴重な体験になり得ると保護者目線に捕らえられたのだと推測できる。
- 事前に告知した島での自然体験内容が参加前の児童の注目を集めていたと推測でき、宣伝効果が十分あったと共に3年目の成果を得られたのではないかと推測できる。
- 学校生活や社会で不可欠と言える積極性、社交性が本活動を通じ培われることに期待して、児童を参加させた保護者も多かったと推測できる。
- 自然体験学習が出来る活動が数少なく良い機会となっていることや、参加児童が年に1度の本活動を楽しみにしてくれているということが推測できる。

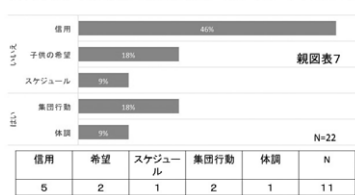
親問2 この活動に参加させるにあたり不安はありましたか。



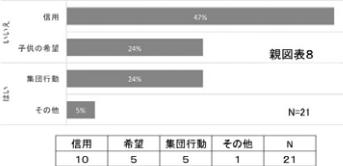
親問2 この活動に参加させるにあたり不安はありましたか。(昨年度)



親問2-2 よろしければその理由をお書きください。



親問2-2 よろしければその理由をお書きください。(昨年度)



親問2 まとめ

- 事前に告知した本活動の内容、説明が保護者の不安を緩和したと推測できる。
- 福祉大生、大学の教員、外部支援者が主体で付き添うことで安心感があったことが推測できる。
- 3回目の開催となり本活動への信頼がされたと推測できる。

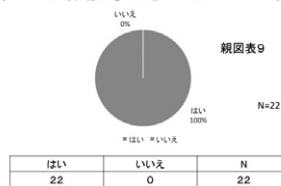
- 情報化社会が進み、会話が無くても生活が出来るようになってしまい、コミュニケーション不足が懸念されているのではないかと推測できる。

- 本活動は信用されているが、昨年度より不安がある保護者が増えた。

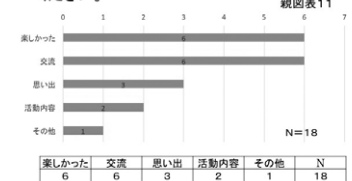
- 改善策として大学のホームページにあげられている本活動のURLを募集要項に掲載し理解を得る

文責:石川 健太

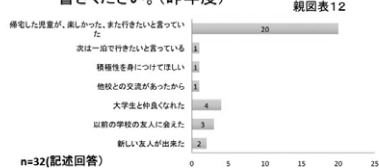
親問3 この活動に参加させてよかったですか。



親問3-2 よろしければその理由をお書きください。



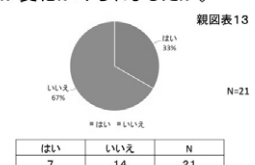
親問3-2 よろしければその理由をお書きください。(昨年度)



親問3 まとめ

- 満足度が高い要因として、活動前の事前学習が活かされ児童の目線に立った遊びや食事を考えられた、リスク管理の徹底。
- 児童の交流が深まった。
- 家庭内での会話につながった。

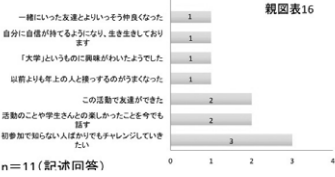
親問4 本活動に参加する前と後では、お子様に何か変化がみられましたか。



親問4-1 よろしければその理由をお書きください。



親問4-1 よろしければその理由をお書きください。(昨年度)

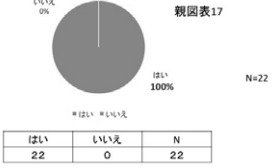


親問4 まとめ

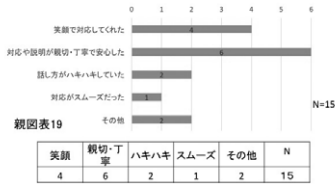
- ・楽しいだけでなく、新たな価値観や心情的な変化を与えられたのではないかな。
- ・児童にとって、大学生は大人で憧れを抱く存在。
- ・児童の興味が広がり、次につながる体験となった。

文責：山内 葵

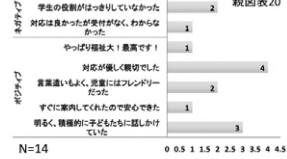
親問5 集合時のお子様を預ける際(受付)の、学生の対応はよかったですか。



親問5-2 よろしければその理由をお書きください。



親問5-2 よろしければその理由をお書きください。(昨年度)



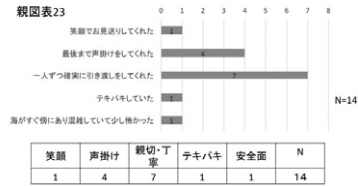
親問5 まとめ

- ・机を設置して受付場所を分かりやすくしたことで、参加者がスムーズに受付できた。
- ・自分の持ち場や役割の確認を徹底し、自分の役割に集中したことで参加児童への積極的な声掛けに繋がった。
- ・全体的に、保護者対応の仕方や児童への接し方が昨年度よりも向上した。

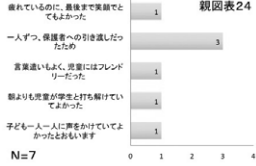
親問6 解散時のお子様の引渡しについて、学生の対応はよかったですか。



親問6-2 よろしければその理由をお書きください。



親問6-2 よろしければその理由をお書きください。(昨年度)

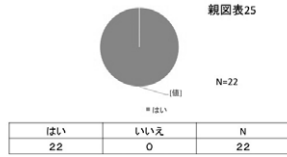


親問6 まとめ

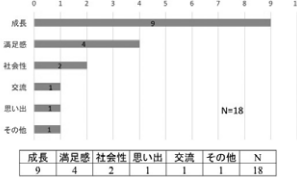
- ・昨年度同様、「一人ずつ確実に引き渡してくれた」という回答が一番多く、防犯を意識した対応が保護者の目に留まった。
- ・解散場所が海の傍で混雑していたため、安全性を疑問視する保護者もいた。

文責：菅原悠里江

親問7 このような企画があればまた参加させたいですか。



親問7-2 よろしければその理由をお書きください。
親図表27



親問7 まとめ

- ・普段の生活ではできない野外体験や交流を通して成長して欲しいという思いがある。
- ・多くの子どもから高い満足度を得ることができ、それが保護者の満足度にもそのまま繋がったことで、全ての保護者から「また参加させたい」という回答を得ることができた。

文責:長谷川明里

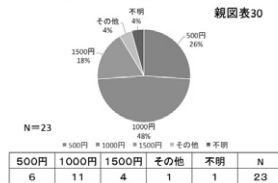
親問8 今回と同様の日帰りの企画で参加費を徴収するならば、いくら位が妥当だと思いますか。



親問8 まとめ

- ・交通費や食費、そして学生からのプレゼント等の負担を考えた結果からであると考えられる。
- ・1000円が11名(50%)と最も多く、次いで2000円でも参加したいという保護者が4名(18%)、1500円という保護者が2名(9%)だった。
- ・ほとんどの保護者が、500円は負担してもかまわないという結果であるため、今後は500円程度の参加費を考えてもよいのではないかな。

親問8 今回と同様の日帰りの企画で参加費を徴収するならば、いくら位が妥当だと思いますか。(昨年度)

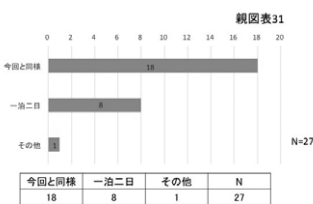


親問8 昨年度との比較

- ・昨年度は参加費1000円の次に多かった額は500円程度だったが、今年は2000円位が妥当であるとの回答が多かった。
- ・昨年度と比べて更に活動内容の質や保護者からの評価が上がっているのではないかな。

文責:中澤夏緒

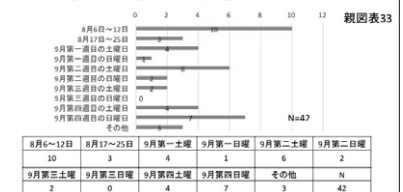
親問9 活動時間はどの位が良いと思いますか。



親問9 まとめ

- ・本活動に多少の物足りなさを感じた保護者もいたようだ。
- ・丸一日や一泊二日での活動となると、リスク管理の面や、保護者の不安増大などから、現段階での実現は難しい。
- ・今後、活動時間に関しては様々な工夫が可能である。

親問10 開催の時期についてお伺いします。
妥当と思われるものをお選びください。



親問10 まとめ

- ・昨年同様、児童の夏休み中頃に当たる期間に開催を希望する保護者が多かったようだ。
- ・冬休み中にスキー体験をしたいという意見や、春や秋などの気候が穏やかな季節を希望する意見があった。
- ・天候面から、気候の穏やかな季節に行うのが好ましいと推測できる。

文責:佐藤真由



親問11 その他ご意見・ご要望がありましたらお書きください。



親問11 まとめ

- ・意見や要望の記載が少なかったものの、記入していただいた意見は去年と比較するとお礼の言葉も多かった。
- ・「福祉大に入りたい」「福祉大学に行く」という児童の意見を頂き、本活動では私たちの頑張りと保護者や児童への対応がもっとも評価されたのではないかと感じた。

文責：川村 知登

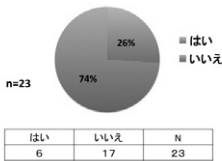
2.児童への質問

(1)活動全体について

子問1 この活動に参加する事に不安はありましたか。



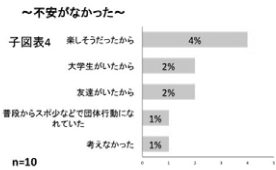
子問1 この活動に参加する事に不安はありましたか。(昨年度)



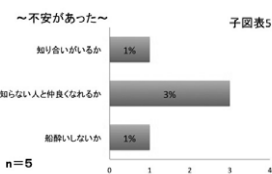
子問1-2 よろしければその理由をお書きください。



子問1-2 よろしければその理由をお書きください。(昨年度)



子問1-2 よろしければその理由をお書きください。(昨年度)



子問1 まとめ

- <不安がなかった>
- ・ 友達がいいたから
- ◎昨年度との比較
- ・ 昨年度よりも小学校によっては多くの児童が申し込んでくれたこと、学校外での活動での顔見知り、抽選であったことなどが理由ではないか。

子問1 まとめ

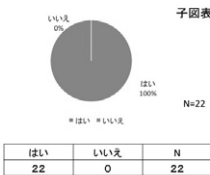
- <不安があった>
- ・ 知らない人と仲良くなれるか
- ◎昨年度との比較
- ・ 児童が一番不安に感じているポイントは、昨年度と変わらなかった。

文責：松浦 光琴

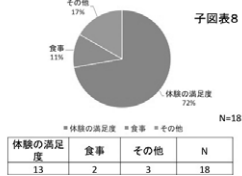
子問1 まとめ

- ・ 楽しそうだったから不安を感じなかったという児童が昨年度の4名から2名に減った。
- ・ 昨年度の反省を活かすことができなかったのではないか。

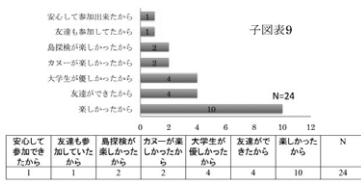
子問2 この活動に参加してよかったですか。



子問2-2 よろしければその理由をお書きください。



子問2-2 よろしければその理由をお書きください。(昨年度)

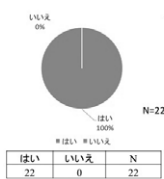


子問2 まとめ

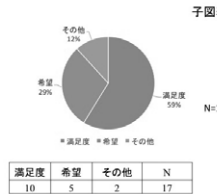
- ・22名の児童全員が参加してよかったと感じており、今回の活動は児童たちを十分に満足させることのできる内容の企画になっていた。
- ・食事に関する理由も多数あり、児童にとって活動の内容だけでなく昼食に関しても楽しみのひとつである。
- ・そのため、企画だけでなく昼食についても工夫を凝らす必要性もある。

文責：伊藤綾香

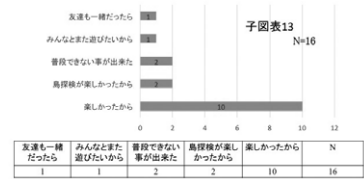
子問3 またこのような企画があれば参加したいですか。



子問3-2 よろしければその理由をお書きください。



子問3-2 よろしければその理由をお書きください(昨年度)



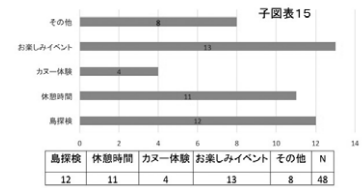
子問3 まとめ

- ・17名中10名が「企画が楽しかったから」と回答していたため、魅力ある楽しい企画になっていた。
- ・「色々な活動してみたいから」との回答が3割程度あったことから、活動時間の延長や活動内容の種類を増やすことも検討してもよいのではないかと。
- ・活動内容は全員共通にする。(ひとつのプログラムに特化できるので、活動の深堀りやリスク管理、スケジュール管理が容易になる。)

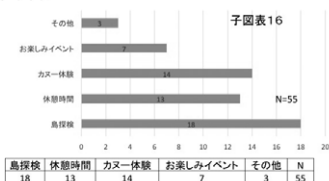
文責：阿部史華

(2) 個々の活動について

子問4 活動の中で何が楽しかったですか。(複数回答)



子問4 活動の中で何が楽しかったですか。(昨年度)

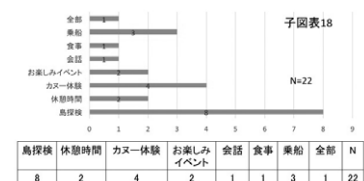


子問4 まとめ

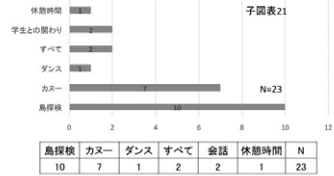
- ・メインの活動である島探検とカヌー体験が人気。
- ・島探検は昨年に引き続き宝探しのようなゲーム感覚が楽しい。
- ・カヌー体験をもっと多くの児童が参加出来るよう検討すべき。
- ・お楽しみイベントはダンスよりもゲームの方が楽しんでもらえる。
- ・休憩時間や余った時間をどう利用するかを安全面に配慮し、具体的に練るべき。
- ・ほとんどの児童がいずれの活動も楽しかったと複数回答をしているため、全体的に満足のいく活動であったと考えられる。

文責：若松 苑実

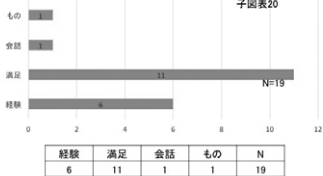
子問5 1番楽しかった活動は何ですか？



子問5 1番楽しかった活動は何ですか？
(昨年度)



子問5-2 よろしければその理由をお書きください。



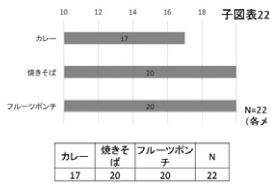
子問5 まとめ

- メインの活動が人気。その理由も昨年と同様にポジティブな回答が多く見られた。
- 島探検とカヌー体験を今後はどう行うか検討すべきである。
- 今年は「島のことを学べた」という回答がなかったため、「島を知ってもらおう」という目的を果たせるよう、より一層知識を身につけ、島を知ってもらおう取り組みが必要である。
- 乗船時に児童と簡単なゲームをすると児童と打ち解け、児童から目を離さない対策に良いと推測できる。

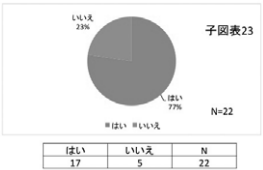
文責：若松苑実

(3) 食事について

食事別支持表



子問6 カレーはおいしかったですか。



子問6-2 よろしければその理由をお書きください。

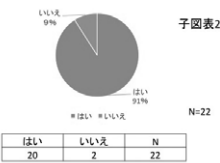
- ＜満足度＞
- おいしかったし、辛さも良かった。
- お肉が美味しかった。
- ＜場所＞
- 外で食べたカレーは大変美味しかった。
- 外で食べたから。
- ＜味＞
- 具が沢山入っていたから。
- 甘かったから。

等

子問6 まとめ

- 辛さやお肉が美味しかった等「満足度」の回答が最も多く、参加児童向けの具材や味付けに良かったことが良かった。
- 外で食べたためという「場所」についての回答もあった。普段の生活の中で、屋外でみんなで食事を食べる機会はないため大変貴重な機会になったと考える。

子問7 焼きそばはおいしかったですか。



子問7-2 よろしければその理由をお書きください。

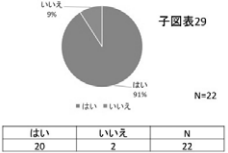
- ＜満足度＞
- 上手にできていて何回もおかわりした。
- ソースのかげんも丁度良くおいしかった。
- おいしかったから。
- ＜味＞
- 味がしっかりしてた。
- ＜その他＞
- 麺がもちもちしていた。
- 外で食べたから。
- 具がいっぱいだった。

等

子問7 まとめ

- 味や具材や麺が美味しかった。具材がいっぱい等「満足度」の回答が一番多く、参加児童が焼きそばを何度か何回もおかわりする姿が見られた。
- 気温が高かったためあまり食欲がない参加児童もいたと考えられるが、焼きそばは食べやすく、好き嫌いの少ないメニューであることが分かった。

子問8 フルーツポンチはおいしかったですか。



子問8-2 よろしければその理由をお書きください。

- ＜自分で作れたから＞
- ・色々な具が入っていたので。(自分で作ったので…)
- ・自分で選べたから。
- ・好きなフルーツが入っていたから。

＜味＞

- ・果物やジュースが選べて、甘すぎずにおいしかった。
- ・甘くて、シュワシュワしてて、サイダーか、カルピス選べる所もよかった。
- ・シュワシュワしてて、フルーツがおいしかった。

＜その他＞

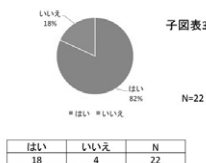
- ・外で食べたから。
- ・みずみずしい。 等

子問8 まとめ

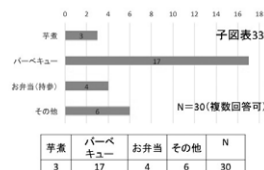
- ・「自分で作れたから」という回答が最も多かった。色々な具材を用意し、参加児童自身で好きな具材を選ぶことは大変満足度の高い結果になった。ただ食事をするのではなく、参加児童自身で選んだり、作ったりするメニューを取り入れたことは良かったと考える。

- ・フルーツやジュースについての回答も多くあり、フルーツポンチは甘くて美味しいといった点から、参加児童に好まれるメニューであることが分かった。

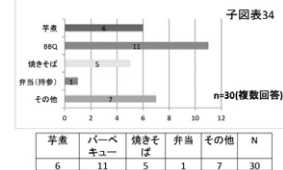
子問9 今後同様な企画に参加する場合、他に食べたいものはありますか。



子問9-2 「はい」とお答えいただいた方にお伺いします。なにが食べたいですか。(複数回答可)



子問9-2 「はい」とお答えいただいた方にお伺いします。なにが食べたいですか。(昨年度)

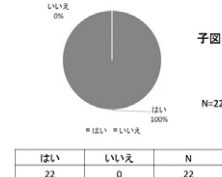


子問9 まとめ

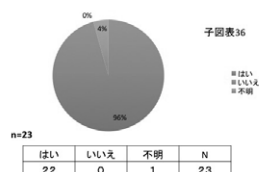
- ・昨年と今年度との比較から、バーベキューが最も人気が高いことが分かった。この理由として、参加児童が自分自身で好きな具材を選んだり、作ったり、といった普段の生活ではなかなかできないような食事に興味を持っていることが考えられる。これらの結果から、今年度のフルーツポンチのように、参加児童自身で具材を選べる食事を用意したことは良かったと考えた。来年度以降も参加児童が自分自身で参加する食事を考案していくと、食事に対する満足度がさらに高まると考える。
- ・昨年度の設問で5名(17%)から回答のあった「焼きそば」を、今年度はメニューの1つとして実施した結果、大変満足度の高い回答が得られたことはとても良かった。 文責: 遠藤郁

(4)その他について

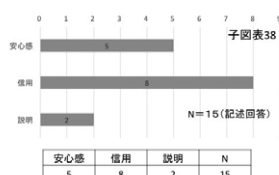
子問10 大学生のお兄さんやお姉さんは、きちんと対応してくれましたか。



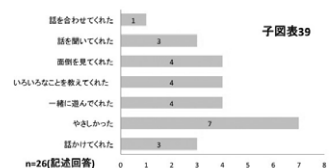
子問10 大学生のお兄さんやお姉さんは、きちんと対応してくれましたか。(昨年度)



子問10-2 よろしければその理由をお書きください。



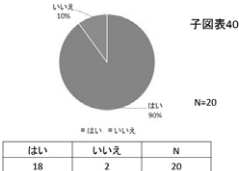
子問10-2 よろしければその理由をお書きください。(昨年度)



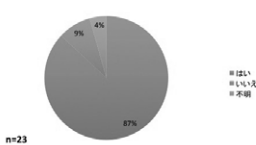
子問10 まとめ

- ・児童全員が満足してくれた。
- ・親問2の理由(児童の対応に慣れている大学生の企画・運営と
思ったため)では、参加児童から保護者に学生の対応が伝
わっているのではないか。
- ・親問3の理由(活動内容や昨年のHPを見て安全であると思っ
たため)では、昨年の活動の成果ではないか。
- ・昨年と比較してもほぼ変化はなく、参加児童に対して優しく接
することができたと推測できる。

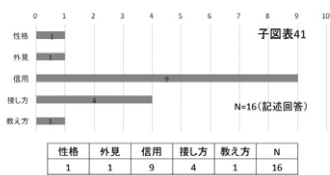
子問11 印象に残ったお兄さんやお姉さん
はいましたか。



子問11 印象に残ったお兄さんやお姉さん(はい
ましたか。(昨年度)



子問11-2 よろしければその理由をお書きください。



子問11 まとめ

- ・ほとんどの参加児童がイベント終了後も学生のことを覚えて
いる。
- ・慣れない環境下では参加児童にとって学生は大きな存在と
なり、参加児童の印象に残ったのではないか。
- ・ユニークなニックネームほど参加児童の印象に残りやすい
のではないか。

子問12 その他ご意見・ご要望などありましたら
お書きください。

- ・冬の時期にあればまた参加したいです。
- ・貴重な体験本当にありがとうございました。
- ・子供たちにとってとても良かった。
- ・また行きたい！5年生もよろしく願います。
- ・また参加したいです！

子問12 まとめ

- ・保護者の方からも要望としてあったように、1年に数回実施で
きるよう今後工夫が必要ではないか。
- ・4年生のみの活動ではなく、他学年も参加できるようにするこ
とで本活動がこれまでに以上に広まり、そして活動の継続へも
繋がっていくのではないか。
- ・現状としては、リスク管理・支援学生の増員・資金面などの課
題を克服していく必要がある。

文責:松岡杏奈

3. アンケート用紙（集計結果記入済み）

「島であそべんちゃーIN 野々島」についてのアンケート

保護者様へ

○活動全体についてお伺いします

問 1

なぜ、この活動に参加してみようと考えましたか。その理由をお書きください。
例) 子どもが参加したいと言ったから、自然体験をしてほしいと思ったからなど
記述あり (21 名 95%)

問 2

この活動に参加させるにあたり不安はありましたか。
1. はい (7 名 32%) 2. いいえ (15 名 68%)

問 2-2

よろしければその理由をお書きください。
記述あり (14 名 64%)

問 3

この活動に参加させてよかったですか。
1. はい (22 名 100%) 2. いいえ (0 名 0%)

問 3-2

よろしければその理由をお書きください。
記述あり (18 名 82%)

問 4

本活動に参加する前と後では、お子様に何か変化がみられましたか。
1. はい (7 名 33%) 2. いいえ (14 名 67%)

問 4-1

「はい」とお答えいただいた方にお聞きします。よろしければその理由をお書きください。
記述あり (6 名 86%)

1

問 5

集合時のお子様を預ける際（受付）の、学生の対応はよかったですか。
1. はい (22 名 100%) 2. いいえ (0 名 0%)

問 5-2

よろしければその理由をお書きください。
記述あり (15 名 68%)

問 6

解散時のお子様の引き渡しについて、学生の対応はよかったですか。
1. はい (21 名 95%) 2. いいえ (1 名 5%)

問 6-2

よろしければその理由をお書きください。
記述あり (14 名 64%)

問 7

このような企画があればまた参加させたいですか。
1. はい (22 名 100%) 2. いいえ (0 名 0%)

問 7-2

よろしければその理由をお書きください。
記述あり (18 名 82%)

○参加費と活動時期についてお伺いします

問 8

今回と同様の日帰りの企画で参加費を徴収するならば、いくら位が妥当だと思いますか。（1 つ回答）
1. 500 円 (2 名) 2. 1000 円 (11 名)
3. 1500 円 (2 名) 4. 2000 円 (4 名)
5. その他 (3000 円～8000 円) (3 名)

問 9

活動の時間はどの位が良いと思いますか。（複数回答可）
1. 今回と同様 (半日程度) (18 名)
2. 一泊二日 (8 名)
3. その他 (一日) (1 名)

2

問 10

開催の時期についてお伺いします。妥当と思われるものをお選びください。（複数回答可）
1. お子様の夏休み期間、お盆前 (8 月 6 日～12 日) (10 名)
2. お子様の夏休み期間、お盆後 (8 月 17 日～25 日) (3 名)
3. 9 月第一週目の土曜日 (4 名)
4. 9 月第一週目の日曜日 (1 名)
5. 9 月第二週目の土曜日 (6 名)
6. 9 月第二週目の日曜日 (2 名)
7. 9 月第三週目の土曜日 (2 名)
8. 9 月第三週目の日曜日 (0 名)
9. 9 月第四週目の土曜日 (4 名)
10. 9 月第四週目の日曜日 (※今回開催した時期) (7 名)
11. その他 (冬休み中、春や秋など気候が穏やかな季節) (3 名)

問 11

その他ご意見・ご要望などがありましたらお書きください。
記述あり (6 名 36%)

3

参加児童へ(保護者の方が、お子様に聞いてお答えください)

○活動全体についてお伺いします

問 1

この活動に参加することに不安はありましたか。
1. はい (6 名 27%) 2. いいえ (16 名 73%)

問 1-2

よろしければその理由をお書きください。
記述あり (16 名 73%)

問 2

この活動に参加してよかったですか。
1. はい (22 名 100%) 2. いいえ (0 名 0%)

問 2-2

よろしければその理由をお書きください。
記述あり (18 名 82%)

問 3

またこのような企画があれば参加したいですか。
1. はい (22 名 100%) 2. いいえ (0 名 0%)

問 3-2

よろしければその理由をお書きください。
記述あり (17 名 77%)

○個々の活動についてお伺いします

問 4

活動の中で何が楽しかったですか。（複数回答可）
1. 島探検（談当者） (12 名)
2. 休憩時間（砂浜での貝殻拾い、大学生との交流など） (11 名)
3. カヌー体験（談当者） (4 名)
4. お楽しみイベント（ジェスチャーゲーム） (9 名)
5. その他（お昼ご飯、船の時間、らくがきボード） (13 名)

4

80

問 5

一番楽しかったのは何ですか、またその理由をお書きください。
一番楽しかったこと（カヌー、島探検、全部、砂浜での貝殻拾い、船の時間、お姉さんとのおしゃべり、写真、休憩時間、お昼ご飯、お楽しみイベント）

その理由
カヌーは初めてだったけど旋回もできたり落ちなかったのが楽しかった、自分の力でカヌーを動かせた、カヌーは初めてだったから、お姉さんがいっぱいお話をしてくれた、楽しかったから、砂浜で遊ぶ機会が少なかった、船でのゲームが面白かった、カレーがおいしかった、探検でいろんな謎が解けた、みんなの動きが面白かった

○食事についてお伺いします

問 6

カレーはおいしかったですか。
1. はい (17 名 77%) 2. いいえ (5 名 23%)
3. 食べていない (0 名 0%)

問 6-2

よろしければその理由をお書きください。
記述あり (9 名 45%)

問 7

焼きそばはおいしかったですか。
1. はい (20 名 91%) 2. いいえ (2 名 9%)
3. 食べていない (0 名 0%)

問 7-2

よろしければその理由をお書きください。
記述あり (10 名 45%)

問 8

フルーツポンチはおいしかったですか。
1. はい (20 名 91%) 2. いいえ (2 名 9%)
3. 食べていない (0 名 0%)

5

問 8-2

よろしければその理由をお書きください。
記述あり (12 名 55%)

問 9

今後、同様な企画に参加する場合、他に食べたいものはありますか。
1. はい (18 名 82%) 2. いいえ (4 名 18%)

問 9-2

「はい」とお答えいただいた方にお伺いします。なにが食べたいですか。
(複数回答可)
1. 芋煮 (3 名) 2. パーベキュー (17 名)
3. お弁当 (持参) (4 名)
4. その他 (焼きマッシュマロ、フランクフルト、チャーハン、チョコバナナ、フライドポテト) (6 名)

○その他についてお伺いします

問 10

大学生のお兄さんやお姉さんは、きちんと対応してくれましたか。
1. はい (22 名 100%) 2. いいえ (0 名 0%)

問 10-2

よろしければその理由をお書きください。
記述あり (15 名 68%)

問 11

印象に残ったお兄さんやお姉さんはいましたか。
1. はい (18 名 90%) 2. いいえ (2 名 10%)

問 11-2

「はい」とお答えいただいた方にお伺いします。どんなところが印象深かったですか。よろしければその理由をお書きください。
記述あり (16 名 88%)

問 12

その他ご意見・ご要望などありましたらお書きください。
記述あり (6 名 27%)

6

○最後に、今までお聞きしたことを分析する上で必要な属性についてお伺いします。

問 1

参加児童の性別 1. 男 (10 名 45%) 2. 女 (12 名 55%)

問 2

参加児童のハチマキの色
1. 赤 (6 名 27%)
2. 白 (5 名 23%)
3. 黄 (5 名 23%)
4. 桃 (ピンク) (4 名 18%)

問 3

所属は、次のどれですか。
1. 第一小学校 (0 名 0%)
2. 第二小学校 (0 名 0%)
3. 第三小学校 (6 名 27%)
4. 月見ヶ丘小学校 (5 名 23%)
5. 杉の入小学校 (5 名 23%)
6. 玉川小学校 (6 名 27%)

以上で質問は終わりです。

ご協力ありがとうございました。

(データ集計及び分析：遠藤 由貴)

7

第 2 章 プロジェクト実施内容 | 81

Ⅲ．学生企画事業

学生企画事業

目 的

世代的に子どもたちに目線が近く、また日頃のボランティア等で子どもと接している学生の多様なアイデアを活用し、有効な子ども支援を行う。

コンペ形式のプレゼンテーションを行うことで、事業の目的や効果、リスク、留意事項などを明らかにするとともに、学生のプレゼン力を向上させる。

自分たちの活動がコンペを通じて選ばれることによって自己肯定感を高め、学生のやる気と主体性を促進させ、実践力アップを図る。



実施計画

期間	項目	内容
4 月 28 日	募集広告	学生企画事業のコンペ開催を全学生に通知
5 月 13 日	説明会	学生企画事業について説明会を開催
5 月 24 日	コンペ本選	応募したグループ毎に事業構想をプレゼンテーション・コンペ
	審査	プロジェクト委員会で審査
5 月 25 月	審査結果発表	入選団体の発表
5 月 31 日	説明会	入選団体へ活動時の留意点、会計処理の説明会を開催
6 月		各団体の事業計画、予算計画の調整
7 月～ 12 月	活動期間	事業計画に沿って活動を実施（実施の都度、活動報告書を提出）
1 月 17 日	事業報告	団体毎に活動全体の報告、会計報告

事業一覧

団体名 / 企画名	概要	開催日	募集方法	受付方法	開催場所	募集対象 / 定員	主催者人数
ステーションキャンパスクラブ（SCC） 燃えろ！スポフェス 2016（かるた & 運動会）	かるたやジャグリングの体験ができる機会や、運動の苦手な子どもでも楽しめる〇×クイズ、徒競走、借り物競争など、「知」「力」「体」を使って楽しむイベントを開催する。イベントを通して、単に遊びを楽しむだけでなく、子ども達同士で協力することや社会ルールについて学んでもらいたい。	① 9/17(土) ② 11/5 (土) ③ 12/3 (土)	七郷児童館と連携し、ポスターの掲示や七郷児童館だよりイベント内容を掲載してもらい、広報する。	七郷市民センター窓口に申込みの受付を依頼する。	①七郷児童館遊戯室 ②七郷児童館遊戯室 ③七郷市民センター体育館	七郷地区の児童 各回とも 30 名	各回とも 5～10 名
ふぁみりあ ふぁみりあ被災地子供支援事業	レクリエーションを通して「親子間・子供同士・親同士の交流」を目的とし、「秋」をテーマとした複数のブースを設営し、子供たちと保護者がテーマパークを周っているようなイベントを開催する。	11/6（日）	名取市の複数の小学校にチラシを配布する。	FAX による申込み受付。	名取市内	名取市内の親子、兄弟 30 組	最大で 50 名
三浦ゼミ ことばの貯金箱	新聞を活用した「ことばの貯金箱（NIE 活動）」を通して、子どもたちに新聞へ興味関心を持ってもらう、読解力や表現力を向上させるワークショップを開催する。心のケアにつながることを期待したい。	① 9/25(日) ② 10/30(日) ③ 11/27(日)	七ヶ浜町の小学校各学級にチラシの配布を依頼し、児童に広報する。	メール、FAX による申込み受付。	①七ヶ浜国際村 ②生涯学習センター ③七ヶ浜国際村	七ヶ浜地区の小学生 各回とも 15 名	各回とも 28 名
森ゼミ 創作ワークショップ	子どもたちの創造力を最大限に引き出し、子ども同士のコミュニケーションを引き出すような創作ワークショップを開催する。活動を通じて私たちも一緒に成長したい。	① 10/8(土) ② 12/3(土)	七郷児童館、荒井タウンマネジメントを通じて、対象地域にチラシを配布する。	開催前の約 1 ヶ月間メールによる申込み受付。	各回とも アライデザインセンター II	七郷地区の小学生 各回とも 20 名	① 9 人 ② 10 人
渡会ゼミ 渡会ゼミ音楽コンサート in 南三陸	被災当時小学生だった高校生や子どもたちに、生の音楽を間近で聞いてもらうことで、心の癒しとなるような音楽活動を実施する。高校生への楽器演奏指導と合同演奏のほか、仮設住宅の子どもたちなどの前で演奏し、親睦を深め、被災者の心に寄り添って音楽を奏でることの大切さを学びたい。	11/6（日）	チラシを開催場所配布してもらう。	事前申し込み不要。 当日、記名方式で受付を行う。	午前： 宮城県志津川高等音楽教室 午後： 中瀬町仮設住宅集会所	南三陸町の高校生、吹奏楽部員、保護者 仮設住宅の子どもたち、地域の方々 定員は設けない	38 名
萩野ゼミ 簡単楽しいサバメシ作り	防災体験のイベントを開催し、南三陸町の子ども達から、震災当時の聞き取りとアンケートを行い、震災を知らない子ども達にもわかりやすい絵本にまとめる。絵本は、防災啓発活動などに活かす。	① 8/6 (土) ② 9/25 (日) ③ 10/29 (土) ④ 12/4 (日)	七郷小学校、七郷中学校の各クラスにチラシを配布する。 森ゼミ、SCC と連携して募集する。	メールによる申込み受付。	せんだんの丘ぶらす あらい	荒井地区の小中学生 10 名 保護者 10 名 (各回とも 10 組)	各回とも 18 名
TeamBousaisi 君とつくる未来プロジェクト	防災体験のイベントを開催し、南三陸町の子ども達から、震災当時の聞き取りとアンケートを行い、震災を知らない子ども達にもわかりやすい絵本にまとめる。絵本は、防災啓発活動などに活かす。	10/29（土）	南三陸町の小・中学校全校に協力を頂き、チラシを配布。 アンケートの協力をお願いする。	メール、FAX、電話による申込み受付。	南三陸ポータルセンター	南三陸の小学 4 年生～ 中学 3 年生 30 名	12 名
船渡ゼミナール 山元町の子ども達との絆プロジェクト	被災の嫌な過去の思い出を、私たちと共に遊び楽しむことで忘れ、今までより更に地元を好きになってもらうことを願い、ニュースポーツ（バドミントン、スカイクロス、ラダーゲッター）とマジックショーなどを地域の子どもたちと一緒に楽しむイベントを開催する。	11/19(土)	ポスターを作成し、山元町子どもセンターで広報してもらう。	メール、電話、FAX による申込み受付。	山元町子どもセンター	山元町の児童 16 名	10 名

I. ことばの貯金箱 活動報告

事業名及び趣旨

事業名：ことばの貯金箱 in 七ヶ浜

趣旨：ことばの貯金箱（NIE 活動）を通して、子どもたちが新聞に興味・関心を持ってもらうことや表現力、語彙力の向上を図ること。また、言葉を用いて自分の気持ちを表現することで、心のケアをすること。

開催団体名

東北福祉大学教育学部教育学科

三浦ゼミ

1. ことばの貯金箱 in 七ヶ浜 その1

担当者 佐藤 圭祐

(1) 活動日時

平成 28 年 9 月 25 日 (日) 11:40 ~ 18:00

(2) 開催場所

七ヶ浜国際村 セミナー室 2

(3) 参加者の状況（対象者、参加者数、開催者数）

対象者：七ヶ浜町の小学生

参加者数：5 人（小学生 5 名）

開催者数：20 人（学生 19 名、教員 1 名）

(4) 開催内容（当日のスケジュール、活動状況など）

当日の日程

10:00	東北福祉大学前駅 集合
11:40	下馬駅 合流
11:40~12:10	移動（ぐるりんこ）
12:10~12:50	到着、会場設営、昼食
12:50~13:10	受付
13:10~13:20	開始、アイスブレイク
13:20~13:30	ことばの貯金箱説明
13:30~14:00	切る活動
14:00~14:10	休憩
14:10~14:50	貼る活動
14:50~15:00	作品発表、終了
15:00~16:00	反省会、撤収作業
17:30~18:00	移動（ぐるりんこ）
18:00	下馬駅到着、解散

(5) 活動報告

①アイスブレイク

・参加者で打ち解けるために簡単なゲームを行いました。初めて参加した子どもたちもいたので、雰囲気作りになりました。



写真1：アイスブレイクの様子

②「ことばの貯金箱」活動

(a)「ことばの貯金箱」活動の説明

・昨年活動を行った3年生の学生から、事前に準備していた活動の流れの図を基にして、作業の説明と言葉を選ぶ際のポイントについて解説をしました。



写真2：「ことばの貯金箱」の説明

(b) 新聞から自分の好きな言葉や写真を切り取り、台紙に張り付ける活動

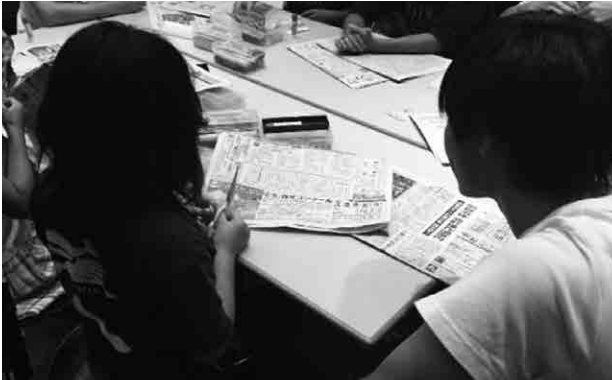


写真 3：はさみで切り抜く様子

・言葉や写真の切り取りが進んでいくと、合言葉である「ちゃり〜ん」や「いいね!」という言葉が、絶えず会場を飛び交うようになりました。

③作品発表



写真 4：作品の発表の様子

④賞状贈呈



写真 5：賞状を渡す様子

(6) 参加者からの感想

①小学生

- 3年生女子：せつめいがすごく上手で去年よりよくわかりました。
- 3年生女子：いちばんおもしろかったときは、はっぴょうです。みんなの作ひんは、とてもおもしろかったです。

②保護者

- 子供達と大学生が2時間という短い時間で仲良くなり、作業を進めて、完成できてよかったです。これからの2回の活動も参加しますのでよろしくお願いします。
- 昨年参加し、とても楽しかったようで、今年も参加したい!と学校から申込用紙を持ってきました。学年が上がり、漢字もより多く読めるようになったので、今年はどんな作品を作ってくるのか親としてもとても楽しみにしていました。「ことばの貯金箱」で新聞が身近な存在になったのではないかと思います。これからも楽しく、ためになる活動、参加していきたいです。ありがとうございました。

③学 生

- 8月に七ヶ浜で行われたサマーフェスティバルを経験し、今回はその時よりも人数が多く小学生一人にあたる人数が多くスムーズに進めることができた。学生一人一人が臨機応変に対応できていた。
- アイスブレイクの活動を最初に設けることができて良かった。次回からの活動でも、さらに子どもたち同士、学生とも仲良くなれるような活動を考えていきたい。

④教 員

- 七ヶ浜町で行う「ことばの貯金箱」の活動は3年目を迎えた。1年目は現在の4年生が2年生の時に手探り状態で始めたが、「ことばの貯金箱」の開発者である渡辺裕子先生（本学兼任講師）のご指導を受け、子どもたちや保護者の方からも「息の長い活動にしてほしい」という声を多くいただき、活動への手ごたえを得ることができた。また、翌年から2年生と3年生の2学年合同の活動となって、活動の継承も図られるようになった。昨年参加した子どもたちの様子から、子どもたちの生活に新聞を通してことばが育って

いること、小さな実践だが、震災復興に向かっている地域への貢献につながっていると感じた。

(7) 活動を通して学んだこと、課題

①良かった点

○活動の説明する際に使う、ホワイトボードに貼る順序の図を作成したことで、新聞から好きな言葉・写真を切る→台紙に張り付ける→完成という順序を口で説明するだけでなく、作業の様子や貯金箱に入れる様子など作業の流れを図にすることにより、説明しやすいというのと同時に、小学生が耳で聞くだけでなく視覚的にも理解でき、作業のイメージがしやすくなりました。また、作業中など困ったときにその図を見ることにより、現在行っている活動がどこかと把握することができました。

○活動の最初にオープニングとして、アイスブレイクの時間を設けました。そこで、自己紹介、また名前を覚える活動を行ったことにより子ども同士の緊張がとれ、学生との仲もよくなり、その後の実際の活動へと円滑に進めることができました。

②改善点

○活動の最後に配る賞状の作成とアンケート封入作業を当日の活動時間の中でやったため、その間子ども

たちとの活動の時間にあてることができませんでした。そこで、次回からは参加者が確定次第、行える範囲で事前に準備を進めていきたいと考えます。また、会場設定、受付方法などが曖昧でした。そのため、国際村到着から受付までの時間が短いにもかかわらず、慌ててして準備をしてしまいました。次回からは、場を想定して事前に会場のイメージを作っておき、それを学生同士で共有していきたいと思います。

○今回の活動では、FAX とメールで参加者を募りました。その際、FAX での応募者に対してこちら側のメールアドレスを示していなかったため、連絡を取り合う手段がありませんでした。今回の活動では1人が欠席し、その参加者がFAXで応募した方だったため欠席連絡がありませんでした。そのためにその子を待つ時間をとり、開始時間が10分遅れてしまいました。後々に連絡が取れ、欠席であったことが分かり、その際に「こちらから連絡する手段がなかった」という話がありました。そこで、応募段階でチラシに緊急連絡先という形でメールアドレスを記載し、またすでに申し込みをしまった方には何かしらの形で次の活動が始まる前に連絡先を伝えるようにしたいです。

2. ことばの貯金箱 in 七ヶ浜 その2

報告者 橋本 樹

(1) 活動日時

平成28年10月30日(日)

11:40～16:00

(2) 開催場所

七ヶ浜町生涯学習センター

(3) 参加者状況(対象者、参加者数、開催者数)

対象者:七ヶ浜町の小学生

参加者数:9人(小学生9名)

開催者数:20人(学生19名、教員1名)

(4) 開催内容(当日のスケジュール、活動状況など)

当日の日程

10:20	東北福祉大学前駅 集合
11:40	下馬駅 合流
11:40~12:10	移動(ぐるりんこ)
12:10~12:50	到着、会場設営、昼食
12:50~13:00	受付
13:00~13:10	開始、アイスブレイク
13:10~13:20	ことばの貯金箱説明
13:20~13:55	切る活動
13:55~14:00	休憩
14:00~14:20	レクリエーション

- 14:20~14:55 貼る活動
- 14:55~15:30 作品発表、終了
- 15:30~16:00 反省会、撤収作業
- 16:30~17:00 移動（ぐるりんこ）
- 17:00 下馬駅到着、解散

(5) 活動報告

①アイスブレイク



写真 1：アイスブレイクの様子

②「ことばの貯金箱」活動

(a) 新聞から言葉や写真を切り取る活動

- ・今回は、事前に 1 チームあたり 2 年生が 3 人、3 年生の混合チームを結成し、3 年生からは活動のなかで、子どもとのかかわりに加えて、2 年生の補助として参加していただきました。



写真 2：切り取る様子

(b) レクリエーション



写真 3：活動の様子

③作品発表

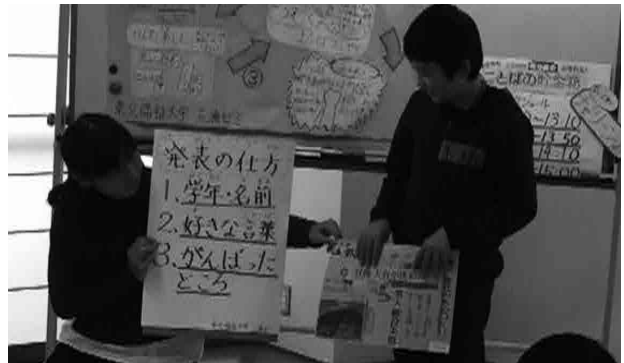


写真 4：作品発表の様子

(6) 参加者からの感想

①小学生

- 2 年女子：ドキドキしてたけど、どんどん落ち着いてきて楽しかったです。お兄さんお姉さんも優しくて安心しました。
- 4 年男子：今日、2 回目の言葉の貯金箱だったけど、前回より楽しくて、次回も参加したいと思いました。すごく楽しかったです。
- 新聞はおもしろいことばもあって楽しかったです。

②保護者

- 自分なりに面白い写真や単語を見つけて作成していたようでした。2 年生なので、読めるか？探せるか？と心配していましたが、言葉の意味が分からなくて

も、ひびきで集めていたり工夫していたようでした。帰ってから、これも～と付け足していました。楽しかったようです。ありがとうございました。

③学 生

○前回よりも子どもたちと向き合おうとする姿勢が感じられてよかった。前回も参加してくれた子の作品を覚えていたことで、比較してどこが成長したかを具体的に言うことができていた。

④教 員

○10月の活動は、これまでで一番多い子どもたちの参加があり、熱気に包まれたひとときを過ごしました。続けて参加している子どもたちもいるので、互いに顔見知りになったり、交流も深まっています。学生も多くのアイデアを出し合い、準備をして臨んでいる様子が分かり、とても頼もしく感じました。実体験として一人ひとりに寄り添うことを学ぶことができるこの活動は本当に貴重です。残り1回の活動もよりよいものになるようにしてほしいと思います。

(7) 活動の振り返りと課題

①良かった点

○前回の反省で、開場時間のぎりぎりになって机の準備に取り掛かり、参加者が早めに来た時に対応が遅れてしまいました。なので、今回は早めに昼食を食べて机やホワイトボードの準備に取り掛かり、余裕

をもって参加者を迎えることができました。そして、前回自分たちで行動できず、先輩方に任せてしまった参加者のお出迎えを自分たちで進んで行い、入り口で参加者と保護者に挨拶をした後に、写真撮影の許可や活動の終了時刻についての説明ができました。

○切る作業と貼る作業の間に、休憩時間とは別の時間を設けてこのレクリエーションを取り入れたことで、作業の中での張り詰めた気持ちを一度リセットさせ、また作業に集中して取り組むことができました。前回参加した子供に少し聞いてみたところ、好評でした。

②改善点

○活動を時間内に終れるよう工夫をするべきでした。参加者の出迎えの際に終了時間を伝えたのにもかかわらず、実際の活動終了時刻を過ぎてしまいました。その結果、保護者を待たせてしまうことになり、解散時刻が遅くなってしまいました。これを受けて、次回は切る作業や貼る作業の中で、「ここまでやったら終わりだよ。」などの声掛けをし、作業開始時間と作業終了時間をしっかり守れるようにしていきたいです。また、タイムキーパーから伝えられた時間を学生全員で共有し、グループの中で時間を把握していきたいです。

3. ことばの貯金箱 in 七ヶ浜 その3

報告者 齋藤 優花

(1) 活動日時

平成 28 年 11 月 27 日 (日) 12:10~17:00

(2) 開催場所

七ヶ浜国際村 外国語セミナー室

(3) 参加者状況 (対象者、参加者数、開催者数)

対象者：七ヶ浜町の小学生

参加者数：11 人 (小学生 11 名)

開催者数：17 人 (学生 16 名、教員 1 名)

(4) 開催内容 (当日のスケジュール、活動状況など)

当日の日程

10:00	東北福祉大学前駅 集合
10:09	東北福祉大学前駅発
10:58	下馬駅着
12:10	七ヶ浜国際村着 (タクシー組)
	昼食・準備
12:50	七ヶ浜国際村着 (ぐるりんこ組)
	準備・受付

- 13:00~13:10 開始・アイスブレイク
ことばの貯金箱説明
- 13:15~13:55 切る活動
- 13:55~14:05 休憩 アイスブレイク
- 14:05~14:40 はる活動
- 14:40~15:00 作品発表・終了
- 15:00~15:10 撤収作業
- 15:20 移動（ぐるりんこ）
- 16:00 下馬駅到着・反省会
- 17:00 仙台駅到着・解散

(5) 活動の様子

①アイスブレイク

②「ことばの貯金箱」活動

- (a) 「ことばの貯金箱」活動の説明
- (b) 新聞から言葉や写真を切り取る活動
- (c) レクリエーション
- (d) はる活動



写真 1：切り取ったものをはる様子

③作品発表

④賞状贈呈



写真 3：賞状贈呈の様子

(6) 参加者からの感想

参加者である小学生及び保護者にアンケートで今回の活動の感想をいただいた。

①小学生

○ 2 年生女子

やっておもしろかったです。来年もやりたいです。

○ 3 年生女子

今回で 5 回目なので、次もやりたいです。これからもがんばってください。

②保護者

○前回よりもたくさんの言葉を見つけて、自分なりにまとめて貼っているようでした。切ったり貼ったりもですが、お姉さんとお話したりしたことも楽しかったそうです。学校を通してプリントを配られて、難しそうでできるか心配だったのですが、おもしろいと思ってくれて良かったと思いました。また子供達の成長を見たいので、来年も続けてくださればうれしいです。

③学 生

○今回の活動は、最初にハプニングが起こったが、一人一人が自分のやるべきことを見つけ、動けたので活動を成功させることができ、良かった。一回目か

ら通して考えると事前準備の質も活動中の質も格段に上がり、良い活動にしていけることができた。改善すべきなのは、子どもを動かす適切な声掛けをもっと学んでいきたい。

④教 員

七ヶ浜町で復興支援のため、ことばの貯金箱を始めて、3年が経ちました。今日はその最後の日でしたが、これまでの活動で反省し、改善したことすべてが生かされていて、とてもよかったと思います。今年卒業する4年生がことばの貯金箱に取り組んだ初めての学年になります。4月から小学校や特別支援学校の教員として、この活動を学級経営・教科指導に取り入れた実践ができるようにと願っています。そして何よりも、地元に戻っても、被災地でのこの活動を忘れずに、復興に心を寄せてほしいと思います。

国際村の周りも造成が進み、新しい家々が立ち並んで、3年という時間がもたらした変化を感じることができました。これからも続く復興の長い道のりの一端に関わることができたことは、私たちのゼミにとって、かけがえないものになりました。ここで得た学びやノウハウを次につなげていけるように、学生の力に期待したいと思います。

(7) 活動の振り返りと課題

①良かった点

○今年度の活動に協力していただいた保護者の皆様に感謝の気持ちを伝えること、保護者がいらしていない子どもに対するアンケート配布時間を短縮することを目的に、アンケートへの協力を呼びかける文書を作成するという新たな試みができました。1回目はアンケート封入作業を当日の活動中に行ってしまったことが改善点として挙げられたため2回目は

それを事前に行い、2回目では保護者がいらしていない子どもに口頭で呼びかけたりしたことが改善点として挙げられたため、3回目では保護者あての文書を同封したりと、回を重ねるごとに新たなチャレンジをすることができました。

②改善点

○はる活動の際に、参加者の中には大きな写真を貯金したために、一枚の画用紙に収まらず、何枚か付け足す子どもがいました。前回の「ことばの貯金箱」の発表の際に大作を作った子どもに対して「大きい!」「すごいね!」といった声が聞こえてきたため、子どもたちは大きい方がすごいのだと考えてしまったのではないかという反省が挙げられました。これらのことを踏まえ、活動の説明をする際にルールや、やらせたいことを明確にしたり、声掛けをして時間内に収められるようにしたいです。

3回を通して感じたことは、回を重ねるごとに、学生が係やグループでの活動で前回よりもより良いものをと改善点を生かし、臨んでいたことです。それにより3回の活動が充実したものになりました。また、3年間通ってくださっていた児童のご兄弟が来年就学するそうで、ぜひ「ことばの貯金箱」に参加させたいということを保護者の方からお話いただきました。私たち学生にとって大変学びになっただけでなく、参加してくださる方からも期待が大きいことを感じました。「ことばの貯金箱」は今回が最後の活動であったが、ここで学んだNIEのノウハウをこれからも現場に立った時にも生かせるようにしたいです。

これまで、生涯学習支援室の今泉さんをはじめ、多くの方々からいただきましたご支援ご指導に心より感謝申し上げます。

Ⅱ. 創作ワークショップ 活動報告

事業名及び趣旨

荒井地区の小学生を対象に創作ワークショップを実施しました。10 月は「くうそう せいぶつ」様々な種類の素材・道具を使い、こども達の創造力を掻き立てるワークショップを展開しました。12 月は「クリケットワークショップ」クリケットにパソコンからプログラミングをし、自分の作った作品に音をつけたり動かしたりできるワークショップを展開しました。子どもたちの創造力を

最大限に引き出し、また子ども同士のコミュニケーションを大切に出せるようなワークショップを開催し、子どもたちだけでなく私たちも一緒に成長できるようなワークショップにしたいと考えています。

開催団体名

東北福祉大学森ゼミ

1. 森ゼミ「くうそうせいぶつ」ワークショップ

報告者 小野 真澄

(1) 活動日時

平成 28 年 10 月 8 日土曜日 12 時 30 分～ 16 時

(2) 開催場所

せんだんの丘プラス あらい
(アライデザインセンターⅡ)

(3) 参加者の状況

参加者：荒井地区の小学生
参加人数：13 名
開催者数：9 名

(4) 開催内容

ワークショップのスケジュールとして、

- 1 受付
- 2 名札作成
- 3 アイスブレイク
- 4 ガイダンス
- 5 素材・道具説明
- 6 制作・レポート作成
- 7 発表会
- 8 鑑賞会
- 9 リフレクション
- 10 あいさつ

という手順でワークショップを進行しました。

①受 付

まず、参加者の受付を入口で行い、事前に送っていただいた情報との不一致がないかを確認しました。

②名札作成

名札作成では、ワークショップ中に呼んでもらいたい“ニックネーム”を自分で考えてもらいました。ニックネームにすることにより、こどもたち同士そして私達学生との距離を縮めることができるので、ニックネームにしています。



③アイスブレイク

緊張しているこどもたちとの距離を縮めるためにアイスブレイクを行いました。例年アイスブレイクは1回ですが、今回は人数も多いこと、そして、今まで以上に距離を縮めた方がいいのではないのかという意見があったので、今回は2回行いました。



④ガイダンス

ガイダンスでは、最初に自己紹介を行い、その後、今回のワークショップではどのようなことを行うのかとワークショップのタイムスケジュールについて説明しました。ワークショップで作ってもらう“くうそうせいぶつ”が住む“ぷくぷく島”について説明した際に、こどもたちから質問や感想などが多く飛び交っていたので、非常に良かったと思います。



⑤素材・道具説明

ワークショップで使用する素材及び道具の説明を行いました。特に道具に関しては、使い方によっては危険なものもあるので、丁寧に説明しました。



⑥制作・レポート作成

制作は2人1組で行いました。初対面ということもあり、なかなか案出しが進まないペアもあったので、学生がサポートを行いながら進めていきました。ここで大切なのは干渉すぎないことです。あくまでこどもたちの制作なので、こどもたちの想像力を掻き立てるようなサポートを心がけました。

レポート作成では、こどもたちが作った作品の特徴や工夫したところなどを書いてもらいました。



⑦発表会

今回のワークショップで作った作品の発表会をペアで行いました。発表後に質問コーナーを設けたところ、活発に意見が飛び交い素晴らしい発表会となりました。



⑧鑑賞会

全ペアの作品を1つのテーブルに並べ、鑑賞会を行いました。参加者のこどもたちにポストイットを配布し、他のペアの作品を鑑賞して、思ったことを自由に書いてもらいました。





⑨リフレクション

今回のワークショップの写真をスライドショーにして、みんなで振り返りを行いました。



⑩あいさつ

最後に振り返りを行い、みんなであいさつをしました。例年は“ありがとう。さようなら”とあいさつしていたところを、“ありがとう。またあおう”と言うようにしました。これは、さようならといってしまうと今回限りに思ってしまうので、これからも参加してほしいという気持ちを込めて変更しました。



(7) 活動を通じて学んだこと・課題

今回のワークショップでは、例年とは一味違ったワークショップであったと思います。例えば、新しいアイスブレイクを追加したことにより、いつも以上に子どもたちと打ち解けるのが早かったと感じます。また、今までのワークショップでは、親子や個人で作品を作ることが多かったため、今回ペアで行うことに対してとても不安がありました。しかし、アイスブレイクを新しく追加したことにより距離が縮まったので、いつも以上に密接な関係づくりができたのではないかと感じます。そして何よりも違ったことは、荒井地区に森ゼミとして活動していたことにより、地域の人々との関係づくりが事前できていたことです。以前までのワークショップでは、初対面の子どもたちや親御さんとワークショップを行っていましたが、今回の参加者の多くは元々顔見知りということもあり、密接な関係づくりを行うことができました。今回の参加者が以前のワークショップより多かったのは、地域の皆様の声掛けがあったというのが非常に大きかったです。

そのため、これからも荒井地区での活動を継続し、地域の皆様と密接な関係づくりを行っていききたいと思います。

今回のワークショップの課題として、子どもたちを優先してしまい、時間通りにワークショップを進めることができなかったことが挙げられます。次回のワークショップではしっかりと声掛け、そして、私たち学生がしっかりと情報共有を行い、スムーズな進行をできるように心掛けたいと思います。

2. クリケットワークショップ

報告者 小野 真澄

(1) 活動日時

平成 28 年 12 月 3 日土曜日 13:00 ~ 16:00 (3h)

(2) 開催場所

せんだんの丘プラス あらい
(アライデザインセンターⅡ)

(3) 参加者の状況

参加者：荒井地区のこどもたち
参加人数：15 名
開催者数：10 名

(4) 開催内容

ワークショップの内容としては、

- 1 受付
- 2 名札作成
- 3 アイスブレイク
- 4 クリケットの作成
- 5 素材・道具説明
- 6 制作・レポート作成
- 7 発表会
- 8 鑑賞会
- 9 リフレクション
- 10 あいさつ

という手順でワークショップを進行しました。

①受 付

まず、参加者の受付を入口で行い、事前に送っていた
だいた情報との不一致がないかを確認するとともに、参
加者の名前を覚えるよう心がけました。



②名札作成

名札作成では、ワークショップ中に呼んでもらいたい
“ニックネーム”を自分で考えてもらいました。ニック
ネームにすることで、こどもたち同士、そして私達学生
スタッフとの距離を縮めることができるためニックネー
ムにしています。

③アイスブレイク

自己紹介を終えた後に、緊張しているこどもたちとの
距離を縮めるためにアイスブレイクを行いました。今回
は時間の都合上 1 回しかできませんでしたが、こどもた
ちが笑顔で楽しく取り組んでくれたので、距離を縮める
ことができました。

④クリケットの説明

アイスブレイク終了後に、クリケットの説明を行いま
した。クリケットとは小さなコンピューターのことであ
り、このクリケットにパソコンからプログラミングをし、
自分達の作った作品を動かすというのが今回のワーク
ショップの内容です。参加者が小学校低学年のこどもた
ちが多いということもあり、プログラミングの説明など
に非常に苦戦しました。それでも、学生スタッフがこ
どもたちに丁寧な対応をしたことにより、理解してもら
うことができました。



⑤素材・道具説明

ワークショップで使用する素材及び道具の説明を行いました。素材に関しては種類が非常に多いので、手に取って分かりやすく説明することを心がけました。



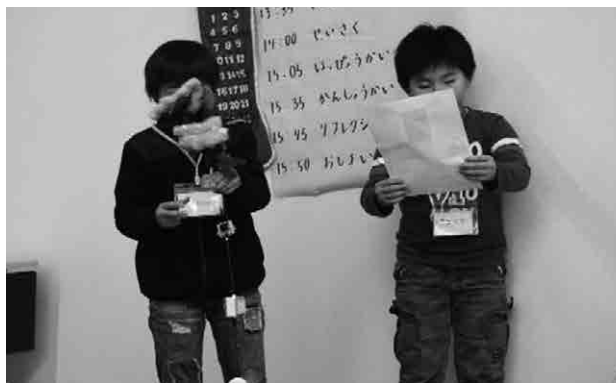
⑥制作・レポート作成

制作は2人1組で行いました。お互い初対面のペアもあり、緊張して案出しが進まないペアや、協力していないペアがありましたので、学生スタッフがサポートを行いながら進めていきました。前回のワークショップでも気をつけた“干渉しすぎないこと”を今回も心がけました。レポート作成では、作品の説明、特徴などを書いてもらいました。

⑦発表会

今回のワークショップで作った作品の発表会をペアで行いました。実際にプログラミングした作品を動かしたりしたことにより、非常に盛り上がった発表会となりました。





⑧鑑賞会

全ペアの作品を1つのテーブルに並べ、鑑賞会を行いました。子どもたちにポストイットを配布し、他のペアの作品を鑑賞して、思ったことを自由に書いてもらいました。



⑨リフレクション

今回のワークショップ中の写真をスライドショーにして、振り返りを行いました。子どもたちが夢中になってスライドショーを見ていたので、非常に良かったと思います。



⑩あいさつ

最後の振り返りを行い、みんなであいさつをしました。前回は引き続き、“さようなら”とは言わず、“ありがとう また会おう”というあいさつにしました。

(5)活動を通じて学んだこと・課題

今回の活動を通して、地域で継続的に活動することの大切さを学ぶことができました。その要因の1つに、荒井地区における森ゼミの拠点を作れたことが挙げられます。今回のワークショップの参加者のうち、7人が前回も参加してくれた子どもたちで、8人が新しく参加してくれた子どもたちでありました。荒井地域での継続的な活動もありネットワークの構築にもつながりました。前回のワークショップに参加し、楽しかったので今回も参加したいと思ってくれる子どもたちを増やし、そこに新たな参加者を増やすことができれば、ゼミとしてのコミュニティを拡大することに繋がり、活動の幅が大きく広がると思います。そのため、これからも荒井地区ではボランティアを中心として継続的に活動していきたいと考えています。

課題として、前回も参加してくれた子どもたちが半数おり、今までのワークショップではない新しい種類のワークショップを展開していく必要があると考えました。毎回同じワークショップでは、固定された参加者を満足させることは非常に難しいと思います。次回以降のワークショップでは様々な工夫などを加えていく必要があります。そして、来年からは現2年生が主体となって活動していくことになるので、引継ぎをしっかりと行い、より洗練されたワークショップを展開できるようにしていきたいと考えています。

Ⅲ. 希望をカタチに ～つなげよう僕らの未来～ 活動報告

事業名及び趣旨

事業名：希望をカタチに ～つなげよう僕らの未来～

趣旨：本イベントには名取が掲げる政策の一つにある「名取市被災者生活再建プログラム」の中に4項目のうち『「こころとからだ」：傷ついた心身の回復「つながり」：人とのつながり』という2項目がふぁみりあの活動理念でもある「子育て支援・学習支援」「コミュニティ支援」

と通ずるものがあり、互いのニーズと理念が一致します。さらに、ワークショップ形式における取り組みによって子どもたちの創造力の向上にもつながると考え開催しました。

開催団体名

東北福祉大学学生ボランティアサークル「ふぁみりあ」

1. 希望をカタチに ～つなげよう僕らの未来～

担当者 及川 大貴

(1) 活動日時

平成28年11月6日(日)13:00～16:00

(2) 開催場所

名取市下増田公民館

(宮城県名取市美田園7丁目22-3)

(3) 後援先

- ・名取市教育委員会
- ・名取市社会福祉協議会
- ・株式会社河北新報社

(4) 参加者状況

参加人数：子ども40名／保護者22名

関係者：学生21名

ボランティア支援課職員2名

(5) 開催内容（当日のスケジュール・活動状況）

当日の日程

- | | |
|-------|--------------|
| 9:30 | 美田園駅 集合 |
| 9:50 | 下増田公民館着 |
| 10:00 | 会場設営・打ち合わせ |
| 12:00 | 昼食 |
| 12:30 | 最終確認 |
| 13:00 | 参加者受付開始 |
| 13:30 | イベント開始 |
| 16:00 | イベント終了・参加者解散 |
| 16:30 | 会場片付け |
| 17:30 | 解散 |

(6) 活動報告

①会場設営の様子



- ・会場は3人掛けのテーブルを2つ合わせたものを9つ用意しました。合わせたテーブルに親子、友達同士で座ってもらって活動してもらいました。

②「希望をカタチに～つなげよう僕らの未来～」の活動の様子

(a) 開会式





・本イベントでは全体がストーリー構成になっており、開会式では主人公であるうさぎの「ラビット太」とたぬきの「ボン太」に扮した学生スタッフ 2 人が司会・進行を行いました。2 人が作り出した親しみやすい雰囲気や他の学生スタッフの盛り上げで子どもたちや保護者の緊張がほぐれて和やかな開会式となりました。

(b) フォトフレーム作成

○フォトフレーム作成では以下の流れで行いました。

①フレームと板の色を付ける

→②装飾の材料集め→③飾りつけ

①フォトフレームの板の色を付ける



・本イベントでは低学年の子どもが多く参加していたため少し難易度が高く、時間が予定よりかかってしまいました。しかし、学生スタッフが各テーブルについて 1 人 1 人アドバイスをしたり、一緒に作ったりするなど、子どもと学生のコミュニケーションが非常にとれ、良い雰囲気で進めることができました。

②装飾の材料集め



・材料集めは、子どもたちが作業ばかりでイベント自体に飽きることはないように装飾の材料を釣るブースや、森に見立てたブースでどんぐりや松ぼっくりを探すといた「遊び」の要素を取り入れました。子どもたちはそれぞれ自分なりに工夫したり、友達と協力して集めるなど、楽しみながら装飾の材料集めをすることができました。作業だけでなく、頭と体を使った良い時間となりました。

◎飾り付け



- ・飾りつけでは子どもたちの個性がとて出ていて、十人十色のフォトフレームが並んだ時はとても感動的でした。また、子ども達が作成したフォトフレームを学生スタッフに自慢げに見せる姿はとてもキラキラしていました。

④モザイクアート作成



- ・模造紙にあらかじめ下書きをしておき、それに色紙で作ったリングなどを貼り、最後に子どもたちの手形で空の色を塗って完成させました。

◎閉会式



- ・閉会式ではイベントの感想を子どもたちに聞いたりして、モザイクアートの発表や写真撮影などを行いました。子どもたちから「今度はいつ来てくれる?」「すごく楽しかった!」などたくさん子どもたちの笑顔が見ることができました。

(7) アンケート

①子ども

- 「今回の活動は楽しかった」 37 人
- 「みんなと友達になれましたか」 16 人
- 「学生と仲良くなれましたか」 27 人
- 「また参加してみたいですか」 34 人

その他、「材料を集めたり貼ったりするのが楽しかった」「次はスポーツをしてみたい」という声がありました。

②保護者

- 「全体的にイベントがよかった」20 人
- 「他の家族と交流できた」14 人
- 「学生スタッフと話せた」20 人
- 「子どもたちが交流できた」19 人

その他、「家ではできないことをさせてもらった」「子どもたちの夢中な姿を見ることができてよかった」などの声がありました。

(8) 当プロジェクトでの課題

①準備期間

- ・会場の下見をもっと人数を増やして行けばよかった
- ・学生スタッフの人数調整をもっと早い段階で考えるべきだった。
- ・役割分担をもっと明確化すればよかった。
- ・準備をもっと早くからすればよかった。

②当 日

- ・学生スタッフが1か所に固まってしまうことがあった。
- ・スタッフの人数配分をもう少し考えて配置するべきだった。
- ・タイムスケジュールがうまくいかなかった。
- ・材料が少なくなってしまう、当日に多くの買い出しをしてしまった。
- ・ブースの大きさをもっと大きくしてもよかった。

(9) 活動を通して学んだこと

本プロジェクトは私たち「ふぁみりあ」にとって今までにない規模での活動となりました。

今回は制作系のイベントを企画・運営し、今まで実施した「ふぁみりあ」の企画で積み上げてきた経験を基として実施することができました。今回の参加者の募集人数は 50 名に設定し、普段私たちが開催しているイベントよりも多い人数を募集し、多くの子どもに参加してほしいと願って実施しました。そのために用意する材料の数や各ブースの大きさを 50 名基準で考えていくことが

とても難しいと感じました。また、対象学年を 1～6 年生にし、兄弟姉妹であれば未就学児にも参加してもらいということになったために制作のレベルの設定に苦労しました。簡単でも難しくても子どもたちの制作意欲に影響が出ると考え、メンバーで日々懸命に試行錯誤を繰り返して考えました。このことで今まで自分たちがやってきたことに新しい見解と見直しができました。

また、助成をいただいたプロジェクトということもあり手続きや予算管理、責任の重さや難しさも感じながらも、イベントの開催のマネジメントを図ることができました。

イベント当日は準備期間とは違い今までの経験が発揮できていたと思います。まず子どもたちとの会話やふれあいの中で学生スタッフ側のアプローチが非常にスムーズだったので子どもたちの緊張もせず、会場全体がいい雰囲気になり終始進行できました。初めて名取市内で実施する企画でしたが、自分たちはここまでできるのだととても自信になりました。限られた時間の中で子どもたちの工夫がそれぞれに見え、それを学生スタッフや保護者と共有することができていたと思います。私たちが材料を集めるために設置した 3 つのブースでは会場内を子どもたちが自由に回るため、怪我やトラブルが起こらないように常に気を配っていました。課題にもあるように学生スタッフが 1 か所に固まってしまうことがあったので今後改善していかなければならないと感じたとともに、活動の中で情報共有の難しさや準備から活動までのスケジュール調整など多くの課題もありました。

全体を通して、当日の参加者とスタッフの一体感を味わったときは心の底から頑張ってきてよかったと思いました。「一体感」は普段のイベントで目標としていることなので本イベントでも達成することができてうれしかったです。

最後になりましたが、この度「プリンセス・プリンセス基金」により名取市の子どもたちの支援の一環として本企画を計画・実施できましたことを心より御礼申し上げます。また、本企画の実施に当たり、名取市教育委員会様、名取市社会福祉協議会様、河北新報社様、東北福祉大学の教職員の皆様にご場をお借りして御礼申し上げます。

IV. 山元町の子ども達との絆プロジェクト 活動報告

事業名及び趣旨

事業名：山元町の子ども達との絆プロジェクト

趣旨：山元町地区の子ども達を対象に一緒に遊ぶ事を考えている。内容としては山元町子どもセンターにて折り紙作りとバルーン作り、マジックショーなどを行う。またそれらに加えてニュースポーツを取り入れる。ニュースポーツはバッコー、スカイクロス、ラダーゲッターで

ある。(対象者に)被災の嫌な過去の思い出を共に遊び楽しむことで、嫌なことを忘れ今までより更に地元を好きになってもらうこと。

開催団体名

船渡ゼミナール

1. 山元町の子ども達との絆プロジェクト

担当者 秋野 円香

(1) 活動日時

平成28年11月19日(土)10:00～12:00

(2) 開催場所

山元町子どもセンター

(3) 参加者の状況(対象者、参加者数、開催者数)

参加人数：山元町に住む子ども達16名

(児童館に訪れた子ども 幼稚園児&小学生)

開催者数:11名(ゼミ学生10名・引率教師1名)

(4) 開催内容(当日のスケジュール、活動状況など)

当日の日程

8:00	東北福祉大学 ステーションキャンパス 集合
8:38	仙台駅 集合 ※一人暮らし組と実家生組で異なる
9:30	現地合流
9:30~9:55	会場設営
10:00~10:30	アイスブレイク
10:30~11:00	ニュースポーツ体験
11:00~11:30	マジックショー披露
11:30~12:00	ニュースポーツ体験 続き
12:00~13:00	昼食と全体反省会
13:00	退館

(5) 活動報告

①会場設営

会場に到着次第、ニュースポーツ体験がすぐ行えるように各種目のブースを作り準備しました。当初は子ども達と一緒に協力して準備をする予定でしたが、当日まで何人集まるか不明であったこと・年齢層によっては困難であると考え、ゼミ生だけで行うことに変更しました。

②アイスブレイク

年齢層に合わせてアイスブレイクを考え行いました。手拍子の回数に合わせて人を集め、自己紹介をするというアイスブレイクを行いました。初めの挨拶の時、なかなか喋ることが無かった子どもでも、笑顔で私たちに好きな食べ物や動物について話をしてくれ受け入れてくれた姿が印象的でした。

③ニュースポーツ体験

私たちは3つのニュースポーツを子どもたちに教え体験してもらいました。穴に向けて投げるバッコー・リングを対象に向けて投げるスカイクロス・1~3段へ狙いをさだめて引っ掛けるラダーゲッターの3つを教えました。ルールは子ども達にとっても易しいので、すぐに理解してもらい、「分かったから早くやりたい!やろうよ!」と、とても興味深々で、食いついてきました。中には1つの種目にのめり込み、そこから離れようとしないう子どもがいたほどでした。子ども達の笑顔を引き出すだけでなく、子ども達の心から楽しむ姿勢や笑顔のおかげで、ゼミ生がとても生き生きしていたように映りました。



ラダーゲッターに挑戦！！みんな初めてながらも上手に出来ていました。

慣れてきたら対戦形式でプレイ！とても白熱していました。



バッコーにトライしてくれました。そしたらずっとやってくれ、とても気に入った様子でした。



「スカイクロスに挑戦してみない??」入りそうで入らないので、何回も何回も繰り返して果敢にやってくれました。

④マジックショー披露

私たちの先輩である東北福祉大学の卒業生の大泉さんをお招きしてマジックショーを披露していただきました。子どもたちの中にはマジックショーを見たことがない子どももいたので、大泉さんの行動やBGMの音楽に子どもたちは興味津々の様子でした。子どもたちも、マジックショーに参加し、マジックが成功すると「えーーなんで！教えてよ！」と大きな声をあげ、楽しんでいました。マジックが終わると、なかなか拍手が鳴りやまない程であり大盛況でした。



大泉さんによるマジックショー開幕！

皆はあっという間に引き込まれてしまいました。子ども達も今日1番の笑顔と歓声が響いていました。

(6) 参加者による感想

①子ども達

- ・初めてやるものが多いけれど、ルールが簡単で遊んでいてとっても楽しかったから、時間が経つのがあっという間でした。
- ・マジックショーを初めてみたけど、なんで??が多くて楽しかった。
- ・バッコーが1番楽しくてまたやりたい！

②学 生

- ・今回このような自分たちで企画をし活動をするのが初めてで不安であったけれど、子ども達の笑顔を引き出すことが出来たので達成感でいっぱいです。
- ・元々子どもがとても好きですが、子どもの接し方について今までよりも理解や関心が増したように感じます。これからも子どもと接する機会があれば参加して行きたいです。

(7) 活動を通して得た事と課題点について

私たちは、自分たちで計画をし、行動に移行するこのような活動をすることが初の経験であったので、色々なミスやこうすれば良かったなどといった後悔但也有ありますが、最終的に無事に行うことに成功することが出来ました。良かった点の例を挙げていきます。

1つ目は臨機応変な対応をする事が出来た点です。当初レクリエーション協会の方に教えていただいた別のアイスブレイクを計画していましたが、年齢層をアイスブレイク担当のリーダーが判断しゼミ生に伝え、練習はしていませんでしたがミスなく行えたことです。当日変更したアイスブレイクでしたが、このアイスブレイクにより子どもたちの緊張を解き、受け入れていてくれ笑顔をつくることに繋がりました。

2つ目は活動内容の充実です。私たちが提供するニューススポーツ体験だけでなく、大泉さんによるマジックショーを導入したことで、懸念していた子どもたちの興味関心や集中力の持続を生み出すことを可能にしました。ニューススポーツ体験の時間とマジックショーの時間の配分を工夫することにより、このような事が出来たと思うので非常に良かったのではないかと思います。

3つ目は子ども達との交流を行ったことで、相互の笑

顔を生み出すことが出来た事です。ゼミ生の中には子どもが好きな人も子どもと接することが苦手な人もいます。最初どのように接していいか試行錯誤していた学生も、次第にそこにいる子どもと打ち解け自然な笑顔になっていました。今回の体験で子ども達との接し方について学んだ生徒も多くいたので、今後に生かすきっかけになったと思います。

次に反省点について挙げていきます。

まず1番大きいのは伝達のミスです。当初私たちのコンペの内容は異なるものでしたが、伝達のミスにより開催が出来なくなってしまった事がありました。それにより相手方や担当である先生に大変な迷惑をかけてしまったので、今後このような事が起こらないように、こまめな確認と連絡を徹底していきたいと思います。

2つ目は積極性です。企画当時から「こういう事がしたい」「こうすれば良いのではないか」などといった意見が少なかったように感じます。学生で作りあげるプロジェクトであったので、もう少し意見を出して欲しかったなと統括をしていて感じました。今回の活動において自分たちで作りあげる大変さと大切さを、ひしひしと感じ考えることが出来たと思うので、今後はもっと活発な意見を出し合えるゼミになっていきたいと思っています。

V. 渡会ゼミ音楽コンサート in 南三陸 活動報告

事業名及び趣旨

事業名：渡会ゼミ音楽コンサート in 南三陸

趣旨：生の音楽を間近で聞くことによって、心の癒しとなるような演奏を南三陸の子どもたちに届けます。また、仮設住宅での演奏会・交流会を行うことによって、独りよがりな演奏ではなく、被災者の心に寄り添い音楽を奏でることの大切さを学びます。

開催団体名

東北福祉大学

教育学部教育学科・子ども科学部子ども教育学科

渡会ゼミ

1. 渡会ゼミ音楽コンサート in 南三陸

報告者 小野寺 碧美

(1) 活動日時

平成 28 年 11 月 6 日（日） 7:45~18:30

(2) 開催場所

午前：宮城県志津川高等学校音楽室

午後：中瀬町仮設住宅集会所

(3) 参加者の状況（対象者、開催者数）

対象者：震災当時小学生だった志津川高校の音楽部員、保護者、仮設住宅の子どもたちと保護者、地域の方々

開催者数：34 名（学生 33 名、引率 1 名）

参加者：延べ 47 名（午前 19 名、午後 28 名）

(4) 開催内容（当日のスケジュール、活動状況など）

- 7:45 福祉大中庭集合 楽器積み込み
- 8:10 福祉大出発
高速道路・一般有料道路で志津川 IC まで
- 9:55 宮城県志津川高等学校 着
- 10:00 楽器指導チーム：各教室にて指導
コンサートチーム：場の設定（音楽室準備）
- 10:30 合同練習
- 11:10 ミニコンサート開始（音楽室）
渡会ゼミステージ（25 分）
志津川高等学校ステージ（25 分）
合同演奏（10 分）
- 12:15 演奏終了→片付け
- 12:30 昼食（物理地学室）
- 13:20 移動、楽器運搬

- 13:40 中瀬町仮設住宅 着
- 13:55 ミニコンサート（仮設住宅集会所）
- 14:40 交流会→片付け
- 15:30 バス出発
- 15:45 南三陸ポータルセンター（見学）
南三陸さんさん商店街（買い物）
- 16:15 バス出発
- 17:55 福祉大 着 楽器戻し
- 18:30 解散

(5) 活動の様子



① 挨拶

志津川高等学校へ着くと、音楽部の生徒の皆さんと顧問の先生が明るく出迎えてくださいました。私たち学生は二列に並び、互いに挨拶を行い、その後楽器指導・会場設営へと移りました。



②会場設営（コンサートチーム）

午前の志津川高等学校では、前列にアコーディオン・リコーダー・鍵盤ハーモニカ等の楽器が並び、中間に木琴・鉄琴、フルートやクラリネット等の管楽器、そして後列には打楽器を置きました。音楽室という小さな場所での演奏の為、楽器の配置や演奏者の立ち位置に気を配るよう心がけました。観客席は、扉側に椅子を3～4列分並べました。

③楽器指導（楽器指導チーム）

コンサートチームが会場設営の際に、楽器指導チームが高校生への演奏指導を行いました。高校生は楽器を全員被災後に始めているそうですが、宮城県庁のロビーコンサートに出演するほど、演奏レベルは高かったのが印象的です。本日合同で演奏する曲を確認し、同じ楽器の演奏を通して交流を深めることができました。

④ミニコンサート（午前の部）

会場設営、観客の出迎えを終えた後、ミニコンサートが開始しました。最初は渡会ゼミのステージで「ディズニーメドレー」「ドラえもんメドレー」「Happiness」「情熱大陸」の4曲の合奏と、南三陸町ゆかりの曲「残酷な天使のテーゼ」の合唱をしました。曲と曲の合間に説明を入れ、その間に次の楽曲の準備を行いました。このとき、観客の皆さんをなるべく退屈させないような話し方をもっと考えるべきだったというのが反省です。

続いて志津川高等学校の音楽部の皆さんが演奏しました。1曲目が渡会ゼミと同じ「残酷な天使のテーゼ」の合奏版であったため、高校と合同で演奏しても良かった

という反省も後からできました。音楽部の演奏は息がぴったりと合っており、5年前の被災から心身ともに力強く成長していることを、演奏からも感じ取ることができました。

最後に高校生側からのリクエストで、合同で「宝島」を合奏しました。高校の吹奏楽とゼミの器楽合奏では雰囲気も奏でられる音も違いますが、それぞれの思いが行き交い、立派な演奏になったと思います。小学生の子どもたちも演奏を聞いてくれて、大人数の演奏に驚いている様子でした。



⑤片付け、吹奏楽部の皆さんへのご挨拶

観客の方々をお見送りした後、楽器の片付け、会場の復旧作業に取り掛かりました。音楽部の皆さんのご協力もあり、スムーズに復旧作業を終えることができました。最後に双方の代表から挨拶、感想等を述べるなど、短いながら交流の時間も設けることができました。互いの再会を誓いながら、お別れしました。

⑥昼食、移動

志津川高等学校の物理地学室をお借りして昼食を終えた後、再びバスに乗り中瀬町仮設住宅へと向かいました。午後の部はソロや小編成の楽曲・合唱がメインの為、大きな楽器の移動はありません。午後のステージ担当が挨拶を終えた後、早速コンサートを始めました。

⑦ミニコンサート（午後の部）

午後の部では「クラリネットアンサンブル」「残酷な天使のテーゼ」「ふるさと」「大きな古時計」「赤とんぼ」「川

の流れのように」「三百六十五歩のマーチ」等を独唱や独奏、もしくは小編成でお送りしました。特に「三百六十五歩のマーチ」は、ご高齢者にも馴染みがある曲の為、口ずさんだり手拍子をしたりと楽しんで聞いてくださった方が多いように感じました。



⑧交流会、片付け

すべての楽曲の演奏が終了した後、集会所を会場とした交流会を行いました。係が用意したお茶菓子を配り、学生がばらばらに地域の若者や高齢者のみなさんのもとへ行き、会話を楽しみました。この際の交流を通して、南三陸の地域の方々の温かさに触れた学生も多く、良い経験となったと思います。会話の内容をある程度事前に考えておくと、より会話が弾むかもしれないという点も感じました。



(6) 参加者の感想

①学 生

- とても元気で無邪気に笑う高校生と接し、一所懸命に楽器を演奏する彼女たちの姿からは「被災」というものは一切感じられませんでした。私たちがの方が明るさと元気を分けて頂いた気持ちになりました。
- 志津川高校の生徒の皆さんや、仮設住宅に集まってくれた皆さんとの交流を通して、もう辛かったことを嘆いてばかりいるだけではいけないと感じました。地域の方々が、久しぶりに顔を合わせ、嬉しそうに挨拶を交わす姿がとても印象的で、この演奏会がその笑顔を引き出すきっかけになったことを嬉しく思いました。
- 手拍子や歌声が聞こえてきて、会場全体が一体となって演奏することができ楽しめました。お客様がいることで、自分たちの演奏が成り立っているのだと改めて感じました。
- 演奏や進行がまだまだだと感じました。演奏する側は何の目的で、どのような会にしたいのか明確にしておくべきでした。

②教 員

- 被災地域の高校生との交流ができたこと、仮設住宅にお住まいの方々の生の表情が見られたことが、学生にとって大きな収穫になったと思います。しかしながら、初めての試みということも加味しても、事前の練習参加状況や当日の行動等に課題があったことは否めません。行うべき時に全員でできばきと行動できるよう、今後のゼミ運営で指導を重ねていきたいと思います。

(7) 活動の振り返りと感想

南三陸での初めての活動を終え、今回の活動で良かった点は、南三陸の高校生や若者、そして地域の方々としっかり交流を図れたことです。今回のプロジェクトの趣旨が「心の癒しとなるような演奏を心掛けること」「交流を通して、被災者の心に寄り添い音楽を奏でることの大切さを学ぶこと」の2点であることから、当時小学生だった高校生、仮設住宅に住んでいる若者を中心とした「お客様」および「共演メンバー」に、演奏を通して元気を伝えようとがんばりました。しかしながら、被災地域の

皆さんは我々よりもむしろ元気であり、かえって私たちが元気を分けてもらったという印象でした。

私たちのゼミは、今まで文化祭で演奏を披露することや、児童館で演奏したことはありましたが、被災地域を訪問して演奏会を開くのは初めての試みでした。そのため、練習の段階では「聴衆の心に寄り添うような演奏」があまり実感できぬまま本番を迎えました。しかし、実際に志津川高等学校の生徒の皆さんや、仮設住宅に集まってくださった地域の方々の前で演奏を行うことで、聴衆の存在を間近に感じ、心に寄り添うような演奏の仕方・雰囲気を実感することができました。また、合同演奏も含めた地域の方々との交流、会話を通して、互いに元気を与え合うことができたのではないかと思います。今回の活動は、自分たちにとって今までにない貴重な経験となりました。

一方で、今回の活動を通して明らかになった課題が見つかりました。

1つ目は、子どもたちへの宣伝の難しさがあげられます。今回当初の企画では南三陸地域の小学校を対象にしておりましたが、南三陸町教育委員会や現場の校長先生に電話やメールおよび fax で依頼をしたところ、演奏日のタイミングが合わないことと、他団体の復興支援での訪問で学校全体が疲弊し、授業を圧迫しているということが分かり、行き先に苦慮しました。そこで拡大解釈として「当時小学生だった現在の高校生」に対象を変更し、

ようやく実現したという経緯があります。午後の仮設住宅についても、南三陸町は仮設住宅から災害公営住宅へ転居が始まっており、今回の中瀬町仮設住宅も子どもはすでに転居済みで、残っているのはお年寄りや成人したばかり（被災当時中学生や高校生）の若者が中心となりました。そのような中行われた2つのコンサートであったため、いずれの平均年齢も高めとなりました。子どもたちが元気であっても地域が疲れているため、うまく回らない。これが被災地域の特色であるとはいえ、もっと若い子どもたちに多く呼びかける工夫はなかったのか、これが今後の課題であり、反省となりました。

2つ目は、ゼミ内の運営についてとなります。当日の全体の動きについて確認が不十分であったことで、何をしたらよいか分からない学生がおり、当日の準備がスムーズだったとはいえない状況でした。実際の練習においても、初めて3年生が全体を総括するイベントとなったことも重なり、係同士の連携不足が問題となりました。これを受けて、次回からの活動では、何事も早めに計画を立て、かつしっかりと全員に周知するような伝え方を心掛けたいと考えます。

今回のような活動は初めての試みであった為、充実した分、課題点も数多く見つかりました。反省点は今後の活動へと生かし、次の機会にはさらに良い音楽を被災地域の子どもたちへと届けていきたいと考えます。

VI. 燃えろ！スポフェス 2016（かるた & 運動会） 活動報告

事業名及び趣旨

事業名：文化交流教室

趣旨：被災した地域の子供達と体を動かす活動や、日本に伝わってきた文化に触れる活動を通して交流を深め、子供達が楽しく笑顔になれるようなお手伝いをする。また、礼儀や社会のルールを学べるようにする。

開催団体名

ステーションキャンパスクラブ

1. 文化交流教室

報告者 山口 真次

(1) 活動日時

平成 28 年 9 月 17 日（土） 10:30~12:00

12 時 15 分 片づけ・移動

13 時頃 昼食

14 時頃 解散

(2) 開催場所

七郷児童館遊戯室

(3) 参加者の状況

対象：七郷地区に住む子供達

参加者：25 名

開催者：7 名（本サークル職員を含む）

(4) 開催内容（当日のスケジュール、活動状況など）

当日の日程

- 9 時頃 東北福祉大前駅集合
- 9 時 05 分 東北福祉大前駅発（仙山線 東北福祉大前駅－仙台駅）
- 9 時 17 分 仙台駅着（乗り換え）
- 9 時 38 分 地下鉄仙台駅発（地下鉄東西線 仙台駅－荒井駅）
- 9 時 51 分 地下鉄荒井駅着（本サークル職員による送迎）
- 10 時頃 七郷児童館着、現地集合者と合流（30 分間の打ち合わせ、リハーサル等）
- 10 時 30 分 『文化交流教室』開始
- 前半 30 分 （ステーションキャンパスクラブ）かるた体験
- 後半 60 分 （ジャグリコ）皿回し・ディアボロ体験、ジャグリングショー
- 12 時 『文化交流教室』終了

(5) 活動を通じて学んだこと・課題

今回の文化交流教室は、東北福祉大学学生団体「ジャグリコ」との共同企画でした。昨年の経験を活かし、企画・準備段階から開催場所となる七郷児童館並びにジャグリコとの連絡を密にとることを心がけました。三者の予定や要望を調整することに時間を要したものの、それぞれが納得のいく日程を組むことができました。

前半に行われたかるた体験では、百人一首のルールを取り入れた「スペシャルかるた」を行いました。



スペシャルかるた体験

スペシャルかるたは、使用するカードを 10 枚に限定したことで、短時間で試合を進めることができ、子供達も集中して取り組むことができました。11 月にはかるた大会を行うため、読者（本サークルメンバー）を増

やすとともに、かるたの勝ち負けでなく始めと終わりの挨拶やルールを守るという部分も大切にしていきたいです。

後半に行われた皿回し・ディアボロ体験では、失敗しながらも徐々にコツをつかみ、上達していく姿が見受けられました。



皿回しリレー

七郷児童館では、定期的にディアボロ（中国駒）を使って遊ぶことがあり、通っている子ども達は上手に駒を回すことができていました。また、子ども達同士で教え合いながら、楽しんでいる姿が印象的でした。

子ども達からは、「もっとやりたかった」「楽しかった」と言ってもらえたので、共同企画を行うことができて良かったと思います。

短時間で様々な体験をすることができると、子ども達は飽きずに取り組むことができるのだと感じました。今後行われるかるた大会、ミニ運動会でも限られた時間の中で飽きずに楽しむことのできる活動を計画していきます。



ディアボロ体験



大盛り上がりのジャグリングショー！

2. かるた大会

報告者 山口 真次

(1) 活動日時

平成 28 年 11 月 5 日 (土)

10:30~11:30

(2) 開催場所

七郷児童館遊戯室

(3) 参加者の状況

対象：七郷地区に住む子ども達

参加者：20 名

開催者：5 名 (本サークル職員を含む)

(4) 開催内容 (当日のスケジュール、活動状況など)

当日の日程

- 9 時頃 東北福祉大前駅集合
- 9 時 15 分 東北福祉大前駅発 (職員車送迎)
- 10 時頃 七郷児童館着 (30 分間の打ち合わせ、リハーサル等)
- 10 時 30 分 「かるた大会」開始
 - ①『スペシャルかるた』のルール説明
 - ②5 グループに分かれて総当たり戦 (1 グループ 4 人)
 - ③子ども達 vs 大学生の団体戦
 - ④表彰・参加賞配付
- 11 時 30 分 「かるた大会」終了
- 11 時 40 分 片づけ・「ミニ運動会」の打ち合わせ・移動
- 12 時 30 分 昼食
- 13 時 30 分 解散

(5) 活動を通じて学んだこと・課題

今回のかるた大会は、小学校 1 年生から 3 年生の子ども達を対象に開催しました。かるたは体を動かす活動とは違い、知力・記憶力・瞬発力で勝負する競技です。そのため、運動の苦手な子ども達でも楽しむことができると考えました。また、今年の春に実写化され映画の影響で、子ども達の間でも知名度・人気上昇しているだろうと

考え、企画しました。

今回のかるた大会では、百人一首のルールを取り入れた『スペシャルかるた』で実施しました。前回の「文化交流教室」に参加していた子ども達も多く、いつもとは違うかるたのルールにも素早く対応していました。



「スペシャルかるたのルール説明」



「かるた試合」の様子

かるた大会は、力の差が出ないように学年ごとに分けて、総当たり戦を行いました。また大会の最後には、子ども達と大学生がかるたの団体戦をしました。



子ども達と本サークル学生の真剣勝負



集中してかるたの文字を覚える子ども達

熱戦の末、子ども達が見事勝利を収めました。周りの子ども達からは「頑張れ」「負けるな」というエールや拍手があり、私達自身も楽しんで活動することができました。

計画段階では児童館の方と相談し、子ども達が集まりやすく飽きさせないよう短い時間で効果的に行うようにしました。『スペシャルかるた』は、短時間で何試合も行うことができるため、子ども達は集中して取り組みました。一方、負ける試合が続いてしまうとやる気をなくしてしまう子や悔しくて泣いてしまう子、優勝者への表彰状・メダルを羨ましがる子なども見受けられました。また、勝った勢いで挨拶を忘れてしまう子ども達もいました。勝負事に勝ち負けがあるのはやむを得ないことですが、勝った子ども達以外への対応や配慮を深く考えることができていませんでした。12月に開催する「ミニ運動会」では、競技を複数回行うことや敗者復活戦を取り入れること、表彰で全員が平等に受け取れるようにすることなどを心がけます。加えて、活動を通して挨拶や相手への礼儀などを学べるように支援していきたいと思います。

3. ミニ運動会

報告者 山口 真次

(1) 活動日時

平成 28 年 12 月 3 日 (土)
10:00~12:00

(2) 開催場所

七郷市民センター体育館

(3) 参加者の状況

対象：七郷地区に住む子ども達
参加者：25 名
開催者：11 名 (本サークル職員を含む)

(4) 開催内容

当日の日程

- 8 時 10 分 ステーションキャンパス集合・荷物搬入・
出発 (職員車送迎)
- 9 時 00 分 七郷市民センター体育館着・準備・打ち
合わせ・リハーサル等
- 10 時 「ミニ運動会」開始
 - ①開会式・自己紹介・準備運動
 - ②じゃんけん列車
 - ③〇×クイズ
 - ④風船はさみリレー
 - ⑤玉入れ
 - ⑥借り物競争
 - ⑦表彰式・参加賞配付
- 12 時 「ミニ運動会」終了
- 12 時 15 分 片づけ・移動
- 12 時 45 分 昼食・反省会
- 14 時 00 分 移動 (職員車送迎)
- 15 時 解散

(5) 活動を通じて学んだこと・課題

昨年度に引き続き、今年度も七郷市民センター体育館を利用してミニ運動会を開催しました。七郷地区に住む小学校 1 年生から 4 年生の 25 人の子ども達が参加し、2 時間身体を動かしました。

①開会式・自己紹介・準備運動

昨年度の経験を活かし、今年度は事前に申し込みのあった子ども達を 3 チーム (オレンジ・黄・緑) に分けていたため、スムーズにチームカラーのはちまきをつけて整列することができました。準備運動ではラジオ体操第一を行いました。子ども達の前で模範運動をする際は、左右対称になるように心がけました。



チームごとに整列



参加者全員でラジオ体操第一！

②じゃんけん列車

子ども達は幼稚園や小学校でじゃんけん列車をしたという経験があったため、ルールを理解することが早かったです。チーム対抗戦で行うため、子ども達には自分とは違うチームの子とじゃんけんをするよう促しました。昨年度は先頭の子ども達の歩くスピードが速く、ゲームが進むにつれて長くなった列の後ろに位置していた子ども達が切り離されてしまうことが多々ありました。そのため、今年度は列が長くなった場合はゆっくり歩くこと

や、切り離されてしまった場合は先頭の子も達を静止させることを心がけて行いました。



じゃんけん列車の様子



いよいよ最終決戦！最後に勝つのは……

③〇×クイズ

〇×クイズでは、巨大な画用紙に書かれた内容が読みあげられると、子ども達は勢いよく「〇」または「×」の方向に向かって走り出していきました。昨年度の問題は、子ども達が既に知っている内容が多く、ほとんどの子ども達が残ってしまうという姿が見受けられました。そのため、今年度は問題の数を増やすとともに、ひっかけ問題や難易度を上げた問題を取り入れました。また、答えを発表する際は解説や豆知識も伝えるようにしました。その結果、「〇」または「×」の方向に均等に分かれたり、間違ったことを子ども達が納得して受け止めたりすることができました。



「〇」が正解！

④風船はさみリレー

この種目は今年度から新しく取り入れました。風船はさみリレーは、2人が新聞紙の棒を使って風船を落とさないように挟みながら走ります。子ども達は初めて行う種目に苦戦しながらも、徐々に風船を挟むコツを覚えて、楽しんで行うことができました。チーム内で身長差がありましたが、身長の大きな子が小さな子に合わせて歩幅や棒の位置を工夫していました。現代社会においても、助けを必要とする人達へのサポートや配慮が求められています。子ども達も無意識の間に、相手を思いやり、支え合いながら壁を乗り越える姿勢が身についているのだと思いました。

⑤玉入れ

この種目も今年度から新しく取り入れました。玉入れ用のボールは怪我をしないよう紙ボールを使用しました。また、玉入れ用のかごは本サークルメンバーが背負って動き回る（ただし、動き回る範囲は半径1mの円の中だけとする）ようにしました。小学校で行われる玉入れのかごの位置は高く、1年生が投げたボールはかごまで届かないことが多いですが、今回行った玉入れはかごの位置が低いことで1年生でも入れることができました。加えて、チームごとに投げる位置を相談したり、投げ方やタイミングを工夫したりすることで、動き回るかごに対応していました。



動き回るかご一杯にボールを入れよう！



みんなで一斉にボールを数える

⑥借り物競争

この種目は、15m離れた場所に置かれているカードをめくり、カードの内容を行わなければなりません。(カード付近には本サークルメンバーが判定員としています。)

例)・じゃんけんに3回勝つ

- ・しりとりを10回続ける
- ・コスプレをする
- ・ももあげ10回 など

カードに書かれた内容を一生懸命に取り組む子ども達の姿がとても印象に残っています。また昨年同様、出番の終わった子ども達は「頑張れ」、「負けるな」と声援を送っていました。特に小学校低学年は、自分のことを優先し、他者への関心が低いと言われます。しかし、これらの種目を通して声援を送ったり仲間と協力したりすることは、他者の存在を認め共に歩んでいこうとする子ども達の成

長のきっかけになると思います。今後の生活でもその思いを忘れないでもらいたいです。



カードには何かが書いてあるかな？



チームメイトを大きな声で応援だ！

⑦表彰式・参加賞配付

すべての種目の結果を受け、チームの順位を発表しました。その後、順位ごとにメダル(1位:金メダル、2位:銀メダル、3位:赤メダル)を配りました。かるた大会では、優勝者のみがメダルをもらえたことに不満を感じる子ども達がいたため改善しました。

また参加賞を配布したことで、子ども達はとても嬉しそうにしていました。昨年同様、参加賞のノートに本サークルメンバー全員のサインを求める子ども達もいました。



優勝おめでとう！そして今日はありがとう！

(6) すべての活動を終えて

昨年から子ども支援プロジェクト活動を通して、七郷

地区の子ども達のたくさんの笑顔、元気な姿、助け合い・協力する姿を見ることができました。また、本サークルと密に連絡し、サポートしていただいた七郷児童館の方々には心より御礼申し上げます。

この活動を通して、自分達で計画することの難しさを感じるとともに、裏で支える人達の活躍で企画が成り立ち、みんなの笑顔が生まれているのだと思いました。また、サークルの垣根をこえて、たくさんの人に出会い・交流し、連携・協力をして活動することができました。これらの活動では、子ども達を楽しく笑顔にするとともに、私達自身も大きく成長することができたと思います。加えて、子ども達からはまた運動会をやりたいという要望がありました。本サークルでは、このように子ども達と触れ合いながら互いに学び、支援できる活動を続けていきたいです。

VII. 君とつくる未来プロジェクト 活動報告

事業名及び趣旨

事業名：『君とつくる未来プロジェクト』

趣旨：「未来に生まれてくる子どもたちに、防災の必要性や東日本大震災での出来事を伝えたい。」という私たちの思いからこの企画が生まれました。そのためには、子ども達が震災当時感じていたと考えた事などをヒアリングする必要があると考え、南三陸町の子ども達に協力していただきました。防災体験を通して当時の意見交換を行い、

各小・中学校へのアンケート調査を実施しました。今後、災害が起きると予想される地域や、震災を知らない子ども達に伝えていけるように内容を絵本にまとめ配布することで防災啓発活動に繋げていきたいと考えました。

開催団体名

大学指定団体「TeamBousaisai」

1. 君とつくる未来プロジェクト

報告者 TeamBousaisai 代表 芳賀 樹也

(1) 活動日時

平成 28 年 10 月 29 日（土） 9:50~15:00

(2) 開催場所

南三陸町ポータルセンター

(3) 参加者の状況

対象者：南三陸町の小・中学生

参加者：5 名（小学生 5 名）

開催者数：12 名

引率職員：2 名（本企画担当職員・広報課）計 19 名

*NHK 3 名（東北発未来塾・未来への芽取材のため）

(4) 当日のタイムスケジュール

7:45 東北福祉大学国見キャンパス出発
9:45 南三陸ポータルセンター到着
9:50 受付開始
10:00 はじめの会
10:15 心も体もリラックスタイム（レクリエーション）
11:30 おいしいお昼ご飯（焼きそば・野菜スープ・防災おやつ）
12:30 防災体験（濃煙テント・水消火器・紙食器作り・応急手当）
14:00 意見交換会
14:50 終わりの会
15:00 解散
16:00 南三陸町ポータルセンター出発
18:10 東北福祉大学国見キャンパス到着

(5) 活動内容

①心も体もリラックスタイム（レクリエーション）

子どもたちと TeamBousaisai の学生の緊張をほぐすために、アイスブレイクを目的としたレクリエーションを行いました。まず初めに、お互いに名前を把握するため名札づくりを行いました。様々な色のペンを用意したことで子供たち一人一人に工夫が見られ、皆が楽しみながら名札を作成することができました。

次に、屋外で『はないちもんめ』『鬼ごっこ』『ネコとネズミ』『人間知恵の輪』などのレクリエーションを行いました。皆で身体を動かしながら仲を深めることができました。中でも、子どもたちからの提案で行った『はないちもんめ』は、楽しみながら相手の名前を覚えることのできる良いレクリエーションだなと感じました。

②昼 食

昼食は、ホットプレートを用いて子どもたちと一緒に焼きそばを作りました。

また、多くの人が備蓄しているであろう乾パンを使ったおやつも、子どもたちと一緒に作りおいしく食べることができました。子どもたちからは、『こんなに簡単にできるんだ』『乾パンもこうやって食べればおいしいね』などの声を聴くことができ、この企画を行って良かったなど実感しました。

③防災体験

レクリエーションと昼食を終え、子どもたちと TeamBousaisai の学生との仲が深まった後に、防災体験を行いました。濃煙体験・水消火器体験・紙食器作り体験・

応急手当体験の4つの体験を行う事を予定しておりましたが、強風のため濃煙体験を行うことができず、濃煙体験を除く3つの体験を行いました。水消火器訓練では、子どもたちの興味を引き楽しく体験してもらうために、絵を用いて説明をすることで楽しみながら体験してもらうことができました。紙食器作り体験では、紙コップとスリッパを新聞紙を使って作り、実際に使ってもらいました。初めて経験をする子供たちの反応を、生で感じることができました。応急手当訓練では、救急救命士課程を専攻している学生を中心として行いました。小学生が対象であったため、人形やAEDに触れてもらうことを目的として行いました。それまで笑顔で楽しく体験をしていた子供たちですが、応急手当体験では真剣な表情で学ぶ様子が見られ、人の命を助ける難しさや、命の大切さを学んでもらうことができたと感じています。

④意見交換会

最後に子供たちと意見交換を行いました。東日本大震災当時子供たちがどのような状況で被災し、その後どのようにして今に至るのか、実際に東日本大震災を経験した子供たちから生の声を聴くことは初めてだったので、様々な意見を得ることができました。『水や電気が止まってありがたさが分かった』『地震なんかにはまけない!』『地震が来たら近くの避難所にすぐに逃げるのが大切』などの意見が挙がり、楽しそうに話しをする中で、自分なりの意見を持っている子どもたちに刺激を受けました。

(6)絵本製作について

私たちが通っているのは“福祉”を学ぶ大学だということにある日気が付きました。そのことによって、災害時に弱者となるような方々に防災を伝えるような活動を私たちがするべきだということに気が付くことが出来ました。ですが、災害時においての弱者は、高齢者、子ども、妊婦など多岐に渡ります。その方々全てに防災を伝える

ことが出来ればベストでしたが、それは私たちの現状として難しいものでした。そこで、災害時の弱者の中で誰に一番伝えたいかと考えた時に、災害は“未来”に伝えていかなければいけないものだと考えました。その未来を担うのは“子ども達”です。しかし、防災を伝えるにはどうしても難しくなりがちで子ども達は興味を示しません。それは、子どもの目線に立った内容ではなかったからではないかと考えました。大人がいくら考えても災害時の子どもの目線から見た気持ちを理解することは難しいと思います。それなら、実際に震災当時5～10歳であった子ども達に、当時子どもなりに考えたこと感じたことを逆に教えてもらえば良いのではないかと、そのリアルな声を“防災絵本”とするのはどうだろうか考えたのがきっかけです。

絵本は12月9日に完成し、参加してくれた子ども達及び、アンケートに協力いただいた南三陸の小・中学校に配布を行いました。今後は地震がおこるであろうと言われている地域を中心に各地域へと配布することができればいいと思います。

(7)総括

私たち TeamBousaisi のモットーは、『楽しみながら防災を学んでもらうこと』『防災を学ぶ中で楽しさを感じてもらおうこと』です。今回の活動では、子どもたちの笑顔をたくさん見ることができ、子どもたちに楽しみながら防災について学んでもらうことができたと思います。震災から5年半以上が経ち、記憶が薄れてきてしまっている中で、私たちがこのような活動を行い、東日本大震災当時の記憶や記録を若い世代へと伝えていくことが大切だと思います。今回の意見交換や活動を通して得た情報をまとめた絵本を、今後起きるとされている南海トラフや首都直下地震の地域へと送ることで、東日本大震災の経験が無駄にすることなく、防災啓発活動に繋げていくことができると思います。

(8) 活動風景



楽しく名札づくりをする様子



レクリエーションを運営する様子



乾パンを使ってデザート作りを行う様子



レクリエーションを行う様子



一緒に昼食を作る様子



一緒に昼食を食べている様子



紙食器を体験する様子



応急手当体験を行っている様子



意見交換を行う様子



完成した絵本

＊なお、当日の活動風景は NHK『東北発未来塾』のホームページ内にある

『未来への芽』のコーナーからご覧いただけます。

(<http://www.nhk.or.jp/ashita/miraijuku/local/161212.html>)

VIII. かんたん楽しいサバ飯クッキング 活動報告

事業名及び趣旨

事業名：かんたん楽しいサバ飯クッキング

趣旨：地震、津波で被災した地域（荒井東）の子供達の笑顔を取り戻すためにサバ飯クッキング及び防災についての問題を出し、一緒に楽しみながら防災について学んでもらう。

開催団体名

東北福祉大学 萩野ゼミ

1. プレ実施

報告者 沼田 直之

(1) 活動日時

平成 28 年 8 月 6 日（土） 12 時 00 分～ 14 時 00 分

(2) 開催場所

荒井東地区 七郷児童館

(3) 参加者の状況（対象者、開催者数）

対象者：荒井東に住んでいる子供とその家族

参加者：12 名（子供 6 人、大人 6 人）

開催者：13 人

(4) 開催内容（当日のスケジュール、活動状況など）

当日の日程

- 11:00 ～ 会場に集合
- 11:10 ～ 会場準備
- 12:00 ～ 開始挨拶
- 12:10 ～ サバ飯の説明
- 12:25 ～ 料理開始
- 13:15 ～ 実食
- 13:40 ～ 後片付け
- 13:50 ～ 終わりの挨拶
- 14:00 ～ 解散

メニュー：カンバーグ、簡単クッキー

備考：萩野先生不在の為、遠藤先生が同行

本活動を行う前に、少しでも多くの人に活動を知って頂くために、当日ゼミ生 13 名で実演宣伝を行いました。生徒は荒井駅に 10 時 15 分に集合し、足りない食材の補

填のため、食品スーパーのヤマザワへ買い出しをした後、会場である七郷児童館に到着しました。本番まで時間があつたため、調理が円滑に進むよう調理班が下ごしらえと、カンバーグの練習を開始。来る予定の参加者分の椅子 11 個を設置し本番まで待機しました。参加者が集まり始め開始時間の頃には、予定より多い人数が参加しにきてくださりました（大人 6 人 子供 6 人）。



12 時になり初めの挨拶として、ゼミ生の入小がこのボランティアの狙いや参加者への感謝の気持ちを伝えました。次に遠藤先生が東北福祉大の子供支援プロジェクトについて説明してくださったときに、プリンセスプリンセスというワードがでたとき親御さんが深く相槌を打っていたのが印象的でした。今回はプレ実施であるため、挨拶を終えた後すぐに調理へと移ります。

調理の順番としてはクッキーを焼いている途中から、カンバーグの調理に移りました。（調理方法、材料は次項に掲載）クッキーもカンバーグも、混ぜたり砕いたりなどの作業があり、子供たちは楽しそうにしていました。

火を取り扱う作業は子供たちには危険なので、カンバーグをフライパンで温めている間に、完成したクッキーを食べてもらうことにしました。少ししてからカンバーグもできあがり、1人3種類ずつほど食べてもらいました。子供たちにはクッキーもカンバーグも好評で、おかわりする子や、お持ち帰りする子などもいて、初めての活動で不安だった私たちもホッとしました。

最後にゼミ生の新川が終わりの挨拶をして14時00分頃解散とし、参加者が帰宅後会場の清掃を済ませ、14時過ぎ頃それぞれ持ち帰る荷物を決め帰宅しました。

初めての実践で改善すべき点が浮上したためゼミで話し合い、解決策を出し、第1回目のボランティアにつなげることにしました。

①フライパンで簡単クッキー



(a) 材料 (2人前分)

小麦粉	大さじ6杯
砂糖	大さじ2杯
マーガリン	大さじ3杯
ココア粉末	適量
ゴマ	適量

- ①ポリ袋に小麦粉、砂糖、ゴマ or ココア粉末を入れ、よく振って混ぜる。
- ②①にマーガリンを加え、混ぜる。
- ③生地がまとまったら、袋の端を切り、アルミホイルの上に絞り出す。
- ④③をアルミホイルごとフライパンに置き、弱火～中火で焼く。途中で裏返し、焼き色がついたら完成。

②カンバーグ



(a) 材料 (12個分)

カンパン	1袋
ツナ缶	2コ
コーン缶	1コ
やきとり缶	2コ
サバみそ缶	2コ
水	少量

- ①カンパンを細かく砕き、パン粉の代わりにつなぎとして使う。
- ②砕いたカンパンは水で湿らせる。
- ③それぞれの缶詰を開け、細かく刻む。
- ④シーチキンはコーンと和え、塩、コショウで味付けをし、カンパンと混ぜる。
- ⑤やきとりと、サバみそは味がついているので、そのままカンパンと混ぜる。
- ⑥形を整え、焦げ目がつく程度までフライパンで温めれば完成。

次の活動に向け、足りなかったモノを確認し買い足し、プレ実施では除いた、防災についての学習部分とアイスブレイク等を兼ねた防災クイズの内容を具体的に決めました。学習部分の内容とクイズ内容はリンクさせ、学習部分を聞けばクイズが答えられるように作成。クイズ自体は、こどもたちが選択しやすいよう2択問題とし、間違った回答にはなぜその解答ではいけないのか理由も説明していきます。また、サバメシクッキングの方は本番に向け一度実際に作り手順や材料の分量の確認作業を行いました。

2. かんたん楽しいサバ飯クッキング その 1

報告者 大内 友之介

(1) 活動日時

平成 28 年 9 月 25 日 日曜日
11 時 00 分～ 14 時 00 分

(2) 開催場所

荒井東地区 せんだんの丘 ぷらす あらい
(デザインセンターⅡ：ガラス張りの建物内)

(3) 参加者の状況

対象者：荒井東に住んでいる子供とその家族
参加者：7 名 (子供 3 人、大人 4 人)
開催者：11 人

(4) 開催内容 (スケジュール等)

当日の日程
10:00 ～ 会場に集合
10:10 ～ 会場準備
11:00 ～ 開始挨拶
11:15 ～ 防災について講義
11:40 ～ クイズスタート
12:15 ～ サバ飯作り開始
13:20 ～ 実食
14:00 ～ 終了後片付け
14:30 ～ ミーティング
15:00 ～ 解散

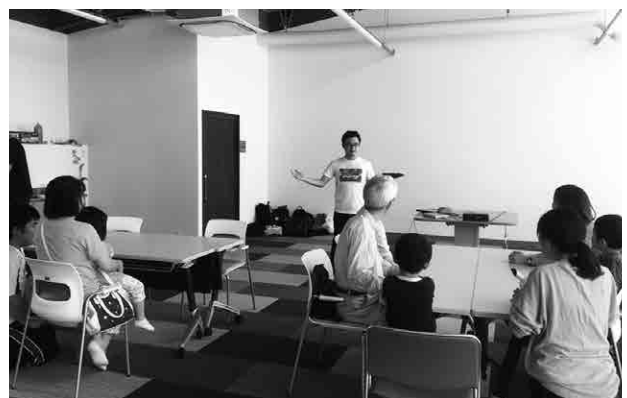
(5) 活動を通じて学んだこと・課題

今回本格的にサバ飯クッキングを開催しましたが、結果は反省点が多く残る形となりました。まず、集客をするために事前に荒井東の人たちに宣伝を流すのが遅れてしまい当日あまり人が集まりませんでした。次回は事前にチラシを配る、駅やお店にポスターを張らせてもらうなどしてしっかり集客したいです。また、子供達の好き嫌いについても把握しておく必要があることに気づきました。

参加する子供達の情報を事前に知っておくことでアレルギーのあるお子さんも安心して参加できるようにした

いと思います。当日の開催者で欠員が出た場合にその人の担当部分を埋めるように開催者全員で今回の企画の内容をしっかりと把握、また情報を全員で共有することも大事だと思いました。今回自分の役割に必死になりすぎて他の人の手伝いを怠る、自分の役割が終わったからといって休むといったことが多かったように思います。次回から手が空いた人から率先して手が足りてない所に行き手伝う、子供達の相手をするなどして改善していきたいと思います。子供達と接することも少なかったのですが、それ以上に参加してくれた親御さんとの会話も少なかったことも反省点にあがりました。親御さんにきちんと企画の説明や、子供達のことなどで会話し、我々のことを知ってもらうことで次回の活動の宣伝にもなると思うので次回からしっかり子供達、親御さんと会話していこうと思います。また、企画で使う道具の見直しも必要であるという反省点も出ました。機材準備や、料理で使う道具が無かったり、不足したりして直前で買い足すということもあったので次回からはチェックリストを作るなどして改善していこうと思います。このように今回本格的に活動してみて多くの反省点が残る結果となってしまいましたが、子供達の楽しそうにしている姿、笑顔、一生懸命料理をしている姿を見て次回はもっと楽しい企画にしようと思いました。今回の反省点を活かし次回につなげたいです。

(6) 活動風景



地震がきたらどうしたらいいかな？



これからサバ飯作っていきます！



簡単蒸しパン



簡単リゾット



楽しくできました！皆またよろしくね～

3. かんたん楽しいサバ飯クッキング その2

報告者 大内 友之介

(1) 活動日時

平成28年10月29日 土曜日
11時00分～14時00分

(2) 開催場所

荒井東地区 せんだんの丘 ぷらす あらい
(デザインセンターⅡ：ガラス張りの建物内)

(3) 参加者の状況

対象者：荒井東に住んでいる子供とその家族
参加者：24名(子供11人、大人13人)
開催者：15人

(4) 開催内容(当日のスケジュール、活動状況など)

当日の日程

10:00～ 会場に集合
10:10～ 会場準備
11:00～ 開始挨拶
11:20～ 防災について講義
11:30～ サバ飯の説明
11:35～ 料理開始
11:50～ クイズスタート
12:15～ 料理再開
12:35～ 実食
13:00～ 後片付け
13:30～ 終わりの挨拶
14:00～ 解散

(5) 活動を通じて学んだこと・課題

今回本格的な活動の2回目ということで前回の反省したことを意識して活動を行いました。今回は事前にしっかり役

割分担を確認したので集客などの宣伝、記録や司会などもスムーズに行うことができたと思います。また、子供のアレルギー等も宣伝時やポスターを見て連絡があった時に聞くことができたので把握することができました。今回は手が空いた人は子供の面倒を見る、他の役割の手伝いをするということが前回よりもできていたので暇な人員は少なかったと思います。活動の途中や、最後の方に宣伝の役割の人やリーダーが率先して保護者の方と話していたのでその点も前回より良かったのではないかと思います。

また、前回と今回の活動を通して子供達は長時間の集中は難しいということに気づきました。プレゼンやクイズなど最初は集中して聞いてくれますが、途中から飽きてきてしまったので講義などはテンポなどが重要だと思いました。今回は前回の反省を活かし活動したつもりでしたが終わってみると反省点が多く残る結果になってしまいました。まず、講義等で説明する時の声が小さいことです。講義をしている時の声が小さいと防災についての知識も保護者や子供達に伝わらず、あまり良い印象を与えられないのでプレゼンの担当になっている人は次回から大きな声を出すこと、相手にしっかり内容を伝えることを意識して取り組むことにしました。

また、今回のサバ飯でマシュマロスイーツを作ったのですが、その時に使用したガスコンロを見ておく人が少ないということがありました。子供達が怪我などをしないように注意して見ておく人を役割として作った方が良かったと思います。テーブル等の配置も考慮するべきという反省点もありました。今回前回よりもたくさんの方々に参加してもらったのですがその際に料理や講義を行うテーブルの配置が上手くいかず参加者の方々に迷惑をかけてしまいました。次回からはテーブルなどは料理の時だけに出すようにしてさらにスムーズに講義等が進行できるようにしたいと思います。

この反省点に加えて今回はチラシやポスターなどを見て飛び入りで参加してくれた方々も多くいました。開催者側の予想よりも多くの参加数になったために道具や料理の材料が足りなくなるといったアクシデントが起きました。次回はこのようなことが起こらないように事前に道具等を多めに持っていくなどして余裕を持って活動していきたいと思います。さらに活動場所であるデザインセンターが分かりづらいという声も挙がりました。実際今回の活動においても会場が分からず来るのに迷ったなどの指摘も保護者の方々から

頂きました。

今回の活動においてはチラシやポスターに簡単な地図を載ることや、外の方に看板を立てておくなどして会場までの道のりを分かりやすく改善したいと思います。今回の活動でサバ飯を皆で食べた後で簡単なアンケートを保護者の皆さんにかいてもらうことにしました。そのアンケートで次回津波の怖さを子供達にクイズなどで教えてほしいという意見が出たので次回の活動ではクイズに津波の特徴や怖さなど入れ子供達に教えていきたいと思います。前回と今回の活動を通して子供達は自分たちに活動に対してとても興味を持っていること、そして何より楽しんで参加してくれているということに気づくことができました。そのように参加してくれている子供達を次回はもっと楽しんで笑顔になってもらえるように今回の反省を次回に活かせるようにしたいと思います。

(6) 活動風景



地震が来たらどうすればいいのかな？



料理前には手を洗おう！



クイズ疲れた～！次はマシュマロサンドを作ろう！



ピラフが出来るまでクイズに挑戦だ！



ピラフを皆で作ろう！



皆で出来た料理を食べよう！

4. かんたん楽しいサバ飯クッキング その3

報告者 大内 友之介

(1) 活動日時

平成28年12月4日 日曜日
11時00分～14時00分

(2) 開催場所

荒井東地区 せんだんの丘 ぷらす あらい
(デザインセンターⅡ：ガラス張りの建物内)

(3) 参加者の状況

対象者：荒井東に住んでいる子供とその家族
参加者：15名(子供10人、大人5人)
開催者：16人

(4) 開催内容(スケジュール等)

当日の日程
10:00～ 会場に集合

10:10～ 会場準備
11:05～ 開始挨拶合わせて防災についての講義
11:15～ クイズ開始
11:45～ サバ飯の説明
11:55～ 料理開始
12:50～ サバ飯実食
13:10～ アンケート記入
13:30～ 終わりの挨拶
13:40～ 後片付け
14:00～ 解散

(5) 活動を通じて学んだこと・課題

今回で最後となるこの活動、今までの反省を活かし開催者全員で前よりもより良い活動になるように頑張りました。前回の反省で出ていた講義の声が小さいなどの問題点ですが、今回は講義やクイズなどで説明する人が全

員意識して大きい声を出し、分かりやすく説明するために少しジェスチャーなども交え防災について説明していました。その結果子供達も講義に真剣に耳を傾けてくれて、発問などもしてくれとても良い講義になったと思います。

その後に行われたクイズも参加してくれた子供達はクイズの答えを真剣に考えてくれたり、何でこの答えになるのかなど自発的に説明してくれたりと開催者側が大きな声で楽しいそうにやればやるほど、子供達もそれに負けないように、元気いっぱい答えてくれていたのでとてもやりがいがあったように思えます。クイズの景品であるお菓子もとても喜んでくれていたので良かったです。活動が始まってからも手が空いている人は積極的に子供達の面倒を見たりと開催者側の雰囲気も団結しようとしていて良かったと思います。また、料理の方ですが前回道具などが足りないということがあったので今回新たに増やし、子供達が途中で飽きないように全員に道具を渡し料理に取り組むことができました。今回作ったサバ飯がカレーとナンだったのですが道具を増やしたことにより子供達が食材に触れる機会が増え、前回よりも飽きさせずに料理をすることができたのではないかと思います。料理もカレーと子供達も馴染みの食べ物であったので作るのも難しい作業ではなくスムーズに行うことができました。

今回の活動は全体を通して1回目、2回目よりもすごく良くなったと感じることができました。ですが、今回も反省点がいくつかあります。まず、子供達の行動についてです。先にも述べましたが前回よりも子供達は飽きずに作業してくれていたと思いますが、それでもやはり1人2人は飽きて走り回ったり、机の下に隠れたりする子供が出てきてしまいました。そのような子供達に再び料理など、今行っている作業に集中させることがあまりできていなかったことがまず反省点として挙げられます。集中力が切れた子供達の面倒のみかたを前もって考えておくべきだったと思います。また、今回最後の片づけで油断したのか動き出しが遅く机などの片づけを保護者の皆さんに手伝わせてしまいました。当初では片づけは開催者が全員で行うことになっていたのですがこの点においても改善するポイントだと思います。料理の面でも反省点があります。今回カレーを作るのに袋を使うのですが、

その袋が破けてしまうというアクシデントが起きてしまいました。また、材料などの分量を量る作業を子供達にもやってもらったのですが子供達の年齢的にも少し難しかったようで、適当になったところもありました。料理の工程など子供達の年齢に合わせて考える必要があると思いました。

これらの反省点を踏まえて来年度またこのような機会を頂けたら、次は広場をつかつての災害のイベントや、サバ飯以外の防災知識のボランティア、全体をまとめる司会をしっかり作ること、準備機関から当日の本番までしっかり皆で協力していくこと、自分たちの予算があとどの程度なのか慎重に計算して活動費を使うことなどが挙げられました。

今回、被災した子供達の笑顔を取り戻し一緒に防災について学ぶということが趣旨でしたが、反省点はたくさんありましたがどの回もこの趣旨に沿って活動できたのではないかと思います。また、子供達とこの活動を通して関わって子供達の発想の柔軟性、吸収力の高さ、そしてパワフルさに気づくことができました。震災などの自然災害は日本に住んでいる限り避けては通れません。地震などから命を守るためにはどのようにすればいいのか今回このボランティアに参加してくれた子供達、保護者の皆さんにちゃんと伝えることができたと思います。また、開催者側の私達も今回のボランティアを経験して各々成長することができたと思います。来年度もこのような機会がありましたら是非また参加したいと思います。

(6) 活動風景



今から活動を始めます！みんな今日はよろしくね！



みんなは津波ってどんなものか知ってるかな？



今からカレーを作っていきます！



津波の高さは陸地に来るときどれくらいになるかな？



材料を袋に入れて…



料理する前はちゃんと手を洗いましょう！



早くできないかな～？



カレーが完成する間にナンを作ろう！



カレーとナンのできあがり！美味しそう！



材料を混ぜたらこねて…



みんなでいただきます！おいしいね！



フライパンで焼いたらできあがり！



とても楽しかったね！みんなありがとう！

Ⅳ．その他の事業

I. 七郷中学校「防災マップづくり」支援活動

1. はじめに

昨年に引き続き七郷中学校「防災マップづくり」活動の支援に取り組みました。七郷中学校は仙台市東部の若林区荒井地区にあり、元々この地区に住んでいた住民、荒浜など被災地域から移り住んできた住民、地下鉄東西線開業に伴う再開発で流入した住民が混在した地域です。そのため、震災以降子どもたちへのさまざまな支援が必要とされているところです。

2. 趣旨

七郷中学校で、総合的学習の時間を活用して、「防災マップづくり」に取り組んで5年になります。生徒たちの力を結集した防災マップは、年々その完成度が高まっています。今年度は事前学習として、新たに地下鉄東西線荒井駅に作られた「せんだい3.11 震災メモリアル館」の訪問学習を実施し、カリキュラムの充実を図っています。

本学では、七郷中の先生方と相談しながら、「子ども支援プロジェクト」の一環としてお手伝いしています。学内の防災士研修室と連携して、防災・減災について学んでいる学生を中心に幅広く学生を募り、その力を生かした活動を進めてきました。

3. 活動内容

(1) 船渡忠男先生の講演

本学教授で防災士研修室室長の船渡忠男先生が、「災害時に中学生ができること～福祉の視点から～」と題して、10月21日にお話しました。東日本大震災の際、ご自身が市内のPTA会長をなさっていた経験を踏まえて、具体的に災害時にどう対応したらよいのか、普段からどのような準備をしておくとういのかについて紹介していただきました。



(2) 「震災メモリアル館」訪問学習

11月15日から18日の間、クラスごとに「せんだい3.11 震災メモリアル館」を訪問し、30分間、展示の見学及び施設スタッフからの説明を聞く学習を行っています。本学学生も、授業の空き時間を利用して、この間の都合のつく

日に参加し、生徒と共に学習・交流しました。まち歩き当日に初めて生徒と顔を合わせるのではなく、事前に交流する機会を得たことは、まち歩きの支援がやりやすくなったという学生の声が届いています。

(3) 生徒の「まち歩き」に参加

11月28日に行われた「まち歩き」（マップを作るための地域調査）には13名の学生が参加しました。班毎に指定された地区を調べて歩く生徒たちと行動を共にしながら見守り、気付いた点を話すなどして、同時に交流を深めました。今年度はあらかじめ担当地区が学生に割り振られていたためスムーズに運び、短時間でしたが、中学校の生徒さんにとっても本学学生にとっても、いろいろな刺激があったようです。当日は本学教員も参加して、学生や生徒の様子を確認し、助言指導を行っています。



4. 成果

生徒さんは講義を聴いたり、施設を見学したり、実際にまちを歩いて地図を作成したりしながら、多くの新たな気付きがあり関心も高まったと中学校の先生からお聞きしました。さらに成果発表の場を、中学校内にとどめず、今年度から地域でも行われた（震災メモリアル館、七郷市民センター）ことは、生徒たちの大きな励みとなったと思います。まち歩き活動を通じて生徒と地域のつながりが広がり、自信につながっていくことを、2年間、この活動に関わってみて感じました。

一方学生たちも、生徒さんとのやり取りを通じて刺激を受けたようです。「まち歩き」を一緒にした生徒たちがどんなまとめをするのか、どんな報告をするのか、ぜひ知りたいと学生の方から声が上がりました。中学内の発表には参加できなかった学生も、地域での発表を見に行く機会を得たことはとてもよかったと思います。

Ⅱ. JR 常磐線運転再開記念 イベント in こどもセンター

2016 年 12 月 10 日に JR 常磐線の浜吉田駅（宮城県）から相馬駅（福島県）までの復旧工事が完成し、運転が再開されました。それを記念して宮城県山元町の新しい山下駅前に開設された「山元町こどもセンター」主催のイベントが開催され、本学学生にボランティア支援の要請がありました。子ども支援プロジェクト委員会が窓口となり、7 名の学生が参加しました。

イベントでは「鉄道模型のジオラマ展示」「ミニ SL に乗ろう！」「駅員さん“なりきり”写真撮影」「電車グッズ工作（ぬり絵）」「iPad で電車運転ゲーム」などのコーナーが用意され、地元の子どもたちで賑わいました。普段から本学「鉄道交流ステーション」の活動に参加して鉄道に関心のある学生に地元に住む学生らも加わり、それぞれのブースで子どもたちのお世話をしました。子どもたちが夢中になれる企画を通じて学生との交流もあり、楽しむことができたに参加した学生たちは話しており、充実した時間を過ごせました。



鉄道模型が運転されたジオラマ展示



駅員さんの帽子をかぶってパチリ



子どもたちを乗せて走るミニ SL

Ⅲ. みんな集まれ！感動のまなびと体験 子ども支援プロジェクト 3 年間の活動紹介と交流イベント

1. はじめに

ガールズバンドである「プリンセス・プリンセス」からの被災地復興支援寄付金を基に立ち上げた東北福祉大学「子ども支援プロジェクト」も今年度で 3 年目を迎えました。被災地域での子どもたちの学習支援、自然体験学習を目的に 2014 年から始まった「子ども支援プロジェクト」も 3 年目を終え一区切り。本活動は、「七ヶ浜での活動」「野々島プロジェクト」「学生企画事業」の 3 つのプロジェクトから構成されており、特に「学生企画事業」は学内コンペを勝ち抜いた複数の学生企画から実現されてきました。これらの活動は、子どもを支援しながら、学生自身が学ぶ場ともなっていました。そこで、これまでの活動の総括として「子ども支援プロジェクト交流イベント」を、地域の教育委員会（宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、塩竈市教育委員会、七ヶ浜町教育委員会）のご後援をいただきながら 2 月 11 日仙台駅東口キャンパスの TFU ギャラリーミニモリで開催いたしました。本交流イベントでは多くの皆様に私たちの活動をご理解いただき、また、いくつかのプログラムを実際に体験していただくことが出来ました。本イベントは、「学ぶ」「遊ぶ」「楽しむ」をテーマに移動式プラネタリウムや液体ちっ素を使った実験、ジャグリングショーにワークショップ、絵本で学ぶ防災と盛り沢山のプログラムを組んで、子ども支援プロジェクトで活動する、小石川秀一ゼミ、金政信ゼミ、森明人ゼミと、ジャグリングサークル「ジャグリコ」、TeamBousaisi（チーム防災士）から約 40 人の学生が参加して運営を担い、親子連れ中心の 300 人を超える入場者を喜ばせました。

これまでの活動を総括するパネルディスカッションもこの日行われ、3 人の学生パネリストは成長を口にしながらも来年度以降の資金面の悩みを話し、プロジェクトの継続を訴えていました。

親子で体験 学ぼう！遊ぼう！
入場 無料

みんな集まれ！感動のまなびと体験
子ども支援プロジェクト 3 年間の活動紹介と交流イベント

学ぶ
●絵本で学ぶ防災のこと
●子ども支援プロジェクトの活動を学ぶ
●パネルディスカッション

遊ぶ
●子どもむけあそびの森ワークショップ
●ジャグリングショー
●ジャグリング体験

楽しむ
●星の神秘を見よう！プラネタリウム
●液体ちっ素を使った実験
●低圧の世界を体験しよう！

2月11日(土) 10:00~16:00
TFU ギャラリーミニモリ
東北福祉大学仙台東口キャンパス

以下、「学ぶ」「遊ぶ」「楽しむ」のプログラムを簡単にご紹介いたします。

2. 「学ぶ」

(1) 絵本で学ぶ防災のこと

学生自身が物語を考え、挿絵を描いた防災絵本を、たくさんの親子の前で TeamBousaisi のメンバーが読み聞かせを行いました。



絵本の読み聞かせ

(2) 子ども支援プロジェクトの活動を学ぶポスター展示と野々島プロジェクトの紹介

3 年間の様々な活動を写真パネルで紹介しました。野々島プロジェクトの活動紹介については別に展示スペースを設け、模造紙やモニターを使い、活動の様様や野々島の紹介等を行いました。



これまでの活動の紹介パネル前



野々島についての説明

(3) パネルディスカッション

これまでの活動の振り返りや、今後の子ども支援のあり方などを学生が目でも考え、意見を交わしました。詳しくは、次節のパネルディスカッションをご覧ください。



学生の発言の様子

3. 「楽しむ」

(1) 星の神秘を見よう！プラネタリウム

星の神秘や、星に興味を持っていただくために、本プロジェクトが提供している、移動可能な仮設プラネタリウム(東北にはこの1台のみ)を体験していただきました。多くの親子が関心を持って見入っていました。



プラネタリウムの外観

(2) 液体ちっ素を使った実験。低温の世界を体験しよう！

大学生のお兄さんお姉さんと一緒に、超低温の世界を体感しました。



ちっ素を使った実験の様子

4. 「遊ぶ」

(1) あそびの森ワークショップ やってみよう！ 作ってみよう！

たくさんの素材や道具を使い、子どもたちの想像力を掻き立てるワークショップとなりました。子どもたちが熱心に取り組んでいました。



何ができるかな？

(2) ジャグリングショー、ジャグリング体験

実演、体験指導してくれた大学生のお兄さんお姉さんと会場の子どもたちが一体となって、時折歓声が上がるほどの熱気と興奮あふれる楽しいイベントとなりました。



お兄さん頑張れ～



うまくできるかな！

Ⅳ. 子ども支援プロジェクト交流イベント (パネルディスカッション)

佐 藤 伊知子

2月11日にTFUギャラリーミニモリにて子ども支援プロジェクト交流イベントが開催されました。そのイベントメニューのひとつとして子ども支援プロジェクトの主な企画リーダーの学生3名をパネラーに迎え、わたくしがコーディネーターを務めさせていただき、それぞれの取り組みの概要やその成果、課題などについてパネルディスカッションを行いました。

七ヶ浜町で行われたサマースクール、サマーフェスティバルの代表は4年の田端陽輔君。昨年度の活動リーダーとして概要を報告。学習塾が少ない七ヶ浜町の教育環境や理数系の学力が弱いという現状を踏まえ、子供たちが飽きずに集中力やモチベーションを高めながら学習支援を行うことができるような工夫やその効果について語ってくれました。

施設の活用や備品に関する事前調査などをしっかり行うことなどの課題が見つかり、次年度の活動が効率よくできるように後輩たちにアドバイスを送ることができたようです。

野々島プロジェクトからは今年度のリーダーとなった4年の佐藤真由さんが参加。3年目を迎えた野々島での自然環境教育プログラムについて内容紹介を行いました。

カヌー体験、自然探検などに加え、手作りの昼食メニューと一緒にいただきながら参加者との距離を縮め、自然の楽しさについて共有できたとのこと。しかしながら地震や津波という自然災害を経験した子どもたちの中には「水が怖い」と訴える児童がいるという現実とも向

き合ったようです。

また、このプロジェクトに参加した児童や保護者からの事後アンケートを集計し、参加者からのプログラム評価が非常に高かったことも報告されました。

学生企画事業の代表としてTeam Bousaisiからは2年生の手島悠那さん。南三陸町での子供たちに対する災害体験の聞き取りや防災教育について発表。その活動状況はNHKでも取り上げられ、その番組の様子も併せて紹介されました。

子供たちへの聞き取りから、地震などの災害の時にどのようなことを心掛けてどのような行動をするかをわかりやすく伝える手段として絵本や紙芝居を作成。この日のイベントでも参加した子どもや保護者に対し読み聞かせを行うなど、成果物をプロジェクト終了後の防災教育にも活用できる内容であることが報告されました。

3人のパネラーは互いの取り組みに対し運営の方法や工夫について意見交換し、今後の課題や継続していく価値、そのために必要なことについても学生目線で提言しディスカッションを終えました。

参加していただいた野々島プロジェクトの支援者から「活動の準備から実行までの期間で学生たちが確実に成長していく姿を見ることができて楽しい」とのお言葉もいただきました。子ども支援プロジェクトは参加者も実施者も被災地の未来を担う人材として成長していく大切な役割を果たしたと実感しました。



第 3 章

総 括

2016 七ヶ浜町の取り組みを通して

石 原 直

宮城郡七ヶ浜町で、東日本大震災の復興支援事業として取り組みを初めて、3 年目となりました。

七ヶ浜町の震災による被害は、死者・行方不明者 77 名、住宅、建物被害 1323 戸（全壊、半壊）に上る大きな被害でした。

東北福祉大学（以下本学）は、震災直後から南三陸町をはじめとして多くの地域で震災支援ボランティアなどの活動を積極的に行ってきました。このような中、平成 26 年 4 月に七ヶ浜町教育委員会と教育に係る連携協定を結びました。

被災地である七ヶ浜町の子どもたちにどんな支援ができるだろうと考え、サマースクールとサマーフェスティバルを企画、実施して 3 年目となりました。

震災の記憶が少しずつ薄れ、町の形も元のようになっています。しかし、七ヶ浜町の人たちの心には、まだまだ大きな陰が残っていることと感じます。サマーフェスティバルは、子どもたちに楽しい 1 日を過ごしてもらいたいと考え企画したものです。1 年目は、七ヶ浜国際村を会場に 11 月に実施しました。小学生の子どもたちにとっては、少し遠い場所になってしまったことなどもあり、多くの子どもたちに楽しんでもらうことはできませんでした。その反省を踏まえ、2 年目からは、夏休み中に実施することとし、2 年目は汐見小学校の体育館を会場に、本年度は亦楽小学校の体育館を会場に実施しました。どちらも多くの子どもたちが来場してくれ、楽しい時間を過ごすことができたと感じています。また、企画をした学生も充実した時間を過ごすことができました。

サマースクールについては、1 年目は、汐見小学校、亦楽小学校、松が浜小学校の 3 校で、夏休み中の 6 日間または 3 日間実施しました。午前中に学習支援を行い、午後は実験や物作り教室などを行いました。初めての試

みで学生も手探りのところもありましたが、子どもたちや先生方からとても良い評価をいただきました。2 年目は、小学校 3 校に七ヶ浜中学校、向洋中学校を加え、5 校で 3 日間実施しました。サマーフェスティバルを小学校で実施することも踏まえ、午前中のみの実施となりましたが、延べ 200 名を超える学生が参加し、充実したものとなりました。3 年目の本年は、一人一人の子どもたちに手厚く対応できるように、小学校 3 校のみの実施となりました。受け入れ高等の行事などの関係で 2 日間となりましたが、延べ 200 人を超える学生が参加し、これまで以上に一人一人の子どもたちの学習をサポートできた取り組みとなりました。

本学は、学生ボランティア等の活動で、学校現場に入ることが比較的容易になってきていますが、1 年生の時から子どもたちに直接学習支援できる機会は多くありません。その意味では、サマースクールは貴重な機会です。わずか数日ですが、この経験を経た学生は、確実に変わっていきます。子どもたちの支援という形をとっていますが、むしろ、この取り組みを通して得ているものは学生の方が多いかもしれません。

サマーフェスティバル、サマースクールは、体験を通して学生が成長できる場になったと感じています。

3 年間にわたり、サマーフェスティバル、サマースクールを実施することができたのは、ご支援をいただいたプリンセス・プリンセスならびに事務所関係者の皆様のおかげと深く感謝申し上げます。

また、このような機会をいただいた七ヶ浜町教育委員会や教員の皆様、そして、何より子どもたちのおかげと心より感謝申し上げます。

ここで学んだことを本学の教育に活かしていくことで、皆様への感謝としていきたいと思っています。

夏休みの子供と学生の力

七ヶ浜町立亦楽小学校

校長 須藤 清

「たくさんの経験を積んで楽しい夏休みにしてください。」

かつて夏休みは子供にとって「楽しさ」全開、「経験」全開の日々でした。全ての場所は工夫によって遊び場になり得る場所でした。子供に不幸な事故は起きることがあったものの、現下のようにどこでもどの子供も予期せぬ危機と隣り合わせの状態にいるという感覚はこの国のだれもが持ち合わせていませんでした。

昭和が終わり、世紀をまたぎ、子供が自由闊達に遊び、活動できる場所がどんどん狭められていったことは教育に関わる私達ならずともだれもが共通認識しているところであり、保護者は、家庭内や学校、スポーツ少年団、公的機関等でしか子供を「安全・安心」に活動させられないと感じています。夏休みの大半をゲーム等で過ごす子供は今や当たり前姿になっています。

このことは、学習指導要領改訂の議論にある予想を超える速度で進む社会変化の中であって、さらに東日本大震災で被災し変化してきた生活環境下にある七ヶ浜町の子供に「豊かな体験」をどう保障するかという教育使命を考える上で考慮せざるを得ないことです。

そんな中、七ヶ浜町が東北福祉大学との連携のもと学

生の力を得て夏休みの「サマースクール」、「サマーフェスティバル」に取り組めることは子供にとってはもちろん保護者にとって意義あるものと感じています。

学生にとっても然りと感じます。彼らは一定の安定を得た時代の体験は皆無であり、社会観や世界観の基本は今の子供に近いものがあります。東北福祉大学の教育実習生と対話してみると、彼らが一樣に、未来は約束されたものではないと感じ希望と同じくらいの不安としっかり向き合っていることがよく分かります。

その感覚は小学生の心の琴線にふれるものであると思っています。それを共有できる学生と学習活動や行事に取り組めることは、子供に、私達学校職員が期待している以上のものをもたらしているのではと感じています。

事実、活動後の感想は子供達のワクワク感にあふれているものであり、学生もまた自分のこれからと向き合う機会となっていることがわかります。

「安全・安心」が当たり前でない時代の夏休みだからこそ、この取組への期待はますます高まるのではないかと考えています。

ありがとうございました。



野々島の取り組みを通して

金 政 信

今年度の野々島プロジェクトは、子ども支援の活動を中心に、春には野々島にお住いの皆様との交流会の実施（バーベキューを交えての活動報告や、理学療法士を目指すリハビリテーション学科の学生によるマッサージの提供等）、活動施設の整備、共有地の清掃や草刈り、初夏にはラベンダーの収穫や島歩きイベントの開催、夏には花火大会のお手伝いや支援学生を対象としたカヌー教室の実施、秋には「島であそべんちゃー IN 野々島」の開催、島の活性化イベントの支援、大学祭や子ども支援プロジェクト交流イベントでの活動報告の実施、活動拠点の冬支度等、その活動にも幅が出てまいりました。

特に、子供たちへの支援を振り返ってみますと、これまでも述べてまいりましたように、本プロジェクトは、被災した地域や配慮が必要な子どもたちに自然体験活動を通して自信と勇気を育んでもらうものです。そして、そのためのプログラムの計画から実施までを学生が主体となっていくことによって、その過程の中で地域共創（活動に人を巻き込み、多様な主体との協働など）の理解とその重要性、社会で必要な力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）を養うことを目指しております。

本活動に参加した学生は様々な方々から多くのご支援ご鞭撻、ご配慮を頂きながら、その活動に至る過程の中で少しずつではありますが、地域共創の理解や社会で必要な力を養ってまいりました。特に、やらされているということから脱し、あるいは指示待ちから主体性をもって自ら関わりを持ち考えるようになれた学生は、その後の成長にも目を見張るものがありました。就職活動の時期を迎えた学生は本活動で学んだことを、自分の強みや学生生活の中で特に力を入れたこととして、面接やグルー

プディスカッションの中で披露し内定へと繋げて行く事でしょう。毎年、業界や職種を問わず本活動での実践での学びや経験が採用担当者に高い評価を得、その結果採用を頂いております。

また、昨年度に引き続き実施しました「島であそべんちゃー IN 野々島」へ参加して頂いた児童や保護者を対象とした満足度調査では「子どもの成長が観られた」、「貴重な機会や経験となった」等、非常に高い評価が得られました。児童からの意見の中には、「大きくなったら福祉大学に入りたい」「福祉大のお兄さんやお姉さんのようになりたい」、保護者からは、学生の真摯にかかわる姿や、児童から学生の対応や活動の話を聞き「将来は福祉大学に入学させたい」との声も複数得ることができました。

活動に参加した学生からも、本活動は他では得難い経験と気づき、学びの場になっており「今後も活動を続けたい」「後輩にも経験させたい」との継続を望む声が示されました。

子どもたちにとっての自然体験教育の場、学生の指導の観点からも、本活動を継続させていくことが肝要であると改めて感じました。

最後になりますが、ご後援頂きました塩竈市教育委員会ははじめ、本活動にご理解いただきご支援いただきました行政、協力団体・協力者の皆様、配慮が必要とする子どもたちの参加に率先してご協力いただきました、けやき教室、仙台市ほほえみの会の皆様、そして本活動を温かく見守り支えていただきました、浦戸諸島開発総合センター、野々島の皆様に、この場をお借りしまして心より感謝申し上げます。

野々島の活動を通して

菊 地 淳

東日本大震災の後に野々島とのご縁をいただき、野々島の素晴らしい自然環境と仙台白菜の採種文化を伝えて行こうという考えに賛同して、野々島での活動を始めたのが平成23年8月9日でした。その後、平成26年に子ども支援プロジェクトが立ち上がり、「島であそべんちゃーIN野々島」につながり、その活動も3年が経過しました。

1年目の4月、初めて野々島を訪れる学生達を連れて、浦戸小・中学校の先にある葉ヶ崎までトレッキングをしたのが、野々島プロジェクトの最初の体験活動でした。参加した学生から今年になってその時の感想を聞く機会がありました。「野々島の活動で、あれ以上きつかったことはありませんでした」と言われました。これから一緒に活動を共にしていく人たちの事を、短い時間の中で理解する目的があり、更には、たくましさを感じようとする側面も含んでいたのです。参加した学生たちは、互いに気づかい支え合いながら一人も脱落することなく最後までついて来ました。この人たちが野々島プロジェクトスタッフの中心メンバーになり、これまでの事業を推進し、後から加わってくる学生に思いを伝え、仲間を増やし、自らの経験を基に後輩を指導しながら3年間の活動を形作って来てくれました。

組織をまとめ思いを伝えていくには、とても大きなエネルギーを必要とするものです。参加メンバーの中では、様々な考え方や方法論、または地域や育ちの違いなどがあり、違和感を覚えることもあったと思います。中にはやらされ感を感じている人も居たと思います。準備の段階では、意見がまとまらず遅々として進まない場面や、メンバー間の温度差が大きく、モチベーションが下がってしまう事もあったように見受けられました。そんな時に、本来の目的を問い直し、揺るぐことなく方向をはっきりと示し、メンバーをまとめて前進させていくコアな学生スタッフの真摯な姿勢がメンバーの心を動かし、結果的にはまとまりのあるイベントを開催し成功させることにつながったのだと強く感じています。

今年度も、イベント本番までに何度も何度も野々島に通った学生たちがいました。30回を超える人たちもいた

と聞いています。草刈りや外構工事、ペンキ塗りなど環境整備や活動場所の下見、地域の方々との交流や貢献活動、子どもたちへ安全な活動を提供するための事前学習や実地での練習とイベントリハーサル。そしてその都度行なっていた振り返りと、次へとつなぐ改善がありました。誰のために行う事業であるかという原点に向き合うことで、目的を見失うことなく活動が出来たのだと思います。

野々島プロジェクトは、社会に出てから、いや出するために役立つプロジェクトであると言っても過言ではないと思います。社会人に必要な基礎的な力を得ながら、組織内での役割を理解し、互いに補い合う補完関係を体感しながら、責任感を醸成し、組織的な活動を学ぶことが出来ました。更にはリスクマネジメントやリーダーシップ、そして様々な人への配慮の仕方も学ぶことが出来る機会であったと思います。社会人となつての職場だけではなく、将来の家庭生活や子育ての場面でも役立つことがあると思います。

このような貴重な経験を活かすことにつなげるのは、自分自身の姿勢であると考えます。目的をしっかりと捉え、企画から準備に至るプロセスに深く関わることで得られる経験値や判断力は、大変価値のあるものです。この事業を成し遂げたことを誇りとして、自身のキャリアアップにつなげ、自分の力を伸ばしていただきたいと思います。

「島民の方への昨年度の活動報告と親睦会」「初夏の島を歩こう」「島であそべんちゃー」「国見祭」と、それぞれのイベント当日の学生スタッフの様子は、参加していただいた島の皆さんや子どもたち、来場した見学者を見て、触れ合って、感じ、考え、個々の人たちや子どもに応じた配慮した行動につなげていこうという気持ちと動きが見て取れました。そしてその行動はしっかりと相手に伝わっていたのではないかと思います。東北福祉大学の学生の特性・良いところが生きていたと強く感じました。

今年度も皆さまと共に活動する機会を頂けたことに心から感謝いたしております。ありがとうございました。

野々島の取り組みを通して

山 口 政 人

野々島の皆様には 3 年間継続的にご支援を頂き、今年も野々島プロジェクトを無事に終えることができました。子どもから高齢者まで世代も立場も異なる人々が野々島に集い、様々な交流を通して学生達は多くのことを経験しました。この活動が子どもの育成支援としての役割のみに終始せず、地域の活性にどのように貢献できるのかを学ぶ良い機会でもありました。そこには島民の皆様との関係構築が重要な位置づけにあることを気づかされ、改めて当プロジェクトが意義深いものと考えられました。

今年で 3 年目を迎え経験者が増えたことは運営において大変心強いことでした。経験豊かな 4 年生と 3 年生は後輩学生の指導に関わりました。準備作業の細部まで目が届くため早期に修正作業が可能となりました。

例えば、配慮や支援を必要とする子どもを対象とした 7 月の行事「初夏の島を歩こう IN 野々島」では、昨年度の反省点を踏まえ 2 点の改善を試みました。1 点目は配慮を必要とする子どもの対応に特に留意したことでした。昨年は元気な子どもに注意が一極に集中し、他の子どもへの配慮が薄れたこと、それに伴い全体の進行に影響が生じたことが反省点でした。今年はその苦い経験を 2 年生に伝え子どもへの対応を改めると共に全体を見渡し指示を出せる担当者を明確化しました。2 点目は天候の影響を受けない遊び、即ちテントの中での遊びを取り入れたことです。昨年は晴天に恵まれ熱中症が心配されました。今年は開催前の数日間雨天が続きました。気温の変化、濃霧の発生、急な降雨による気象変化は短時間で島の風景を変えてしまうため危険を伴います。今年は寄付金で丈夫なテントを購入させて頂き、テントの中で遊べるメニューを取り入れました。お陰様でお昼休みの時間はテントの中で遊んでもらい、保護者の方には体を休めて頂けたようです。数か月後、保護者の方からお手紙を頂戴しました。「子どもが野々島の思い出話をしたり、貝殻を庭先に並べて遊んでいます。学生の皆様に感謝して

おります」と写真と共にメッセージが込められていました。このように評価して頂き学生達は頑張った甲斐があったと思います。今年は昨年の問題が改善され細部まで準備の精度が上がったように思います。

ところで野々島は都会にあるような便利なモノが殆どありません。そのため学生達は頭と体を使って限られた条件下で作業を遂行しなければなりません。一例を挙げますと、島には清涼飲料水の自動販売機が 1 台のみで店舗がありません。起伏が多い地形で舗装されていない場所も多い中、移動手段は徒歩です。物品の搬送はリヤカーが基本です。島民の方から軽トラックを貸して頂いた時はこの上ない喜びを感じます。電波の状態が良くないためスマートフォンは使用せずトランシーバーで情報交換を行います。活動拠点であるラベンダー畑と宇内浜には、日よけも雨よけも無いので毎回テントを設営します。食事係が炭火を起こしメンバーのために昼食を作ります。調理用の水は島民の方から水道水を頂き、現地まで重いポリタンクを運びます。交通手段は仙山線、仙石線、塩釜市営汽船を利用し、月 2 回程度野々島に通います。

以上の条件は組織的にも個人的にも管理する力が求められます。例えば人員の管理、物品の管理、時間の管理、お金の管理、そして危機管理と健康管理です。学生達はそれぞれの役割を全うしながら、様々な障壁を乗り越え、逞しく成長しております。将来、地域の医療、福祉、産業、教育、行政、文化を担う学生達にとって野々島プロジェクトは最良の学びの機会を与えて頂きました。卒業後は地域社会のために各自が力を発揮し活躍してくれるものと信じています。

最後になりましたが当プロジェクトにご支援をいただきました野々島の皆様、関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。

学生企画の取り組みを通して

萩 野 寛 雄

3年目を迎えた「学生企画事業」ですが、27年度は八団体が仙台市、名取市、南三陸町、山元町、七ヶ浜町にて、合計16回の子ども支援活動を実施しました。のべですが子ども、保護者様が311名、学生が236名、合計で547名の方が学生企画事業に参加してくださいましたことに、心より感謝申し上げます。「文化交流教室」「ことばの貯金箱」「山元町の子ども達との絆プロジェクト」「『くうそうせいぶつ』ワークショップ」「希望をカタチに〜つなげよう僕らの未来〜」「渡会ゼミ音楽コンサート in 南三陸」「君とつくる未来プロジェクト」「かんたん楽しいサバ飯クッキング」など、今年度も多様なプログラムを実施し、震災で苦しんだ子ども達のところを少しでも慰められたならば、うれしく思います。

平成26年度から子ども支援プロジェクト内の学生企画事業として始まったこの取り組みも、無事に3年目の最終年度を迎えることができました。東北福祉大学では、学生の社会貢献が非常に盛んです。少し前の学内調査では、学生のほぼ100%が卒業するまでに何らかのボランティアを経験し、80%以上が継続的なボランティアを経験して卒業します。この学生企画事業は、そうした本学学生のアイデアや感性、行動力を被災地の子ども支援に活用すべく期待されて、企画しました。学生に「被災した子どものために、何か力になりたい」という温かい気持ちがあっても、交通費などが手弁当の参加ではなかなかそれを継続的に形にするのは難しいです。本企画では、支援に必要な物品や交通費等を支援することで、こうした学生の気持ちを具現化できたことを嬉しく思います。

昨今の学生には、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が強く求められます。本企画では、子ども支援を通じて支援する側の学生教育にも寄与させるために、

企画コンペ形式を採用しました。学生が自分たちの企画をまとめ、整理し、それをわかりやすくプレゼンするというPBL学習（Project-Based-Learning）の形態です。学生はこの過程で自分たちの企画の目的、対象を明確化するとともに、自分達では気づかなかった可能性や無駄、リスクなどを明らかにして活動に臨めました。26、27、28年度の3年間で、参加した学生団体はのべ19団体。運動部などの体育会、ゼミ、学生サークルなど、多様な団体が参加してくれました。参加学生数は、のべで963名にもなりました。学生は宮城県内で活動し、初年度の七ヶ浜町を皮切りに、その後は仙台市、名取市、山元町、南三陸町、女川町などへ活動範囲を拡大しました。これら6市町村で計51回の企画を実施し、参加してくれた子ども及び保護者様は3年間で723名になりました。過去の企画には、「ASOBOB in 荒井、七ヶ浜」「ことばの貯金箱 in 七ヶ浜」「遊びの森〜無限の想像力で新たな自分を想像しよう〜」「学習支援/ミニ運動会」「群舞ダイナミック琉球 in 女川」「ジャグリングってなんだろう〜みんなで一緒にやってみよう!〜」「ホップ♪ステップ♪ランニング」「リズムで英語 in 七ヶ浜」「目指せてっぺん!!冬の運動会」など、若い学生の自由な発想や感性が活かされた事業を多数みることができました。

これらの活動を通じて被災した子ども達の少しでも力になれば、同時にこの活動の実施で本学の学生たちが成長すること、これこそ本学の教育の理念である「自利利他円満」の実践となります。助成を賜ったプリンセス・プリンセス様、ご協力いただきました被災地の関係者様、ご参加くださったお子様・保護者様、そして活動を企画・実施してくれた学生諸君、本当にありがとうございました。

次年度以降の活動について

星 山 幸 男

このプロジェクト活動の基となっているプリンセスプリンセス様からの復興支援基金は本年度で終了しますが、地域に浸透してきたことやまだ支援が必要とされていることなどを鑑み、予算規模は縮小しますが、3年間実施してきた成果を踏まえて活動を継続していきたいと考えています。

1. 基本方針

これまでの実績を踏まえて、地域の子どもたちへの多角的な支援と支援を継続的に行うための人材育成（地域支援を将来的に担える学生を育てる）の二本の柱を基本方針として、七ヶ浜町での活動、塩釜市野々島での活動、学生企画事業を中心にプロジェクトを推進していく予定です。

2. 七ヶ浜町での活動

一見立ち直ったように振舞っている子どもたちの中に、まだ傷の癒えていない子どものいることが報告されています。子どもたちの心や体が本来の姿に戻るには時間が必要で、子どもたちに寄り添いながら活動を継続していかなければなりません。そこで、サマースクールを学校等と連携しながら地域の皆さんと一緒に推進していきます。学習支援や体験学習などを幅広く継続していく予定です。その際、町からの要望も受け止めて、活動を広げることにも配慮していきたいと思っています。また、活動を支援してくれる学生を増やしていく努力も必要になると考えています。

3. 塩釜市野々島での活動

「地域との共創」「社会で必要な力を養う」という二つの目標は継続します。来年度以降も、子どもたちが参加

しやすい時期を選んで準備を進めていく予定です。そして、地域の皆さんとの交流を基軸におきながら、野外活動や自然環境に関する専門知識を有する学内・学外の人との連携をより深め、これまでの活動を通して保護者の皆様から頂いたご意見にも配慮しつつ、学生が主体的に関われる子どもたちの支援が行えるようなプログラムの充実を図っていきます。

4. 学生企画事業

これまで参加してくれた団体や新たな団体・グループなど、参加を希望する学生の募集をより広く行い、学生たちがその特色を生かした活動がしやすい環境を整えていきます。対象地域を限定せず、拡大していくことも予定しています。活動推進に当たっては、広報の仕方を工夫してより多くの方に知っていただくように努めること、団体・グループを直接指導している本学教職員とプロジェクト委員会との連携を一層密にして学生の指導に万全を期すことに配慮していきます。

5. 可動式プラネタリウムの導入

本年2月に開催された交流イベントで大人気を博した可動式プラネタリウムを活用し、被災した地域の子どもたちを元気づけていきたいと思っています。小さなドームの中で、子どもたちの夢を育み、交流の輪を広げることを目指して、プロジェクトで購入した備品を生かしていきます。機材の設置場所や操作できる人材の養成、開催経費の問題など解決しなければならない課題も多くありますが、地域のご要望にできるだけ応えていくつもりです。

協力団体・協力者一覧（敬称略、順不同）

七ヶ浜町教育委員会

七ヶ浜町生涯学習センター
七ヶ浜町立汐見小学校
七ヶ浜町立松ヶ浜小学校

塩竈市教育委員会

塩竈市立第一小学校
塩竈市立第三小学校
塩竈市立杉の入小学校
塩竈市立浦戸第二小学校
塩竈市適応指導教室 けやき教室

南三陸町教育委員会

南三陸町立戸倉小学校
南三陸町立伊里前小学校
南三陸町立名足小学校

宮城県志津川高等学校

南三陸町中瀬町仮設住宅

南三陸ポータルセンター

仙台市教育委員会

仙台市立七郷中学校

仙台市七郷市民センター

仙台市七郷児童館

山元町こどもセンター

名取市教育委員会

名取市社会福祉協議会

株式会社河北新報社

宮城県教育委員会

塩竈市産業環境部浦戸振興課

浦戸諸島開発総合センター

日本私立学校振興・共済事業団

飯塚直人 一般社団法人荒井タウンマネジメント
越路明美 仙台市立桜丘小学校
宮城豊彦 浦戸フェリー（東北学院大学）
津田安廣 野々島自然塾
鈴木正徳 野々島自然塾
長谷川雅淑 野々島自然塾
津田恵美子 野々島自然塾
西川信男 塩竈市浦戸野々島
遠藤勝 塩竈市浦戸野々島
鈴木朝子 塩竈市浦戸野々島
三品茂子 野々島ラベンダー jk & b
伊藤俊彦 野々島感動支援隊
佐藤吉輝 情報のあんこ
鈴木一誓 情報のあんこ
千葉浩介 東北重機工事株式会社
鈴木雅博 株式会社くろしお
山本和久 株式会社くろしお
高橋英夫 アクアミューズ株式会社
秋山治 アクアミューズ株式会社
中嶋嘉津子 仙台市ほほえみの会
岡山環 仙台市ほほえみの会
遠藤智恵美 本学卒業生
小滝詩乃 本学卒業生
大山尚人 本学卒業生
阿部久樹 本学卒業生

平成 28 年度参加学生一覧

I. セケ浜での活動

H28 サマースクール参加学生名簿 (117 名)

青沼 智香	飯塚かすみ	笠原由加里	神谷 香那	菊池 陽実	杳掛 真実	齋藤 瑞穂
佐藤 広果	佐藤 由依	佐藤 侑志	佐藤 利咲	芳賀 健顕	早坂香保美	播磨 未帆
宮城 夏実	村上さつき	山崎 義高	渡邊美奈穂	阿部 玉恵	板倉 澄侃	伊藤 瑞希
岩瀬 光里	太田 悠景	大場さつき	小笠原史乃	小沼 琴	角張 紗和	蔵本 拓真
後藤 愛	小林 晃子	齋藤あかり	齋藤 沙良	齋藤なつみ	佐々木 栞	佐々木美瑞保
佐藤 志帆	佐藤 那菜	佐藤 正規	佐藤まりあ	鮫ノ口絢香	鈴木 春花	千葉 航平
中川 映美	藤川 夏実	本田 柊馬	松口 芽生	宮川 真大	村山 優衣	横田 圭祐
渡邊 祐貴	阿部花保奈	網塚ゆり夏	池澤 瞳子	石橋 幸奈	伊勢 一真	伊藤 千夏
伊藤 仁美	伊藤 麗央	糸屋 陽	猪苗代悠介	衣袋 理佳	氏家 夏月	梅野 佑里
越後 菜結	大木 佳奈	太田 智也	小川 紗矢	小野嘉寿真	小野 優果	小野寺香里
柏谷美津希	粕谷 桃花	菅野 美晴	清川 知美	齋藤 香澄	佐々木康史郎	佐藤のどか
佐藤 日向	庄司 千夏	鈴木さくら	鈴木 そら	須藤 結	岳 結香	仙台 春海
高根沢優花	高橋 早紀	高橋 泰葉	武田 茜里	只木つかさ	田中 咲	田中日奈子
田中 優	田畑 樹	東海林 恵	富樫 幸美	中村 明稔	芳賀 麻未	橋本 桃佳
松縄 真帆	丸山佳奈子	村上その子	村上和香奈	門間 美季	山崎 友菜	山田菜々子
渡邊 海帆	渡邊 航平	渡邊 里沙	木村 杏伽	大崎はづき	佐藤 朱音	飯野 広大
佐藤 薫	渡邊 咲智	水野 咲良	久慈加那子	鈴木 楓華		

H28 サマーフェスティバル参加学生名簿 (146 名)

矢内 裕樹	山本 若菜	村上日菜子	矢部 彩香	鈴木ちづる	青沼 智香	神谷 香那
川村なつみ	杳掛 真実	小玉江李佳	佐藤 利咲	沼澤 悠奈	村上さつき	森内 悠斗
板倉 澄侃	桂島 優希	齋藤なつみ	佐藤 那菜	佐藤 正規	千葉 航平	中野 鈴夏
松口 芽生	丸山佳帆子	横田 圭祐	佐藤 汐莉	古川 夏帆	早川 慶	小山 遙佳
伊藤 瑞希	佐藤 奈々	田淵 由奇	千葉 志保	宮城 夏実	笠原由加里	大平 優
熱海 里佳	飯塚かすみ	遠藤 汐莉	大泉 大洋	大槻慎太郎	今藤 誠啓	鈴木 歌歩
高倉 美祐	高橋 恭祐	藤森 理那	星川 志侑	山崎 義高	伊藤 壮汰	佐藤まりあ
蔵本 拓真	中川 映美	鈴木 春花	角張 紗和	佐々木 栞	鮫ノ口絢香	小林 晃子
後藤 愛	小笠原史乃	岩瀬 光里	小田 祥子	吉田 里穂	中村 明稔	粕谷 桃花
安海 桑也	山崎 友菜	渡辺 萌美	和泉さくら	岩間 仁	岩本 大己	小野寺 優
木村 葵	今野 大輝	齋藤 優花	佐藤 圭祐	佐藤 志帆	武田 光平	武田 拓真
橋本 樹	半田 真幹	矢萩 華奈	菊池 陽実	金 優貴子	佐藤 双葉	佐藤未沙季
廣谷 敦子	宮崎 聖也	尾形 彬	佐藤 唯奈	中野 美緒	廣田 舞花	八島 美夏
小松 裕貴	渡邊 祐貴	木村 公	帷子 桃華	佐藤佳穂子	佐藤 友紀	寶満 優依
小泉 遥菜	山内 修平	佐藤愛結花	本田 柊馬	菊池 海里	阿部 今美	斎藤 莉奈
上村遼太郎	杉山 時雨	関根 絵美	渡辺 友基	松井 結大	角田 翔	石割真愛弥
大塚 聖菜	今野 珠穂	佐藤 広果	久慈加那子	小沼 琴	佐藤 竜之	丹野 栞里
野家菜希沙	村山 優衣	渡邊 果智	千葉萌々子	川村 悠	高橋佳南穂	古舘 花菜
安田 早苗	伊藤ほのか	加治原由菜	北嶋 優帆	佐藤 朱音	佐藤 薫	阿部 拓哉
大場さつき	中村 仁美	水野 咲良	渡邊 咲智	渡會 伊吹	奥山 ゆか	柏谷 啓友
西澤 祐太	町田 美桜	西塚 智	藤原 優美	日下 栞	飯野 広大	

II. 野々島プロジェクト (85 名)

岩渕 浩典	菅藤 朋奈	佐藤 誉	四戸 賢吾	庄子 妙	鈴木 早紀	鈴木 若菜
高松 宏	丹野 優奈	福田 あみ	細谷真悠香	三田 萌実	宮下 佳奈	依田 愛梨
高原奈津希	伊藤 栞	伊藤 愛菜	菅野 華加	櫻井 結菜	佐々木なつみ	佐藤 未来
柴崎 葵	菅原 茜	鈴木 萌衣	鈴木 里菜	瀬島あゆみ	高橋 初実	畠山 茜
坂内 美穂	室井真優香	秋保 良喜	阿部 史華	石川 健太	遠藤 郁	佐藤 真由
菅原悠里江	松岡 杏奈	水戸 遥	若松 苑実	松浦 光琴	伊藤 綾香	山内 葵
長谷川明里	遠藤 由貴	中澤 夏緒	川村 友登	斎藤 愛香	佐藤 優樹	高内 純一
望月 麻未	三浦 翔平	千葉 隼介	斉藤 和美	中澤 琴乃	関根 夏穂	佐々木美方
荒井 楓	佐藤 莉奈	塚辺みのり	熊谷ほのか	村上陽伊呂	大槻 恭	鈴木 拓海
穴戸 泰紀	河村 大	鈴木 菜々	荒川 花	渡辺 美穂	金子 大	吉田 靖耶
佐々木康彦	佐々木捷吾	金 信太郎	石川 康平	山内 陽	大場千夏子	今野 七海
高橋 佑昌	高橋 晴夏	池田ひろか	菊池 昌絵	高田 尚子	照井 成美	高泉 晴夏
高橋佳太郎						

III. 学生企画事業 8 団体学生名簿 (順不同)

ステーションキャンパスクラブ (12 名)

佐々木捷吾	山口 真次	近内 愛美	平井 維子	村上陽伊呂	渡辺 夏子	阿久津飛翔
猪俣 奈美	佐久間玲那	高木 玲衣	高橋 隼人	高橋 千歳		

三浦ゼミ (29 名)

草野 菜実	千葉 望花	熊谷 佳奈	佐藤梓歩子	佐藤 由依	佐藤和佳奈	白石みおり
高橋 侑里	田中 千智	成富 嶺花	芳賀 健顕	早坂香保美	藤原 小町	村岡 夏実
吉田美菜子	和泉さくら	岩間 仁	岩本 大己	小野寺 優	木村 葵	今野 大輝
齋藤 優花	佐藤 圭祐	佐藤 志帆	武田 光平	武田 拓真	橋本 樹	半田 真幹
矢萩 華奈						

森ゼミ (20 名)

布川 諒	漆山 達哉	小野 真澄	目黒 翔也	小泉 佑季	菅野 歩美	佐藤しおり
本郷 理紗	阿部 巧	及川 大貴	高橋 直也	高橋 和也	高橋 峻太	丹野 隼斗
高山 周	台野 秀	柏 未夢	熊谷 咲希	高橋まりこ	小坂 歩未	

萩野ゼミ (16 名)

沼田 直之	大内友之介	高倉 美奈	平塚 大貴	矢口 英典	小野寺 朔	鈴木 結貴
渥美 亜星	阿部 訓和	新川 綾菜	伊藤 将	稲毛 渉	入小 辰哉	菅原 佳朗
鈴木 菖	鈴木 円					

Team Bousaisi (12 名)

猪俣 航平	大久保未咲	小笠原瑠亮	佐藤 貴亮	佐藤 祐太	中野渡昂貴	芳賀 樹也
松岡みず希	松本 夏実	三浦 貴裕	吉成 仁紀	渡辺恵梨奈		

船渡ゼミ（10 名）

會田 恵美	秋野 円香	岩渕実可子	大谷 麻綺	柏谷 真里	佐々木夏鈴	佐藤 泉妃
高橋由梨香	星 恭子	川畑 茉鈴				

渡会ゼミ（33 名）

尾形 彬	小野寺優花	佐藤 唯奈	中野 美緒	中村 祐登	原田 利歩	廣田 舞花
深沼 幸恵	藤田 早奈	八島 美夏	小野寺碧美	河上 奈央	菊地恵梨子	金 優貴子
佐藤 双葉	佐藤未沙季	佐藤 佑美	田上真奈美	千葉 眞衣	廣谷 敦子	宮崎 聖也
村田 蒼映	東谷 優香	小山田泰崇	柿崎 美里	加藤さと子	木村 碧	小泉 舞
富樫 真鈴	吉泉 和	渡邊 美紗	佐藤 美佳	三橋 亜未		

ふぁみりあ（18 名）

及川 大貴	力丸 美里	横山 友香	阿部 巧	熊谷 古京	阿部 僚太	田中 亜優
板宮 諒	佐々木美瑞保	目黒 翔也	鈴木聡一朗	熱海 里佳	山本 優実	阿部 敢太
須藤 貴士	林倫 花子	丹野 佑香	坪沼 花			

IV. その他の事業**七郷中学校「防災マップづくり」支援活動（13 名）**

小鴨 尚平	佐藤 史弥	川村 憲史	鈴木 椎磨	青木 仁美	富米 七緒	阿部 純平
武田 拓真	熊谷 健吾	小林 茉央	千葉 睦実	糸屋 陽	虻川 佳織	

JR 常磐線運転再開記念イベント in こどもセンター（7 名）

古山 瑞稀	太田 奈緒	寺嶋 葵	加藤有姫乃	柴山 哲	生田目 祥	飛田 悟志
-------	-------	------	-------	------	-------	-------

子ども支援プロジェクト交流イベント（49 名）

斎藤 愛香	佐藤 優樹	高内 純一	望月 麻未	大槻 恭	穴戸 泰紀	佐藤 真由
鈴木 菜々	松浦 光琴	水戸 遥	阿久津飛翔	村上陽伊呂	真壁 啓太	上村有香理
秋葉 靖之	高橋 和也	丹野 隼斗	高橋まりこ	台野 秀	遠藤明日香	佐藤 里香
林 美里	熊谷 咲希	高田 真佑	小坂 歩未	布川 諒	後藤 愛	藏本 拓真
立石 千咲	太田 悠景	小笠原史乃	飯塚かすみ	伊藤 壮太	遠藤 汐莉	大泉 大洋
大槻慎太郎	今藤 誠啓	鈴木 歌歩	高倉 美祐	高橋 恭祐	藤森 理那	渡邊美奈穂
小野 瑞希	田幡 陽輔	八木田 僚	紺野 桃子	松本 夏実	手島 悠那	中野渡昂貴

延べ 567 名 順不同

資 料

平成 26 ～ 28 年度 子ども支援プロジェクト決算

七ヶ浜町での活動

項 目	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算
備品（少額備品を含む）	603,374	682,992	0
印刷製本	540,000	0	0
旅費・交通費（貸切バス含む）	437,180	919,300	773,380
謝金	44,548	0	0
活動費	1,041,528	664,489	503,213
合計	2,666,630	2,266,781	1,276,593

野々島のプロジェクト

項 目	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算
備品（少額備品を含む）	1,261,824	1,874,878	700,198
印刷製本	0	0	0
旅費・交通費	400,760	380,880	229,520
謝金	97,710	44,548	77,959
活動費	1,155,467	1,410,841	1,652,481
合計	2,915,761	3,711,147	2,660,158

学生企画事業

項 目	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算
旅費・交通費（貸切バス含む）	280,508	331,130	294,524
活動費	675,509	1,375,247	1,094,920
備品（少額備品を含む）	72,566	0	0
合計	1,028,583	1,706,377	1,389,444

共通経費

項 目	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算
備品（少額備品を含む）	0	3,532,821	1,360,000
印刷製本	0	1,296,000	2,656,800
旅費・交通費	0	97,220	45,020
その他経費	0	626,515	289,757
交流イベント	0	0	731,994
合計	0	5,552,556	5,083,571

総合計

	平成 26 年度決算	平成 26 年度決算	平成 28 年度決算
総合計	6,610,974	13,236,861	10,409,766

東北福祉大学子ども支援プロジェクト基金規程

（目的）

第1条 この規定は、東北福祉大学子ども支援プロジェクト（以下支援プロジェクトとする）の資金面での円滑な業務遂行を図ることを目的とする。また、支援プロジェクトの活動面の円滑化については、平成26年5月1日施行の子ども支援プロジェクト推進委員会規程に従い進められる。

（位置付け、名称）

第2条 支援プロジェクトの活動資金は、株式会社ディスクガレージからの受配者指定寄付金を充てる。本学ではこの受配者指定寄付金を、東北福祉大学子ども支援プロジェクト基金（以下基金とする）として受け入れ、取崩して使用する。

（使途の範囲）

第3条 基金から支出する経費の範囲は、支援プロジェクトに直接必要な人件費・教育研究経費・施設設備とし、管理経費への支出は行わない。なお、当該基金により購入した施設設備は、学校法人の所有に属する。

（基金の管理金融機関、口座名義、貸借対照表上の取り扱い）

第4条 基金は七十七銀行八幡町支店に普通預金口座を作成して管理する。口座名義は東北福祉大学子ども支援プロジェクト基金とする。なお、当該口座は、流動資産の現金預金として取り扱う。

（基金の使用）

第5条 基金の使用に関する事務処理は、本学経理規程及び旅費規程等に従って行う。

附則 この規定は平成27年1月20日より施行する。

平成 28 年度 東北福祉大学 子ども支援プロジェクト活動報告書

編集・発行 東北福祉大学 子ども支援プロジェクト推進委員会

〒 981-8522 宮城県仙台市青葉区国見 1 丁目 8 番 1 号

事務局 東北福祉大学 社会貢献・地域連携センター 生涯学習支援室

TEL：022-380-1067

ホームページ：<http://www.tfu.ac.jp/index.html>